

牧羊者

巻頭言

老人と子ども

小松島栄光教会

岩田 扶美 二



少子高齢化と申します。政治や行政に当たっている人々にとっては、対処すべき問題であり、一般の人にとっても無関心でいられないかも知れません。しかし、私たち教会を預かる者として、また全能にして愛に満ちている神様を信じる者として、この現象をむしろ感謝すべきものとして受け取り、この時代に全能者が何をしようとしておられるかを考えてみたいと思います。そこで、長年にわたってキリストを信じ続け、老境に達しておられる方々に、「あなたの曾孫さんのことをどう思いますか」と尋ねてみました。その結果、一様に返ってきた答えは、「メッチャ可愛い。可愛いすぎる」ということでした。「具体的にこのように可愛いですが」と再質問すると、ある人は、その所作が可愛いと言った。別の人は、今まで家にいた曾孫が保育所に通うようになって、帰宅すると、大人の言葉を使っている、一日の出来事を適切に、しかも子どもらしいさを失わないで報告してくれるという。さらに、もう一人の人は病院に長期入院中ですが、ある日のこと、若い孫が幼い曾孫を二人連れて見舞いに来ました。毎日病院食ではと思って、ご馳走をいっぱい作って持ってきました。と言ってもお婆さんがそんなに沢山食べられないわけはありません。そういうことは慎まねばならないことでしょうが、大半は孫と曾孫が食べて、「ひいばあ、ながいきしてね」と言って帰って行きました。三階の廊下の窓から見送ったお婆ちゃんは、涙が止まらなかったということです。「こういう家族関係がある限り、少子高齢化、何のそのです。聖書の中には、もっと凄うことが書いてあります。さばきつかさがイスラエルの国を治めます。

いた頃、神の力の発現は何回もあったものの、神のきよさに思いをはせることが少なく、シロで神の宮をとりしきっていた祭司エリは、世の不敬虔な風潮の影響を受けて、子どもの教育に手ぬかりがあつて、人々の信頼を失いかけていました。そのような環境の中に連れて来られたのが、祈りの母によって育てられた童サムエルです。彼は、神聖なる場所における起き伏しのなかで、「サムエルよ、サムエルよ」と呼ぶ声を聞いて、夜中トコトコと歩いてエリの部屋の前に立ちましたが、エリにさとされて部屋に帰りました。三度目になつてはじめて、「これは神様が呼んでいるのではないかと気づいたエリが、今度は呼ばれたら、『しもへは聞きます。主よ、お話し下さい』と答えなさい」と教えました。何という価値のある言葉ではありませんか。この老人は父親としては失格者でしたが、「主の言葉はまれで、黙示も常でない」（サムエル上3:1）という時代に、自分の血筋を引いていない、しかも年端も行かない子どもに、神の声を聞くことを教えたということは、背後にいます方のお導きというほかはありません。時代はさらにさかのぼって、イスラエルの民がエジプトでの苦役に苦しんでいた頃、パロの厳しくも過酷な命令に反して神より授かった幼な子をかくまい、隠しおおせないと知ると、かごに入れてナイル川に流し、結果として敵の陣営にある人に委ねたモーセの両親、その底にあったものは、全能の神に対する絶対の信仰でありました。「わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である」（ヨハネ第一の手紙5・4）

目次

巻頭言

1

教師養成講座 新約聖書丸ごと早わかり (2)

3

二〇〇六年度カリキュラム解説

8

神の子

《一月教案》

9

たとえ話

《二月教案》

29

十字架への道 《三月教案》

45

牧羊ひろば

(名谷教会)

61

おわりに

62

教師養成講座

新約聖書丸ごと早わかり(2)

工藤 弘雄

パウロ書簡を理解する

新約聖書の21の書簡のうち13はパウロによって書かれ、「パウロ書簡」と呼ばれています。パウロは伝道旅行中、テサロニケ、ガラテヤ、コリントそしてローマの教会に手紙を書きました。またローマの獄中で、エペソ、コロサイ、ピリピの教会、そしてピレモンに書いた手紙は「獄中書簡」呼ばれています。彼の晩年、「牧会書簡」と呼ばれるテモテに対しての二つ、テトスに対しての一つの手紙を書きました。

パウロはタルソで、ユダヤ人の家に誕生。若い時にギリシャ的教養を十分身につけました。また、エルサレムでパリサイ人の偉大な教師ガマリエルの門下で学んだ熱烈なユダヤ教徒でした。クリスチャン迫害のためダマスコ途上、復活の主と真正面から出会い回心。劇的な回心後、アラビアに退き主と交わり3年間。その後、世界的な偉大な宣教師になったのです。3回の伝道旅行によって多くの教会を設立し、また手紙を書きました。

パウロはエルサレムで暴徒に襲われた時、市民権を行使して、カイザルに上告するためローマへの長途の旅をしました。ローマ的、ギリシャ的、ヘブル的背景を持つ彼は、救われる以前から世界宣教師として備えられていたのです。幾多の犠牲と苦難に満ちた生涯の後、伝承によれば、ローマで斬首。その死体は地下墓地に葬られたとのことです。

ローマ人への手紙を理解する

- 1、主題
恵みのみ、信仰のみによるイエス・キリストの偉大な救いです。
- 2、ローマ書の特徴
本書は手紙の形式をとった福音の一大論文です。義認、聖化、栄化のキリストの救い、全人類に及ぶ神の救いの偉大な計画、キリスト者生活などが組織的に記されています。
- 3、ローマ教会
過越祭に来てペンテコステ時に回心したローマからの来訪者たちが福音を携えて帰り、教会を建設。会員はユダヤ人、異邦人の両者から構成されていたと思われます。
- 4、執筆の年代と場所
第3回伝道旅行の折、コリントのガイオの家から発送。(16・23) 時は紀元56年頃でした。
- 5、梗概

①福音の序説(1・1～17)

- ②人類の罪(1・18～3・20) 異邦人の罪。ユダヤ人の罪。全人類の罪。
- ③義認論(3・21～5・21)
- ④聖化論(6・1～8・17)
- ⑤栄化論(8・18～8・39)
- ⑥ユダヤ人問題と全人類に及ぶ神の救いの計画(9・1～11・36)
- ⑦クリスチャンの実際生活(12・1～15・33)

⑧終りのあいさつ(16・1～16・27)

内村鑑三はローマ書を福音の大邸宅にたとえました。表玄関は福音の序説、本館は三館。第1本館の第1号室は罪惡論、第2号室は義認論、第3号室は聖化論、第4号室は栄化論です。第2本館は、ユダヤ人問題、選民・異邦人に及ぶ救いの大計画です。第3本館は、キリスト者の實際的生活のすすめです。そして、裏玄関が終りの挨拶となります。

コリント人への第一の手紙を理解する

- 1、コリント市とは
コリントはギリシャのアカヤ州の首都、エーゲ海に面する港町、交通の要衝の町、人口60万人を要する大都市で、ギリシャ随一の「虚栄の都」を形成していました。「コリント人のように振舞う」とは、不品行を行うことを意味したほどでした。
- 2、コリント教会とパウロ
パウロは第2次伝道旅行の時、マケドニアで伝道が進み、使徒行伝18章に入り、一年半、腰を据えてコリントで伝道しました。その後、再三手紙を送り教会を指導しています。
- 3、執筆の事情
創立者パウロがコリントを去った後、教会内に様々な問題が起きました。偽りの教師たちの侵入、肉的な信徒たちのグループ化、道徳的な退廃の侵入などです。教会は様々な形でパウロに助言を求めましたが、それに答えて書かれたのがコリント書です。
- 4、執筆の年代と場所
第1書はエペソにおいて書かれました(16・8)。第3次伝道旅行の時、エペソ滞在3年の終り頃(使徒

徒19・20～31)、時は紀元56年か57年の春かと思われます。

5、本書の特色

ローマ書と対照的にコリント書は様々な教会の問題を並列的に叙述しています。分派、近親相姦、信者の訴訟、偶像問題、婦人のかぶり物、御霊の賜物、異言、復活、貧しい聖徒への献金など、問題は多岐にわたっています。

6、主題

様々の問題のゆえ、「何事をするにも、すべて神の栄光のため」(10・31)。

7、梗概

- ①序言(1・1～9)
- ②教会内の分派(1・10～4・21)
- ③教会内の混乱(5・1～6・20)
- ④結婚の問題(7・1～40)
- ⑤偶像にささげる肉に関する問題(8・1～11・1)
- ⑥公の礼拝における問題(11・2～34)
- ⑦御霊の賜物について(12・1～14・40)
- ⑧「最も優れた賜物―愛―」(13・1～13)
- ⑨復活の問題(15・1～58)
- ⑩結びのことは(16・1～24)

コリント人への第二の手紙を理解する

1、執筆の時と場所

前、後書の間の隔たりが数ヶ月であれば57年の秋頃か。ピリピからでしょうか。

2、執筆の事情

前書後、愛弟子テモテを派遣(1コリント16・10)。しかし、問題は依然未解決。そこでパウロ自身の短期訪問後、一通の「涙の手紙」を書き(2・4)、

テトスから大部分の人が悔い改めたという良い知らせを聞きます(7・8、9)。しかし、少数の悔い改めない者に次の訪問の時までに悔い改めるようにこの手紙を書きました。ですから前半は悔い改めたことを喜ぶ語調、後半は厳しい語調となっています。

3、本書の特徴

パウロの喜びと愛、感謝と怒り、苦しみと慰め、謙遜と高慢、自己主張と自己放棄、心配と希望などの錯綜した感情が見られます。時に文脈の飛躍、文章の断絶もあります。「胸も張り裂けんばかりの悲痛の叫び」(バークレー)を本書に聞きます。

パウロへの批判と非難を中島彰師は記します。

- ①気まぐれ者(1・15～18)
 - ②信仰の高慢者(1・24)
 - ③自己推薦の自己吹聴者(3・1、2、5・12)
 - ④教え方の曖昧(4・2)
 - ⑤金銭上怪しく疑わしい(8・20、21、12・15～18)
 - ⑥弁舌はまずしく、話しぶりはなっていない(10・10、11・16)
 - ⑦外見は弱々しく容貌は醜い(10・10、12・7)
 - ⑧使徒権は疑わしい(11・5、12・11、12)
- このように今日、パウロほどにボロクソに言われる牧師はいるでしょうか。
- 4、主題
「人間の弱さと神の力」「わたしの恵みはあなたに対して十分である」(12・9)。
- ①序言(1・1～11)
 - ②パウロの自己弁明と罪を犯した者への態度(1・

- 12～2・13)
- ③使徒職の光栄とその働き(3・1～6・10)
- ④パウロの勧めと喜び(6・11～7・16)
- ⑤貧しい聖徒たち、とくにエルサレム教会への献金(8・1～9・15)
- ⑥パウロの使徒権の弁明(10・1～12・18)
- ⑦結びのことは(12・19～13・13)

ガラテヤ人への手紙を理解する

1、ガラテヤ書の重要性

キリスト教をユダヤ教と分離させ、世界宗教とさせた原動力はガラテヤ書にありました。ガラテヤ書は、いつの時代でも教会を正しく導く「福音の羅針盤」でもありました。

2、ガラテヤ書の中心メッセージ

信仰のみによる救い、律法からの解放、磔殺^{たくさ}2・20、5・24、6・14」と聖霊による新創造。

3、ガラテヤ書はいつ、どこで書かれたか
二説があります。北方のガラテヤと取るか、ローマの行政区でいう南方のガラテヤか。北方説を取ると、第3次伝道旅行中に執筆。南方説を取ると、49年頃開かれたエルサレム会議の後か。その前との説もあります。執筆場所は、アンテオケ。

4、執筆の事情

モーセ律法や儀式を重んじる「異なった福音」の侵入により純信仰が崩されたガラテヤ教会を痛み、憂えたパウロはこの手紙を書きました。

5、ガラテヤ書の特徴

鋭い語調、緊迫感、多角的な議論、多くの旧約聖書引用、多彩な比喩的表現などです。

6、梗概

- ①あいさつ―福音の基盤(1・1～5)

②自伝的弁証(1・6～2・21) 教会の深刻な事態。パウロの回心と召命。回心後の宣教とエルサレム教会訪問。ペテロとパウロの衝突と義認・聖化の福音。
③教理的弁証(3・1～4・31) アブラハムの信仰。約束の宗教。信仰の時代の到来。かつては奴隸、今は神の子。キリストの形なるまで。女奴隸の子と自由の女の子。
④実践的弁証(5・1～6・18) キリスト者の自由。御霊による歩み。キリスト者相互の助け合い。詩くことと刈り取ることの原理。福音の大文字。キリスト者の新創造。

エペソ人への手紙を理解する

- 1、書かれたときと場所
ローマの獄中からの書簡。執筆の年代は、61年か62年頃。
2、あて先
云うまでもなくエペソ教会、あるいはエペソを中心とする回覧の手紙です。
3、エペソ書の執筆事情と特色
コロサイ教会に異端が侵入し混乱。その周囲のアジアの教会にも波及することを恐れ執筆したものだと思われまゝ。冷たく陰鬱な牢獄から記された霊調高き「手紙の女王」です。
4、主題
「キリストの花嫁なる教会」。教会の召し、歩み、戦いが記されています。
5、エペソ書をひもとく鍵の言葉と思想
①「天のところ」(1・3、20、2・6、3・10、6・12)
②教会の四つのひながた「キリストの体」(1・23、

- 3・6)「神の宮」(2・19、22)「キリストの花嫁」(5・32)「神の軍隊」(6・11、13)
③三位の神の働き
④神の偉大な働き「引き上げる力」(1・19、20、2・1)「張り上げる力」(3・7)「内に働く力」(3・16)「立ち向う力」(6・10、11)
⑤重要な三つの動詞「座す」「天のところに」「(1・20、2・7)「歩む」「召しに従って」(4・1、4・17、5・2、5・8、5・15)「立ち向う」「悪魔に對して」(6・11、13、14)
6、梗概
①教会の召し(1・1～3・21) 救いの讃歌、引き上げ、近づけ、拡大する救い。
②教会の歩み(4・1～6・9) キリスト者の教会生活、個人生活、家庭と社会生活。
③教会の戦闘(6・10～6・24) 天上におけるキリスト者の霊の戦い。

ピリピ人への手紙を理解する

- 1、ピリピ教会の成立
発端は、エルサレム会議の後、パウロが「さあ」と呼びかけます(使徒15・36)。第1次伝道旅行は聖霊ご自身が、「さあ」と呼びかけられました。(使徒13・1、2)パウロたちは御霊に行く先を禁じられ、アジアの西の果てトロアスへ。そこで、マケドニアの叫びを聞き、福音はヨーロッパ(マケドニア)へ。最初の町ピリピで伝道。牢獄の監守と家族全員も救われ、ピリピ教会は成立しました。
2、執筆の動機
ピリピ教会からの賜物への感謝と一致を強く勧め、律法主義への警戒をも込めて執筆されました。

- 3、執筆の場所と年代
ローマの獄中から。ピリピ伝道後約10年して、紀元61年頃この手紙は書かれました。
4、主題

- 「生きることはキリスト」(1・21)。内住のキリストの体験的な証し。
5、ピリピ書の特徴
個人的、体験的な手紙。はからずも飛び出すパウロの証しは魅力的。パウロの愛情が満ちた「愛情書簡」。罪とか言う言葉は一つも発見できません。文句なく「喜びの書簡」。合計16回「喜び」の文字。さらに、交わり(コイノニア)も豊かで、「キリストにありて」、「主にあって」が頻繁に出ます。福音(ユーアンゲリオン)の祝福も豊かです。
6、梗概
①感謝と祈り(1・1～11)
②パウロの身辺の事情と福音の前進(1・12～26) 投獄の結果。福音宣教の動機。パウロの死生観。
③勧めと模範(1・27～2・30) 福音にふさわしい生活。一致のすすめ。キリストの謙遜の模範。パウロの模範。テモテの模範。エパフロデトの模範。
④警告とキリスト獲得(3・1～21) 律法主義に対する警告。絶大な価値キリストへのあくなき追求。反律法主義に対する警告。
⑤終わりの勧め(4・1～23) 一致の勧め。一般的勧め。贈り物への感謝。結びの言葉。
コロサイ人への手紙を理解する
1、執筆の場所と時
ローマの獄中から、紀元61年頃書かれました。
2、執筆の事情

コロサイ教会にグノーシス主義を背景に様々な異端が入ってきました。エパfrasはこの問題の処理にパウロを訪問し相談しました(1・7、8)。パウロはこの手紙を書き、テキコにもたせてコロサイに送りました。

3、コロサイ教会とは

パウロがこの教会を築いたというより、パウロに代って派遣されたエパfras(1・7)により建てあげられたと見る事ができます。ピレモンはこの教会の重要な会員でした。

4、コロサイ書の特徴

グノーシス主義は霊は善、物質は悪という二元論です。物質は悪ゆえに万物の創造は最高神よりも一段と低い造物者(デミウルゴス)によることです。肉体を持った人間は直接神と交わることができず御使いの仲介が必要であるとしています。これに対しパウロはキリストこそ万物の創造者、保持者。教会のかしら、真の神、唯一の仲保者、知恵と知識の宝はこのお方に隠されているというのです。

5、主題

「神の奥義なるキリスト」(2・2)。

6、梗概

- ①入信のロマンス(1・1～8)
- ②成長の神秘(1・9～14)
- ③御子の奥義(1・15～23)
- ④キリストのしもべの秘訣(1・24～29)
- ⑤神の奥義、キリストの知識(2・1～23)
- ⑥奥義の知識の実生活(3・1～4・6)
- ⑦結び(4・7～18)

テサロニケ人への第一の手紙を理解する

- 1、テサロニケ教会とは
教会設立の事情は使徒行伝17章に。テサロニケはマケドニア州の首都、ローマ総督が駐屯する政治的重要都市。国の東西を結ぶ街道のある交通の要衝の地でした。
2、執筆の事情
執筆目的は、試練の中で堅く信仰に立つ信徒への感謝と励まし、さらにキリストの再臨に関しての正しい理解を与えるためでした。
3、執筆の場所と時
恐らくパウロのギリント滞在中。ギリント伝道の初期執筆と思われるので、50年か51年に書かれたことにほぼ間違いありません。新約聖書中最も早くに書かれた手紙の一つです。
4、主題と特徴

「きよめと再臨」。ピリピ書と同じく、この手紙には叱責の言葉は見あたりません。パウロは最大の愛情をこの手紙に表現しています。一般的にマケドニア書簡と呼ばれるピリピ書、テサロニケ前後書は、「愛情書簡」とも呼ばれています。

5、梗概

- ①テサロニケにおける福音の前進(1・1～10)
- ②テサロニケにおける使徒パウロの宣教(2・1～16)
- ③使徒と教会の交わり(2・17～3・13)
- ④聖い生活に関するすすめ(4・1～12)
- ⑤再臨に関するすすめ(4・13～5・22) 再臨の栄光の出来事。再臨を待つ昼の子たち。
- ⑥聖めの成就のための祈りと挨拶(5・23～28)

テサロニケ人への第二の手紙を理解する

1、執筆の年代

- 第一の手紙が書かれた数ヶ月後でしょう。
2、執筆の場所
第一の手紙同様ギリントで。
3、執筆の事情
前書の執筆後間もなく新しい事態が生じました。ある者たちは主の日がすでに来たと考えたり、世の終わりは近いと考え、働くことをやめ、落ち着かない生活を送っていました。(3・11)パウロは誤りを正し、怠惰な者への警告としてこの手紙を書いたのです。
4、主題
不法の者の出現と滅亡(2・8)。
5、梗概

- ①感謝と励まし(1・1～12)
- ②主の日についての教え(2・1～17) 主の日の時期。背教者と不法の者の出現とさばき。信じる者に対する救いと栄光。
③祈りと勧め(3・1～18)

テモテへの第一の手紙を理解する

テモテとテトスへの手紙は、教会に対する牧会的配慮や、監督や執事たちの資格を取り扱っていることから「牧会書簡」と呼ばれています。

1、テモテという人物

小アジアのルステラの人。パウロの第1回伝道旅行時に入信。その後の伝道旅行、ローマの獄中にパウロと同行。パウロ釈放後エペソ教会。伝承によれば監督となり、後に殉教。母はユニケ、祖母ロイスは共に敬虔なクリスチャン。パウロに代わって諸教会を問安。信仰によるパウロの真実な子テモテ。テモテも子に對するように、パウロと一緒に福音に仕えました。

2、この手紙が書かれた時と場所

パウロがローマの獄中からいったん釈放されたのは61年以後。数年伝道旅行をし、ネロの時代に殉教。執筆年代は早ければ63年頃、遅ければ65年頃。執筆場所はマケドニアと思われる。

3、この手紙の書かれた事情

エペソの教会には「違った教え」(1・3)が侵入、信仰の破船者、背教者もでした。そこでこの手紙を書き、年も若く経験も浅いテモテを励まし、牧会に関する種々の注意を与えたのです。

4、この手紙の特色

牧会に関わる様々な教えが記された「牧会書簡」です。特に監督や執事の資格、資質について実に具体的に記されています。

5、主題

「清い心と正しい良心と偽りのない信仰とから出てくる愛」(1・5)。

6、梗概

- ①テモテに対する勧め(1・1～20)
- ②礼拝についての教え(2・1～15)
- ③牧会者の資格について(3・1～16) 監督、執事、教会の性格について。
- ④危険な教えについて(4・1～16)
- ⑤牧会者の心得(5・1～6・21) 全教会員、やもめ、長老、奴隸、異端、金銭、神の人テモテ自身、富んでいる者について。

テモテへの第二の手紙を理解する

1、執筆の時と場所

ネロは紀元68年没。執筆年代はその少し前の67年頃。64年7月のローマの大火災後クリスチャンへの大迫害。パウロも再逮捕されローマ市街で断

首されたとされています。時は紀元68年頃。執筆場所はローマの獄中。

2、この手紙の特色

牧会者としてのテモテに対する個人的な励ましや忠言が主。パウロの書いた最後の手紙であることは間違いありません。

3、主題

「苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務を全うしなさい」(4・5)

4、梗概

- ①テモテに対する励まし(1・1～2・26)
- ②終わりの日についての警告(3・1～17)
- ③テモテに対する最後の命令と依頼(4・1～22)

テトスへの手紙を理解する

1、執筆の時と場所

パウロはいったん釈放後、テモテをエペソにテトスをクレテ島に牧会者として残します。65年頃、執筆はニコポリで。

2、執筆の事情

クレテの教会に様々な問題が発生。パウロはテトスを励まし偽教師を警戒する必要がある。執筆。3、テトスという人物

ギリシヤ人。パウロの伝道によって回心。パウロの信仰の子。テモテ同様パウロの片腕の器。

4、特色

牧会書簡の一つで大筋はテモテ前書と似ています。5、梗概

- ①テトスに対する勧め(1・1～2・10) 長老、監督の資格。偽教師への警戒。働き人の心得。
- ②クリスト者生活のあり方(2・11～3・11)
- ③個人的な願いと祈祷(3・12～15)

二〇〇六年度カリキュラム解説

はじめに

二〇〇六年度は、3年サイクルカリキュラムの第3年目です。年題は、「教会とともに」、み言葉は、「ただ聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」(使徒1・8)となります。父なる神、子なる神キリストと学んできて3年目は聖霊なる神と教会をテーマに学びます。心がけることは、伝道的要素、救霊的要素を盛り込むということです。またとかく新約、特に使徒行伝に片寄りやすいので、教会暦を取り入れ、また10月、11月と旧約聖書を取り入れました。この3年目も同じく3期に分けていきます(次の3年サイクルカリキュラムからは発行に合わせて3ヶ月毎にして、4期に分けることにしています)。第1期「愛に生きる」使徒行伝2・42「そして一同はひたすら、使徒たちの教を守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈をしていた」、第2期「信仰に生きる」ローマ1・17「神の義は、その福音の中に啓示され、信仰に始まり信仰に至らせる。これは『信仰による義人は生きる』と書いてあるとおりである」、第3期「希望に生きる」黙示録19・7「わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまわろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである」という構成です。愛、信仰、希望がそれぞれの4ヶ月の土台となっています。

単元」との解説

4月は「復活の主」です。9日の受難週と16日のイースターの礼拝を含んだ復活の命のメッセージです。

5月は、「教会の準備」。第2週は母の日、今年も二〇〇四年度につづいて、使徒行伝1・12～14をいれました。教会準備にこの所は欠かせない大切なところなので、一年あいたうえでとり入れますのでご了承ください。

6月は、「教会の誕生」で、そのハイライトが第1週のペンテコステです。心してこの記念日を祝いたいものです。「花の日・子どもの日」と「父の日」は今年も旧約から週題をとりました。

7月には、聖霊の生き生きしたお働きを見る「初めの教会」について学びます。

8月は、「戦う教会」です。驚くべき異邦人宣教がまずペテロによって門戸が開かれ、パウロの宣教へとつづいていきます。

9月は「パウロの伝道」で、第二次と第三次伝道旅行です。ラリー・デーは信仰の決断の時としても用いられます。

10月は「信仰に生きた王たち」として、旧約の中から5名の代表的な王の名があげられています。

11月は、最後の収穫感謝をのぞいて3人の預言者から学びます。

12月は「クリスマス」の月。希望という期題のもとに組んでみました。キリストを救主と信じ、本当のクリスマススを今年迎える子どもたちが与えられますようにと祈りつつ奉仕にあたりました。1月は、落ち着いて「信仰生活」の基本を学び実践へとつなげたいものです。

2月は「教会生活」です。この月に年題「教会

ピレモンへの手紙を理解する

1、書かれた時と場所

獄中書簡の一つ。コロサイ書と同じ61年頃。むろん執筆の場所はローマの獄中です。

2、ピレモン書物語

ピレモンの奴隸オネシモは主人のものを盗んで逃亡し、ローマへ。どのような事情であつたか、彼は獄中のパウロに会い回心。当時の習慣によれば、奴隸はあくまでも主人の所有物。主人の物を盗んだ奴隸は罰として殺されるのが常でした。パウロはピレモンにオネシモのため切々と執り成し、彼を兄弟として受け入れて欲しいと記します。コロサイ書執筆の機会を生かしこの手紙を書き、オネシモの身柄と共にテキコに渡しました。

3、ピレモンという人物

本書はピレモンへの個人的書簡。ピレモンはパウロによって回心(19)。家庭を開放して集会をしていました(2)。パウロに喜びと慰めを与え、聖徒たちの心は彼によって力づけられ、爽快にさせられました。実にさわやかなクリスチャンでした。

4、特色

内住のキリストに生きるパウロが記した、聖書中、最も感動的な小書簡。

5、主題

執り成し。「わたし同様に彼を受け入れてほしい」(17)。彼の負債(「デメリット」)は我に。私の功績(「メリット」)は彼に。

6、梗概

- ①感謝と祈祷(1～7)
- ②オネシモのためのパウロの執り成し(8～25)、執り成すパウロ。執り成されるオネシモ。執り成す理由。執り成す方法。結びの言葉。

とともに」が十分に語られ、また忠実な教会生活へと一人ひとりが導かれますように！

3月は「教会の完成」という、まさに雄大な教会を通しての希望のクライマックスとなることでしょう。受難週、イースターは、きりよく次年度に入ります。

終わりに

夏期学校教案には、「賢い人ダニエルと三青年」を取り上げます。旧約聖書から物語性のあるものにししました。第1課「賢い決意」ダニエル1・8「ダニエルは王の食物と、王の飲む酒とをもって自分を汚すまいと、心に思い定めた」。第2課「生きた信仰」ダニエル3・18「たといそうでなくても、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません」。第3課「生きておられる神」ダニエル6・23「これは彼が自分の神を頼みとしていたからである」。生きておられる神への信仰が強く植えつけられ、聖霊に満たされて力強いクリスチャンへと成長できますように。

またこのカリキュラムに基づいた子ども聖書日課も、引き続き、子どもたちと共に御愛説のほど、よろしく願っています。「だから愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである」(1コリント15・58)。

新しいこの一年も、子どもたちと共に、「教会とともに」祝福に満ちた歩みがCS教師の先生がた、お一人おひとりに与えられますようにと祈りつつ。

聖書 詩篇2・1～12 テーマ 神の子キリスト

序論

(鎌野)

今年最初の日が主日というのは嬉しいことだ。今月は、この地上に誕生されたイエス・キリストが神の子であることを学ぶ。まず最初の週は、旧約聖書の預言に目をとめたい。詩篇2篇には表題がなく、だれが書いたものかは明らかではないが、使徒4・25から、ダビデの作であると考えて差し支えないだろう。ダビデが王に即位する時にも、ここに記されているような様々な反対があった(サムエル記下2～5章)。しかし、新約聖書の多くの箇所は、この詩篇が主イエスの生涯の預言であることを示している。本篇は、それぞれが3節からなる4連構成の詩である。

一、人々の反逆(1～3節)

△もろもろの国びと△もろもろの民△もろもろの王△もろもろのつかさ△が、△主とその油そそがれた者△とに逆らう姿は、△ロデヤピラトが異邦人やイスラエルの民と共に、主イエスを十字架につけたことの預言である(使徒4・27)。△油そそがれた者△は、△ブル語ではメシヤ、ギリシャ語ではキリストであることに注目したい。反逆する人々は、主に忠実に従う人々を、動物を制御する△かせ△や△ぎずな△で束縛されている者と思っている。ちょうど、回心前のパウロと同じように。今でも、酒やタバコをのまず、快楽を求めないクリスチャンを「かわいそうな人」と

考える人々がいる。しかし、本当のクリスチャンは、主イエスと一緒に愛のくびきを負い、人々のために生きる者なのである(マタイ11・29)。

二、主なる神の権威(4～6節)

地上の人々がどんなに騒いでも、△天に座する者△、つまり神は、彼らを△あざけられる△。彼らがどんなに神に反逆しようとも、神の目から見ると、疾走するのぞみ号に立ち向かうかまきりのようなものでしかない。主は、△激しい怒りをもって彼らを恐れ惑わせ△なされる。そして、神ご自身が、本当の王を△聖なる山シオン△、つまりエルサレムに立てられるのである。この王とは、先月もマタイ福音書から学んだように、主イエスにほかならない。

しかし2千年前、主なる神は、反逆する人々を恐れ惑わせることはあえてなさらなかった。神の怒りは、主イエスが再びおいでになる時に示されるのである。それは、主の弟子のヨハネが記した黙示録の中に詳細に描かれている。

三、主なる神の詔(7～9節)

△詔△とは、王の即位の時に宣言された権威ある定めを意味しているのだろう。主なる神は、ダビデやソロモンについては、「彼はわたしの子となる」と言われた(サムエル下7・14)。つまり養子である。しかし、△おまえはわたしの子だ。きょう、わたしはおまえを生んだ△という表現は、実の子にしかあてはまらない。そしてこの句は、イエス・キリストを指すものとして、新約聖書に3

度用いられている(使徒13・33、ヘブル1・5、5・5)。主がバプテスマを受けた時に、「これはわたしの愛する子」という声が天からあつたことも見のがしてはならない(マタイ3・17)。

全地が主イエスに与えられ、悪しき者が打ち碎かれる有様は、まだ実現していない。しかし、この預言も主の再臨の時に成就する。これこそ、主なる神のご計画が完成する日である。

四、人々の服従(10～12節)

△それゆえ、もろもろの王よ、賢くあれ△とは、人間の王に対する呼びかけの言葉だ。王であつても傲慢になつてはならない。反対に、△恐れをもつて主に仕え、おのきをもつてその足に口づけせよ△。これは、王たちだけではなく、全ての人々が、主イエスに対してとるべき態度である。あくまでも反逆を続けるなら、主は最後に入あなたがたを道で滅ぼされる△。しかし、悔い改めて△主に寄り頼む者はさいわいである△。

主なる神は、今も同じように呼びかけておられる。傲慢にも「神は死んだ」と言う人々があふれている現代だが、私たちはそうであつてはならない。イエス・キリストを神の子と信じて、このお方に服従することこそ、私たちの使命だ。

結論

イエス・キリストは神の子である。今は天にあつて私たちのためにとりなしておられるが、再びおいでになつて全地をさばかれる。このことを堅く信じ、今年も主イエスに従つて歩んでいこう。

研究資料

(石田)

テキスト

1 なにゆえ、もろもろの国びとは騒ぎたち：どうして諸国民は神の国イスラエルに戦いを挑むのか、それは全世界を支配している主なる神に反抗することではないか、と詩篇の記者はその霊的な無知と無謀さに驚きあきれている。

2 その油そそがれた者(マシーアハ、いわゆるメシヤ) 神に仕えるために聖別の油そそぎを受けたのは、祭司、預言者、王である。この文脈においてはイスラエルの王のことである。ダビデかソロモンの即位式に歌われたものではないかと考えられている。主とその油注がれた者と並列されているように、イスラエルの王は主なる神からその代理人としての特別な権威と責任を委ねられた。これは究極的に「ユダヤ人の王」であるイエスを指し示す。イエスは油そそがれた者(ギリシヤ語ではキリスト)と呼ばれ、まことの王・祭司・預言者として聖なる油、すなわち聖霊を注がれた。

3 われらは彼らのかせをこわし、彼らのきずなを解き捨てるであらう これはイスラエルに隷属する立場から諸王が独立しようと立ち上がる様。新しい王が即位するときは、その国の意気が盛んになると同時に、近隣の属国にすれば、新王が権力を掌握しないうちに謀反を起こそうとするものである。今日の言え、世の人々が神に背を向け、良心や神の言葉のかせをこわし、自分の欲求を押し通して生きる姿であらう。

4 天に座する者は笑い、主は彼らをあざけられ

るであらう 諸王が神の国イスラエルに挑むことは、イスラエルが神に忠実である限りは、神に敵対することであるから、それが無謀で必ず失敗に終わることをすでに永遠の視点から見ている。真理に逆らつては何の力もない(Ⅱコリント13・8)。騒ぎたち、立ち構える反逆者たちに対して、王の王なる方は御座に座して正しいさばきを下そうとしている。地上の王国は離合集散や興亡を繰り返して変遷の止むことはないが、神おひとりが天において全世界を支配し、人類の歴史を導いている。天上と地上のコントラストが鮮やかである。

6 わたしはわが王を聖なる山シオンに立てたわが王とは、神から権威を授けられて政治を行う地上での代理人という意味である。イスラエルの王が即位するのにふさわしい場所は、神殿のある聖なる山シオン、すなわちエルサレムである。祭司か預言者が油を注ぐことも、王を即位させる霊的な権威は主なる神から来る。

7 おまえはわたしの子だ。きょう、わたしはおまえを生んだ 生んだとは、養子縁組の意味で、王が即位させられたとき、神の養子と認められ、その意味において神の子と言われている。共観福音書はイエスの受洗についてこの言葉を引用している。イエスが公生涯に立つにあたり、おおよけに神の子であると宣言された。パウロはイエスの復活を預言する言葉としてこの箇所を引用している(使徒13・33)。新約的には、まことの神の子であるイエスを指し示す。「きょう」とは、三位一体の神における永遠の現在のことである。御子は御父と共に初めから在った方であると同時に(ヨハ

ネ1・1)、御子は御父の性質より、永遠の初めにひとり生まれた(ヨハネ1・18)。

8 わたしはもろもろの国を嗣業としておまえに与え 神はダビデの子孫であるイスラエルの王に、全世界の統治を約束している。キリストと教会があらゆる国の人々の魂を神の国に勝ち取るこの預言である。神の国、すなわち神の恵みによるご支配が、イエスを信じる人々と諸教会においてその版図を拡大する。これは、二千年にわたる教会時代に成就しつつあり、イエスの再臨によつて始まる千年王国において完全に成就する。

9 おまえは鉄の杖をもって彼らを打ち破り 神に敵対する独裁国家がこのとおりに滅亡してきたことは歴史の証明するところである。究極的には再臨のとき(黙示録2・27、12・5、19・15)。

10 もろもろの王よ、賢くあれ まことの神とその代理人であるイスラエルの王に逆らうことは滅びに向かうことで賢い道ではないと警告し、戦わずして降伏するように勧告している。新約的には、神に対する悔い改めと、主イエスに対する信仰を働かせるようにとの勧めであらう。

11 恐れをもって主に仕え、おのきをもつてその足に口づけせよ まことの神を神として礼拝し、服従し、寄り頼むことこそ賢く、幸いな道である。足に口づけするとは、古代中東において降伏と服従を表すしるし。この足は、御子とも訳し得る(新改訳)。

12 主に寄り頼む者 直訳は「彼に避難する者」参考文献 『新聖書注解』『実用聖書注解』『聖書注解』(R.G.K.)など。

聖書 詩篇2・1、12
タイトル 希望はどこに？
暗唱聖句 主はわたしに言われた、「おまえはわたしの子だ。きょう、わたしはおまえを生んだ。」 詩篇2・7
目標 ただひとり真に神より生まれた神の子はキリストであると知る。

導入

(小野)

主の年2006年、あけましておめでとございます。西暦、A・Dというのは「主イエス・キリストのご支配の年」という意味なのです。だからこの年もイエス様におまかせして、安心して過ごせますね。さて、新しい年の最初の日、それが日曜日だなんて、本当にうれしくなりますね。今年も毎日曜日、教会に励もう！とほり切つてしまいませんか？どんな希望に燃えてこの2006年を迎えていますか？また分級で話し合うことにしましょう。

エ!? 希望だなんて？ この世の中に生きていて希望なんか全くないよ、と言いたくなりますか？たしかに、去年も大変な一年だったなあ、日本でも世界でも、あちこちで大きな災害があつて何百、何千、何万という人々が悲しくひどい目にあつて、今年になつてもまだまだ苦しい中にいます。苦しんでいる人を助けたり、祈つたりすることも忘れないでね。そんな恐ろしいことが、いつ私にふりかかつてくるかわからないし、などと考えると本当に、「希望はどこに？」と叫びたくなります。実はその叫びにみごとにこたえてくれるお方について、今月学んでいきます。そのお方とは…神の子キリストです！

油そそがれた者

旧約聖書の詩篇2篇は、主イエス・キリストのごとが預言として記されています。まず、イエス様は「油そそがれた者」(2)と言われています。この「油そそがれた者」とは、ヘブル語では「メシヤ」、ギリシャ語では「キリスト」なのです。この詩篇の中では、イエス様に対して、もろもろの王、もろもろのつかさ、もろもろの国びと、もろもろの民が逆らっているとあります。イエス様に対してヘロデ王や、ピラトが、ユダヤ人たちや異邦人たちと一緒になつて、イエス様を十字架につけたこの預言なのです。やつぱり、神様を信じないで、神様に反抗する人々の力の方が強かつたのでしょうか？ イエス様が十字架につけられてしまい、弟子たちや、母マリヤや、他のマリヤたちや、女たちの心は全く、失望、絶望で、希望なんか一かけらもなかったのでしょうか。

神から生まれた者

いいえ、実は、イエス様がどのようなお方であるか、というところに希望があるのです。そう、永遠の、決して決して失望に終わることのない希望があるのです。それは、イエス様は、神様から生まれた、ただ一人のお方だということです。つまり、ただひとりの真の神の子であるということです。父なる神様は天からご覧になっていました。もろもろの国びとたち、つかさたち、王たち、民たちが反抗しているのを。またヘロデ王やピラトや、ユダヤ人、ローマ人たちがイエス様を十字架につけるのを。そして、天で笑つておられるということです。真の神様にそむき続けることはできませんし、対抗もできません。神様は、キリストを真の王として立てられました。そして、宣言して言わ

れます、「おまえはわたしの子だ。きょう、わたしはおまえを生んだ」と。イエス様は神から生まれた、ただひとりの神の子であり、真の王です。すべてのものを神から与えられているお方です。イエス様以外のすべてのものは「造られたもの」「被造物」です。イエス様だけが神から生まれた神の子です。

主は今生きておられる(ブレイズワールド49)

この賛美はベトナム戦争中に、ウイリアム・J・ゲイザーによって生み出されました。ベトナムの戦場へアメリカにいる妻から、男の子誕生の知らせが届きました。しかし、彼にとつてそのニュースは喜び一色ではありませんでした。「こんな暗い世の中に、今、生まれて来る赤ん坊に、一体何の希望があるのか？」と、むしろ、生まれてきた子どもにも同情の思いを抱くほどだったのです。ところが、家族のもとに帰り、いざその生まれた息子を腕に抱いた時、幼子のいのちに心打たれました。大きな感動に包まれながら、これはなんと甘味な瞬間であることかと味わうと共に、いや、もっとすばらしいのは、この幼子がきつと未知の人生に雄々しく向つていけるのだ、なぜなら、キリストは死よりよみがえつて、今も生きて、この息子とも共にいてくださるのだという事実！を確信して、この賛美が歌いあげられました。「彼が生きておられるので、わたしは明日に向つて生きていける！」と原詩には繰り返されています。

ハレルヤ！キリストは父のひとり子、神から生まれた神の子、今も生きておられます。ですから、このお方に信頼する人は幸せなのです。いつも希望に生きられるのです。希望はキリストです。
♪主は今生きておられる♪ブレイズワールド49

ワーク A

話し方のヒント

犬から生まれた子は犬の子、人から生まれた子は人の子。では、神から生まれた子は？神の子ですね。イエス様は、神から生まれた神の子なので、どんなに悪くて怖い人よりも強く、どんなに恐ろしいことも解決できるお方です。このイエス様が、イエス様を信じる皆さんと、いつも共にいてくださるので、新しい年も安心ですね。ハレルヤ！

ワークについて

新しい年の目標(イエス様も喜んでくださるもの)を書いて、よく見える所に掲げましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 イエス様のことを思い浮かべながら、今日の聖書箇所を読んでみましょう。そして、イエス様が神様から生まれた、ただひとりの子であることを確認し、信じるように導きましょう。

●質問3 この世には様々な望みや願いや欲望がありますが、それらは失望や絶望に変わることが多く、決して永遠の希望にはなりません。イエス様ご自身が私たちの希望であり、イエス様に信頼することに本物の幸せがあることを、教師も子どもたちと共に体験しましょう。

ワーク C

●み言葉を覚えてから書き入れます。まずは暗唱し(3回ぐらい)、その後書き入れます。

●第2問 聖書を1節ずつ輪読します。聖書にある通り、解答してもらいます。

①油注がれた者とは、神様のために特別な働きに仕える人のことであると説明します。

②十字架のキリストを予告しています。

③嘲り笑う。神様は、敵対する人々を悲しんでおられます。

④全てのものは神様によつて造られ、またイエス様は、神様によつて生まれた神の子、王、救い主です。人となつてこの世においでくださった主は私たちにとつて特別な存在で、希望を置くべき方であることを説明します。

●第3問 どんな困難があつてもイエス様こそ希望です。私たちの希望である主にどのようなことを期待しているか、生徒の思う所を自由に書いてもらいます。教会になじみの薄い生徒の場合は、その子の関心事がわかります。主に希望を持つように話し、生徒の期待を踏まえ共に祈ります。

ワーク D

●2006年元旦、神様が私たちに与えられたひとり子イエス様によつて、希望の年となりますように。

●①、③は聖書を見ながら、答えましょう。
●主に寄り頼むさいわいな人となりますように。

中高科へのヒント

話し合ってみよう

1 今年の希望(やりたいこと・計画)は何ですか。

2 その希望は実現しそうですか。

3 実現するために、何をしますか。

●考えてみよう

1 「もろもろの国びと」「もろもろの民」(1)「地のもろもろの王」「もろもろのつかさ」(2)は何をしようとしていますか。↓主に逆らうことです(詳細は研究資料、聖書講解を参照)。

2 その時、主はどうされますか。↓「天に座する者は笑い」(4)とは、圧倒的な勝利者です。

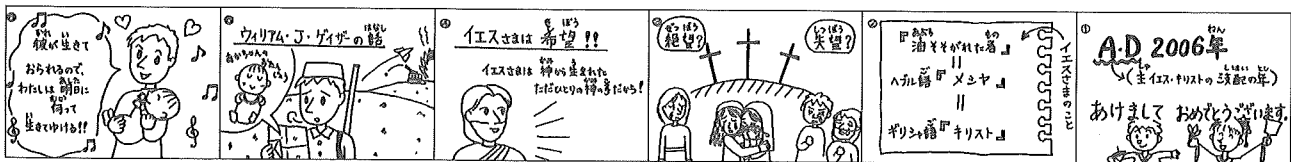
3 「わたしの子」(7)とは誰のことでしょうか。

↓主イエス・キリスト様のことです。

4 「わたしの子」(7)である主に何をしますか。↓「恐れをもって主に仕え」(11)ることです。主イエス様に従うことです。

●自分に当てはめてみよう
1 新しい年、真の希望は何でしょうか。↓主イエス様を信じ従っていくことです。新年に再確認しましょう。

2 この世や周囲の人々が神に逆らい、自分だけ神様に従っていることが、何か損のように思うことがありませんか。↓私たちも主にあつて圧倒的な勝利者です。「すべて主に寄り頼む者はさいわいである」(12)。



聖書 ヨハネ9・1～12
テーマ 神のみわざ

序論

(鎌野)

これから4週間は、神の子キリストがどのようなことをしてくださるのかを、ヨハネ福音書から学びたい。今日の箇所は、神の子は目の不自由な人の目を開いてくださることを記録している。この出来事は、この目の不自由な人だけではなく、ご自分の弟子たちやユダヤ人にも、神のみわざとは何かを示すためになされたことを銘記しよう。彼らすべての目が開かれることが、神のみわざなのである。

一、肉体の目が開かれる

来たるべきメシヤは目の不自由な人の目を開かれると、預言者イザヤは何度も記している(29・18、35・5、42・7)。確かに、旧約聖書全体で、目の不自由な人を見えるようにされたのは、ただ主イエスのみである。

ここに登場する「生れつきの盲人」の人生は、非常に惨めなものだったに違いない。点字も録音機材もない時代には、物乞いをするしか生きる道はなかった。昨年8月に学んだ目の不自由な人のように必死に癒しを求めたわけではなく(マタイ9・27～31)、無為に毎日を過ごすだけだったと思われる。しかし、主はご自分のほうから彼に近づき、つばきでつくった泥を彼の目に塗って、「シロアム」の池に行つて洗いなさい」と命じられた。そして彼がそのとおりにしたとき、見えるようになったのである。主イエスは神の子であるからこ

そ、この目の不自由な人の目を開くことがおできになった。

二、霊の目が開かれる

弟子たちは、この目の不自由な人と会ったとき、
「この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」と主と尋ねている。弟子たちも、当時の一般的な人々と同様、目が不自由なのは罪の結果だと思つていた。しかし主はそれをきっぱりと否定し、「ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである」と仰せられたのである。弟子たちは、肉体の目は見えていたが、霊の目は見えていなかった。主がご覧になるように、この目の不自由な人を見ることができなかったのだ。

13節から登場するユダヤ人(パリサイ人)は、もつと霊の目が開かれていなかった。彼らは主が安息日にこのことをなされたからという理由で、主が神からつかわれたお方であることを受け入れようとしなかった(29)。それでも主は、そのような人々の霊の目を開こうとされて、この目の不自由な人の証の言葉を引用したのである(30～41)。

三、神の子を信じる

「この盲人は見えるようになった。そこに神のみわざが現された」と言うことは確かにできる。でも、そのような奇跡が起こらないなら、神のみわざは現されないのではない。6・29で主は、「神がつかわれた者信じていることが、神のみわざである」と言われた。たとい肉体の目が見えなくても、主イエスが神からつかわれたお方であると信じるなら、それこそが神のみわざなのである。

この目の不自由な人の目に泥を塗られたとき、

研究資料

(石田)

テキスト

1 イエスが道をとおつておられるとき シロアムの池が近くにあることから(7)、エルサレムの街中での出来事である。またこの日は安息日であった(14)。生れつきの盲人を見られた この目の不自由な人は道端で物乞いをしていた(8)。主イエスは特別な関心をもつて彼を見るために立ち止まったと思われる。

2 この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか 主がこの人を見たので、弟子たちは、おそらく興味本位に尋ねたのだろう。弟子たちは誰かの罪が原因ではないかという前提で、目の不自由な人として生れた理由を聞いていた。当時だけでなく、いつの時代でも、どここの国でも不幸や苦しみに対する因果応報的な見方は共通している。これを突き詰めれば、なぜこの世界に悪や苦しみが存在するのかという問題に行き着く。苦しみはアダムの墮落によつてもたらされ、個人的にも罪に起因する場合がある。しかし聖書はすべてが罪と関係しているとは言っていない。

3 本人が罪を犯したのではなく、また、その両親が犯したでもない 主イエスは目の不自由な人として生れついたことと罪との因果関係を明確に否定している。この答えだけでも人間の普遍的な考えを覆す宣言である。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである 神があえて目の不自由な人として生まれることを許されたのは、彼が神

のみわざを現す器となるためであった。人間は過去の原因究明に関心を傾けるが、神はその人の人生に目的を与える。この場合、目が見えるようになるということが神のみわざである。

4 わたしたちは…しなければならぬ 主イエスはクリスチャンと一緒に神のみわざのために働くのだと言っている。昼の間 主イエスの公生涯のこと。主はご自分を世の光と言っており、その光が太陽のように世に輝いているときを昼になぞらえている。ちょうどこの日が安息日で、癒しの奇跡を行うことによつてパリサイ人から非難されようが、時を失うわけにはいかなかった。現代においては主の再臨までの教会時代を意味するだろう。福音の宣教は、時の意識と切り離せない。夜が来る。すると、だれも働けなくなる この場合、十字架の死からペンテコステまでの間を示すものだろう。この間の弟子たちにはまだ聖霊が降つておらず、恐れに支配されていたので、世の人々に対して全く力がなく、主の働きをすることができなかった。現代においての夜とは、主の再臨後、教会が携挙された後を意味するだろう。

5 わたしは…世の光である 8・12、12・46と同じ言葉であるが、ここでは特に主イエスの働き(ひいては教会の働き)について強調されている。主イエスは目の不自由な人の目を見えるようにするだけでなく、神を信じない霊的目の不自由な人の目を見えるようにする世の光である。

6 そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って 当時、優れた人のつばきは、病気を癒す性質があると信じられていた。主はつばき

主は「シロアム(つかわれた者、の意)」の池に行つて洗いなさい」と言われた。あえて括弧内の言葉が用いられているのは、ここに象徴的な意味があるからだ。目の不自由な人は、神からつかわれた方のもとに行つたのである。彼は目が見えるようになった後に主とお会いし、「主よ、信じます」と告白している(9・38)。これこそ、目が見えるようになる以上にすばらしい神のみわざに他ならない。

不自由な人に限らず、ハンディキャップのある方々は今でも多数おられる。その原因は、誰かが罪を犯したからだとか、家の方角が悪いからだとか、真顔で言う人々もある。そのような考えには、明確にノーと言わねばならない。たとえハンディがあろうとも、主を信じて生きていくならば、障がいを通してさえ、神のみわざが現れるのである。星野富弘さんやレーナ・マリアさんは、大きな障がいをもちながらも、神をたたえる詩を作り、絵を描き、賛美を歌っている。それによつて多くの人々が励まされている。主イエスを信じる人も起こされている。神のみわざが現れているのだ。重要なのは、障がいがなくなることではない。その障がいさえも神からの賜物として受け取り、主イエスを神の子と信じて歩んでいくことである。

結論

現在は、主イエスを肉眼の目で見ることができない。しかし、主を神の子と信じる者の霊の目は開かれている。日々の祈りの中に、主を見ることができるようである。「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう」(マタイ5・8)とのみ言葉を忘れてはならない。

を混ぜた泥を、あたかも塗り薬であるかのように彼の目に塗った。主イエスは目の不自由な人の目を開くに当たつて、言葉だけでもできたであろうが、あえて彼に説得力のある方法を用いた。それは彼の信仰を引き出すためであった。主はそれぞれの人の状況に合わせて対応する方である。言葉と愛のわざによつて、人格的に関わつてくださる。

7 シロアムの池に行つて洗いなさい シロアム(つかわれた者、の意)とあるように、主イエスはご自分を遣わされた者と言っている(13・16)。目の不自由な彼にとつて、主の命令に従うためには主の言葉を信じる信仰がいる。神のみわざとは、神が遣わされた方を信じることである(6・29)。そこで彼は行つて洗つた。彼は信仰を働かせて主の言葉に従つた。彼も主から遣わされたのである。そして見えるようになって、帰つて行つた。彼の信仰は報いられた。しかし目が見えるようになっただけでなく、まもなくイエスを神の子と信じて霊の目が見えるようになる(38)。主の行おうとしていた究極の神のみわざとは、この霊の開眼である。主イエスの癒しや奇跡は、主を信じるようになるため、「見えない人が見えるようになるためになされる(39)」。11 それで、行つて洗つと、見えるようになるました。彼は目が見えるようになった事実をありのまま語つたが、見知つた人々にも、パリサイ人にも理解されなかった。どうして見えるようになったのか」という質問がしつこく繰り返されている(10、15、19、26)。むしろ、彼は事実を否定するように強いられた。しかし揺さぶられるほど、彼の確信は深まってゆく(24～34)。

聖書 ヨハネ9・1～12

タイトル グローリー!

暗唱聖句 ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。 ヨハネ9・3

目標 人にとってはマイナスでも、神にとっては栄光のあらわれとなる信じ。

導入

(小野)

冬です! だんだんと地球の温度が上がってきているようですが、やっぱりまだまだ一月は寒いですね。もしかして、雪が積もっている中を歩いて教会学校にやって来たお友だちがいますか? 雪は積もってなくても、とっても寒いし、遠くの方の山の頂上には、白い雪が積もっている。その雪を見ながら、教会学校に来た人もいるでしょう。まぶしいばかりに、きれいですよね。清く輝いています。思わず、「グローリー(栄光)ノ」って叫びたいくらいでしょう? 白い雪だけでなく、「グローリーノ」って叫びたくなる場面はいくらでもあります。思い出すかぎり思い出してみてノ さて、今日は神様の栄光について考えてみますよ。

見えるようになった目

皆さんは目の見えない人と出会ったことがありますか? どうしてあげたらいいのかと、困ったかもしれませんね。ここに出てくる男の人は、生れた時から全然何も見えない人だったのです。その人をイエス様もごらんになり、弟子たちも見たのです。弟子たちはイエス様に尋ねました。「先生、この人

が生まれつき目の不自由なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか。それともその両親ですか。」これまでもこの目の見えない人を変な目で

見ながら、同じようなことを心の中で考えていた人はたくさんいたでしょう。しかしこんなにハッキリと、しかもイエス様のお弟子さんたちが言うなんて! そういう人たちの先生ですから同じように答えられたのでしょうか。いいえ、イエス様のお答えは、まるつきり違っていました。「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである」と、エッ? 弟子たちはもちろん、聞いていた本人は一瞬、首をかしげて、耳を疑ったことでしょう。イエス様は、地につばきをし、それで泥をこね、目の不自由な人の目に塗って言われました。「シロアムの池に行つて洗いなさい」。彼は言われたとおりシロアムの池へ行き、自分の目を洗ったのです。すると、どうでしょう! 今まで何も見えなかったのなかつた目が開かれ、なんと、すべてがよく見えるようになったのです! 「見えるノ見えるノ」この生まれつき目の見えなかつた人の驚きと喜びはどんなだったでしょう。この人の人生が全く変わってしまったでしょう。もう道ばたに座る必要もなくなつたし、いろいろな人に物乞いをすることもしなくてよくなりました。何ということでしょう。生まれつき見えなかつた目が、見えるようにしてもらえたなんて! これは、もう本当に、神様のみわざというほか言いようがありません。

見えるようになった心の目

喜びと感激にひたるその人を囲んで近所の人々や、特にパリサイ人たちはうるさく話しかけてき

ワーク A

話し方のヒント

● 皆さんが病氣の時、イエス様にお祈りして治つたら、とっても嬉しいですね。「さすがイエス様すばらしいノ」とイエス様をほめたええです。けれども、病氣を治してくださる事より、困った時に助けていただく事より、もっとすばらしい、イエス様にしかできないことがあります。それは、皆さんに「イエス様を神の子と信じます」という心を与えてくださる事です。

ワークについて

● ワークについて 心の扉をあけて、心の中にイエス様を信じる心があるか確認しましょう。

ワーク B

● 質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

● 質問2 病氣や怪我や災いなどは本人の罪でも、家族の罪でも、天罰でもないことを確認し、神様の栄光が現されるためのご計画を信じましょう。また、イエス様の言われたとおりに行うことの大切さを学びましょう。

● 質問3 イエス様は、神様を信じない人の心の目(霊的目)を開いて、信じるように導いてくださる世の光です。

ワーク C

み言葉を覚えてから書き入れます。

- 第2問 聖書を1節ずつ輪読します。
- ① 本人が両親が罪を犯したため。
- ③ つばきで泥を作り、目の不自由な人の目に塗った。シロアムの池に行つて洗いなさい、と言われた。
- ④ 見えるようになった。
- 第3問 身体的なこと、精神的なこと、家族のこと、言いにくい問題もあると思います。無理には聞かず、そのままでも神様は栄光を現すことができることを強調し、共に祈りましょう。

ワーク D

- この箇所は因果応報的な考えに捕われている私たちに光を与えてくれます。神様は時には病氣を癒してください。しかし、癒されなくても神の栄光を表すことが多くあります。多くの病を負った人がこのみ言葉で人生を捉えなおし、病を通して、かえつて病が主イエスに出会わせてくれたと感謝に変えられているのを見させられました。
- 自分に対しても、他者に対しても、因果応報的な考えから解放されて、主の光で捉える者となりますように。

中高校へのヒント

話し合ってみよう

- 1 「どうしてこんなつらいことが自分に起こるのか」と悲しい思いや悔しい思いをした時に、どうしますか。↓泣く。当たり散らす。あきらめる。
- 2 つらいことはすべて、マイナスでしょうか。考えてみよう

- 1 「生まれつきの盲人」(1) はどんな状態ですか。↓不便、差別、絶望の中にいます。人々は因果応報で判断し、偏見の目で見ています。
- 2 主イエス様は彼に何と言われましたか。↓「ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである」(3)。

- 主は、過去がどんなにつらくても、これから、神が働いて、すばらしい人生を送ることを約束されました。
- 3 「盲人」(7) は何をしましたか。↓「シロアムの池に行つて洗いなさい」との主の言葉に従いました。主に従う時、神のみわざがあらわれます。

- 自分に当てはめてみよう
- 1 つらいことが起こつたらどうしますか。↓「神のみわざが」と言われた主イエス様の言葉信じ、主から力を与えられて前進します。周囲の人々の無責任な言葉に振り回されたり、自分の殻に閉じこもってしまったら、自暴自棄にならないことです。そのためには祈つてもらうことも大切です。

- 2 自分に神のみわざがなされるためには何をすればよいでしょうか。↓小さなことでも、主イエス様の御心とわかれば、従ってみる事です。

ます。一緒に喜ぶというよりは、その日が安息日だったので、一体誰がお前の目をなおしたのかとつめよります。両親も呼ばれますが、両親は恐れて、息子に言うてくさいとのがれます。この人はパリサイ人たちに「あのかたは神からきた人」(33)と語り、会堂から、交わりから追い出されますが、イエス様と出会い、イエス様をキリスト、救い主と信じました。彼の心の目も見事に開かれたのでした。実はこれこそが真に「神のみわざ」であり「神の栄光」なのです。目に見えないイエス様を神の子と信じるこそ最大の神の栄光となるのです。

「神の栄光」に生きる新垣勉先生

(あらがひ)

1952年沖縄生まれ、父はメキシコ系アメリカ人、母は沖縄女性。生後まもなく助産婦が薬をまちがえて目に入れ、両眼失明。父は米国へ帰り、母は再婚。クリスチャン祖母に中二まで育てられましたが、自分の出生の秘密を知り、憎しみと悲しみの暗闇の中で苦悩しました。高一のサマーキャンプで城間祥介牧師と出会い、やがて牧師宅に引きとられ、キリストの十字架の愛に目覚めます。ラテン系の声を父から受けていることを知らされ、神への感謝と献身へと導かれていきました。訓練された歌声と魂にひびくあかしをもって「神の栄光」に生きるようになりました。「見えるようになりたい」と思いませんか?」の問いに、「もちろん、イエス様にはできると信じます。でも、今のままの方が栄光となるなら、このままでいいのです」と語られます。ある人が言いました、「新垣先生が見えないのは、神様からのプレゼントなんですわノ」とノ神のみわざは何と不思議ですばらしいものなのでしょうか! ♪グローリー♪(プレイズワールド、ジョイ28番)



聖書 ヨハネ10・1～18
テーマ よい羊飼

序論

(鎌野)

今週の聖書箇所は、先週の記事と連続している(10・21参照)。主イエスは、目の不自由な人の目を開いて主を神の子と信じるように導かれた。しかしそれで終わりではない。その後、よい羊飼として、彼を養われるのである。それと対照的に、パリサイ人はこの目の不自由な人を会堂から追い出し、村八分にした(9・22、34)。このようなひどい仕打ちをするパリサイ人を前において(もちろん、弟子たちや目の不自由な人もいただろうが)、主は、よい羊飼はどのようなことをするのかを彼らに教えられた。

一、羊の名をよぶ

主はここで、当時の羊の飼い方を比喻にして、霊的な真理を話されている。自分は「羊の羊飼」だから門からはいり、自分の羊の名をよんで連れ出す。そして「羊はその声を知っている」ので、彼について行く。しかし、パリサイ人は「盗人であり、強盗である」から、羊は「ついて行かないで逃げ去る」。この羊飼いと羊の関係は、神と人との人格的関係の比喻であり、旧約聖書のあちこちにこの比喻が見られる(詩篇23篇、イザヤ40・11、エゼキエル34章等)。また、神が人の名を呼ばれることも明記されている(出33・12、17、イザヤ43・1、49・1等)。これは単に名前を知って呼ぶというだけでなく、その人の全人格を知っている

るという意味であることに注意したい。

神の子イエスは、この目の不自由な人のすべてを、また弟子たちのすべてをご存じの上で、彼らを召された。今も同じである。主は、私たち一人一人がどのような者かをご存じの上で、私たちを救いに召してください。道であり、真理であり、命であるお方について行くなら、大丈夫である。しかし、パリサイ人のような盗人、強盗、にせ羊飼がいることも、忘れてはならない。

二、羊に命を得させる

羊飼について行った羊は、十分に牧草を食べ、おいしい水を飲むことができる。よい羊飼いは、羊に命を得させ、豊かに得させる。ために、この地上においてくださったのだ。現在の私たちにとっての牧草とは聖書のみ言葉である。いのちのパンである聖書を、毎日毎日いただいているだろうか。主イエスの導きを信じて、祈りつつ聖書を読むなら、私たちの信仰は必ず成長する。

しかし、当時のパリサイ人は、羊に牧草を与えようとしなかった。律法をかせのように考え、主が安息日に目の不自由な人を癒されたというだけで主を批判した。そして目の不自由な人を追い出したのである。エゼキエルが紀元前6世紀に嘆いた状況そのものであった。「わが羊はかすめられ、わが羊は野のもろもの獣のえじきとなっているが、その牧者はいない。わが牧者はわが羊を尋ねない。牧者は自身を養うが、わが羊を養わない」(34・8)。

教会学校指導者として、私たちはよい羊飼いであろうか。嘔み砕いて、み言葉を語っているだろうか。

うか。静かに反省せねばならない。

三、羊のために命を捨てる

さらに主は、「よい羊飼は、羊のために命を捨てる」と仰せられた。ところが「羊が自分のものでもない雇人は、おおかみが来るのを見ると、羊をすてて逃げ去る」。当時の多くの宗教的指導者は、たとい盗人や強盗でなくても、この雇人のような人々だった。本当に人々を愛し、人々のために自分の命を捨てる人はいなかったのだ。

だからこそ、父なる神は御子イエスをこの地上につかわされた。神を見ることのできない者たちの目を開き、「このお方こそ神の子だ」とわかるように、神の本質をもたれるお方を人として誕生させられたのである。どんな罪人をも愛し、彼らのために犠牲となって十字架で死んでくださったお方こそ、本当の羊飼いにほかならない。

この羊飼いは、「この囲いにはいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない」と言われる。主イエスは、ユダヤ人だけではなく全人類の救い主でもある。しかも、捨てた命を再び得られて、死人から復活された。死んで復活されたのは、世界中でただこのお方だけである。だからこそ、主イエスは神の子であり救い主なのだ。

結論

キリスト教の中心はキリストご自身である。このお方を神の子と信じて、親しい交わりをもとう。主は、私たちのすべてを知り、私たちに必要なものを与え、そしてご自分の命、永遠の命を与えてくださる。「主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない」(詩23・1)と心から叫ぼう。

研究資料

(石田)

この箇所は、羊飼いと羊の譬である。旧約においてはたびたび、神が羊飼いに譬えられ、民はその羊の群れとして描かれている(詩篇23・1、77・20、79・13、80・1、95・7、100・3、イザヤ40・11、エレミヤ23・1～4、エゼキエル34・2)。主イエスはこれを踏まえて、ご自分を民の羊飼いに譬えておられる(マタイ9・36、18・12、マルコ6・34、14・27、ルカ15・4)。

テキスト

155 ほんらい、この羊と羊飼いの「比喻」は、主イエスが盲人の目を開いたことを受け入れようとしないパリサイ人に向かって語られた(6)。これが9章の続きであることは、21節の「悪霊は盲人の目をあけることができるか」からもわかる。よくよくあなたがたに言っておく、彼らから反発を受けることを承知の上で、言うべきことを言うという厳かな宣言である。盗人であり、強盗である。これは聴衆であるパリサイ人を指す痛烈な表現である。彼らは「盗んだり、殺したり、滅ぼしたりする」と言われている(10)。なぜなら彼らは自分のものでもないユダヤ人を支配し、イエスを救い主として受け入れないように全力を尽くしたからである(9・34)。しかし彼らはこの比喻を理解できなかった(6)。それは信じないからだとして理由づけられている(26)。

3 彼は自分の羊の名をよんで連れ出す 羊飼いは羊の特徴をよく知り抜いており、そこから名前をつけて呼ぶことが習慣であった。まさに主イエ

スは私たちをよくご存知で、救い主として迎える人に個人的に名を呼んでおられる(14)。

7 よくよくあなたがたに言っておく： 155節の譬えが理解されなかったので、主イエスはその羊飼いとわたしのことであると説き明かされた。わたしは羊の門である。放牧された羊が夜になると囲いに入れられたが、この門は扉がなく、羊飼自身がかだを横たえてみずから門となった。野獣が羊を襲おうとするとき、羊飼いは自分のからだを張って守った。この門は救いに至る門であることが9節で明らかにされる。

9 わたしは門である。わたしをとおつてはいる者は救われ、人が救われるためには、キリストという門をとおり、つまり生きておられる主イエスを信じる必要がある。これ以外に神に至る道はない(14・6、ヘブル10・19)。また出入りし賢明な為政者によつてその国民の安全が守られるという意味で用いられる言い回しである(民数記27・17、申命記28・6)。救われたあと、出入りする生涯が始まる。それは神を礼拝しに入り、この世に遣わされるために出てゆく礼拝生活を暗示している。牧草にありつくであろう。み言葉と聖霊によつて魂が満ち足りることの約束。

10 わたしがきたのは、羊に命を得させ、主イエスが地上に來られた目的がここで明らかにされる。このいのち(ゾーエー)とは、霊の命、永遠の命のことであって、肉体の命ではない。豊かに得させるためである。救われたのち、み言葉と聖霊によつて主イエスとながる豊かな生活を約束しておられる。どのようにしてこの目的を達成するか

は11節で説明される。

11 わたしはよい羊飼である 「わたしは」である」という表現は、単なる比喻ではなく、神と等しいことを表す称号の一つである。よい羊飼とは、「盗人」や「雇い人」との対照で語られている。たとえば旧約時代の偽りの預言者や、暗愚な為政者、イエス時代のパリサイ人などはとうてい民のよい羊飼いではありえなかった。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。忠実な羊飼いであれば羊の門としてからだを張って野獣や盗人から羊を守り、時には命を落とすこともあった。主イエスはよい羊飼いと、まさに人類のためにご自分の命(「シユケ」/肉体の命)を十字架で捨ててくださった。主はここでそのことを前もって宣言しておられる。

14 わたしはよい羊飼であって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまだ、わたしを知っている 4、5節の比喻がここに説き明かされている。

15 それはちやうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである 御父と御子との間にある交わりと一致が、主イエスと信じる者の間にもあるとの言明。

17 命を捨てるのは、それを再び得るためである 主イエスが十字架にかかって死なれるのは、復活して永遠の命を信じる者に得させるためである。

18 わたしが、自分からそれを捨てるのである 主イエスは十字架の死に追い込まれたのではなく、父から授かった定め として、ご自分の意志と力を働かせてそこへ進んで行かれた。

参考文献 『新聖書注解』、『ウエスレアン聖書注解』、『新約聖書注解(マクドナルド)』など。

聖書 ヨハネ10・1〜18
タイトル 満ち満ちた命
暗唱聖句 わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。
ヨハネ10・10
目標 神の豊かな命をくださるためにキリストが来られたことを知る。

導入 (小野)

寒い毎日ですが、元気ハツラツ、学校へ通い、教会学校に励んでいますか？寒い日でも、犬を連れて散歩をしている人たちがたくさんいます。よく見ると、その犬は帽子をかぶっていたり、毛糸のチョッキを着ていたりします！その犬の飼い主の愛情なのかな？みなさんの中でペットを飼っている人はいいますか。どんなペットを飼ってますか。犬、ネコ、ハツカネズミ、サル、ヘビ、カブト虫、ピラニア！飼い主はペットのためにいろんなことをしてあげますよね。まずは食べ物を与えます。住み家をととのえます。そして散歩にも連れて行ってあげます。そうして養ってあげるわけですね。さて今日は飼い主がイエス様です。そして私たちはイエス様に飼われ、養われ、導かれている羊ですよ、とイエス様がたとえ話をしてくださっているところです。

よい羊飼い

羊という動物を見たり、さわったりしたことがありますか？羊たちは少し眼がうすくて、よく見えないし、だから迷いやすいし、歩くのもゆつくりゆつくりです。羊たちにとって羊飼いはどうしても

大切な必要な人です。もしいなかったら！それは羊たちには死を意味しています。よい羊飼いであるイエス様は私たちひとりひとりをよく知っていてくださり、名前を呼んで連れ出し、私たちの前に行ってくださいます。このイエス様について行くなら絶対に安全で大丈夫です。私たちも迷いやすい羊のような者ですから。イエス様はみ言葉をもって、まちがいなく私たちを導いてくださいます。ここには盗人とか強盗のことも言われています。これらはいやされた目の不自由な人を会堂から追い出してしまったパリサイ人たちのことを言っているのです。今もそんな人たちがいるでしょうか。私たちが羊のおりである教会の交わりからさそい出そうとする人たちがいたら、その人たちは盗人や強盗のような人たちですね。また雇人のことも言われています。雇人たちはおおかみがきたら羊をおいて逃げてしまおうのです。イエス様は決してそんな人ではなく、よい羊飼いで、羊のためにいつでも命を捨てられる真正正銘の羊飼いです。実際私たちのために死んでくださった救い主です。

豊かな命

イエス様がクリスマスにこの世界に天からおいでくださったのは「羊に命を得させ、豊かに得させるため」でした。では私たちは、もとはと言えはどんな命を持っていたのでしょうか？あるいは持っているのでしょうか？それは、イエス様を信じるまでの命は「貧しい命」なのです。貧しい命とは、罪にまみれた、汚れがいっぱいの命です。命と言えないかもしれないですね。そしてそれはやがて死んでゆき、滅んでしまう命です。そんな私たちのためにイエス様がおいでくださって、私たちの罪と汚れを背負

って十字架に死んでくださいました。しかし父なる神様の力により、三日目に死人の中からよみがえり、復活の命に生かされ、天に昇り、今私たちのためにお祈りをしてくださいます。死人の中からよみがえられたお方は、歴史上ただおひとり、イエス様だけなのです！だからイエス様だけが真に神の子です。そしてこのイエス様の十字架の前に、自分の罪をおわびし、私の罪の刑罰を身代わりに受けられた十字架と信じる者には、完全な罪のゆるしと、神の豊かなよい命、永遠の命が与えられるのです！

レーナ・マリアさん

1968年、スウェーデンの村ハーボに生れた女の子は、生れた時から両腕がなく、左足が右足の半分の長さしかないという原因不明の障害児でした。神を信じる両親に育てられ、3歳から水泳をはじめ、少女時代から教会の聖歌隊でも活躍し、神からの賜物を生かし音楽専攻科の高校と、ストックホルムの音楽大学で学びました。「神様は、私を障害児として造られたわけではなく、別の原因でこういう体になったのだと思います。それに神様は全能ですから、私の手や足を造り変えることもおできになるはずです。でもそうならず、私に障害を残しておかれるのは、人間にとって第一に大切なのは、体の健康よりも、魂の健康であることを明らかにするためだと思っています」と語り、「主は私の羊飼いです。私は乏しいことがありません」と神様をたたえています。「聴き手は、『この人は両手がないのに、あんなに喜んで、『私は乏しいことがありません』と歌っている』と驚くことでしよう。神様は手の代わりに心の中に豊かさを与えてくださいましたと！♪かいぬしわが主よ♪（こどもさんびか34番）

ワーク A

話し方のヒント

皆さんは、「これは良い事かな？悪い事かな？どっちかな？」と迷う事があるませんか？迷った時に間違って悪いことを選んでしまうと、罪を犯してしまいます。罪ばかり犯してしまつと、天国に入ることは出来ません。しかし、もし皆さんが迷つても、イエス様に「どっちでしょうか？」と聞くなら、イエス様は必ず正しい道を教えてくださり、私たちを豊かな命と天国に導いてくださいます。

ワークについて

イエス様に導かれて、天国への道を歩みましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 よい羊飼い、羊、強盗のそれぞれの特徴をつかむと同時に、豊かな命を与えてくださる主のすばらしさや自分の弱さも知りましょう。

●質問3 イエス様がこの世に来られたのは、私たちが永遠の命を持つことができるようになるためでした。罪深く弱く弱い私たちが、「イエス様の十字架は私の罪のためでした」と信じるだけで、永遠の命をいただくことができるのはなんと感謝なことでしょう！

ワーク C

●み言葉を覚えてから書き入れます。

●第2問 聖書を1節ずつ輪読します。長いので7〜15節に絞りました。

①門。【救う。牧草にありつかせる。命を得させる。】

②よい羊飼い。【命を捨てる。羊を知る。】

●第3問 罪にまみれ、汚れがいっぱい。滅んでいく。希望や喜びがないなど。キリストを信じていない状態は、羊の門を通っていない羊、よい羊飼いに導かれていない羊と同じであることを説明すると良いでしょう。

●第4問 罪が赦されきよくなる、永遠の命など。

第2問の答えを参考にし、良い羊飼いのもとにある羊が受ける祝福と結び付けて説明します。

●第5問 イエス様を救い主（わたしのよい羊飼い）と信じること。イエス様に対する心の状態を観察し、祈ります。

ワーク D

●まだ一月です。すごろくを楽しみましょう。サイコロ1個と人数分のコマは用意してください。●すごろくのように、人生にもいろいろな場面があります。良い羊飼いの声を聞き分けて、その後をついていきましょう。

中高校へのヒント

●話し合ってみよう

1 友だちの影響で、「人が変ってしまった」ことがありますか。↓誰について行くかで、その人の人生が決定すると言っても過言ではありません。

2 本当に安心し、信頼してついて行くことのできる人は誰でしょうか。

●考えてみよう

1 羊と羊飼いの関係は何をたとえていますか。↓主イエス様と、信じる私たちです。

2 主イエス様は私たちに何をさしますか。↓名を呼び、導き、豊かないのちに導いてくださいます（聖書講解、研究資料参照）。

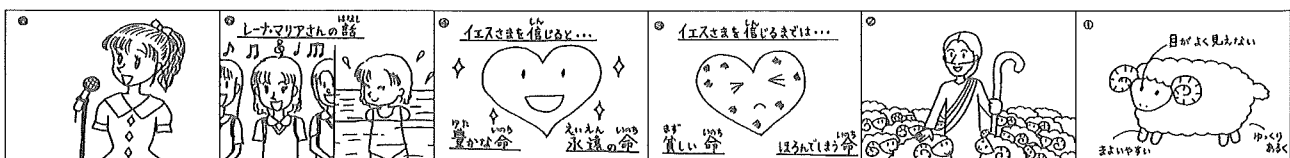
3 本当の羊飼いと、偽者の違いは何ですか。↓「よい羊飼いは、羊のために命を捨てる」（11）とあるように十字架が本物の救い主の証拠です。

4 偽者の羊飼について行くとうなりりますか。↓偽者はいざとなったら逃げてしまつし、最後は破滅してしまいます（10、12）。

●自分に当てはめてみよう

1 一見良さそうに見えても、「偽者」のような人がいます。だまされないようにしましょう。

2 主イエス様について行くために必要なことは何ですか。↓「羊は彼の声を聞く」（3）とは主の言葉を聞くことです。「彼は自分の羊の名をよんで連れ出す」（3）とは個人的に主を受け入れることです。「彼は羊の先頭に立って行く」（4）とは主に従うことです。



聖書 ヨハネ11・17、44
テーマ ラザロ

序論

(鎌野)

「羊に命を得させ」る主イエスは、この地上の命だけではなく、永遠の命を与えることのできるお方だ。それを象徴的に示すのが、この章に記されているラザロのよみがえりである。ヨハネ福音書においては、これは、主イエスが神の子であることを証拠だてる7つの「しるし」(証拠としての奇跡)の最後のものであり、主ご自身の復活を暗示するものであった(なお、先々週の盲人の癒しは第6番目のしるし)。このしるしは、3つの真理を教えていると言えるだろう。

一、本当の希望とは何か

前段に記されているように、主は、ラザロの病の報を聞いても、すぐに彼のいる町ベタニヤに出発されなかった。その結果、主がお着きになったときには、ハラザロはすでに四日間も墓の中に置かれていた(すぐにかけられたとしても、2日早く着くだけで、間にあわなかったのだが)。そこで、主が着かれたとき、姉のマルタとマリヤは、ハ主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう(21、32)。二人は、ラザロが死んでしまった以上、もはや主が来られても、何の希望もないと思っていたのだ。しかし主は彼らに、ハあなたの兄弟はよみがえるのである(う)と、驚くべきことを仰せられた。

今でも多くの人々は、死んでしまったら終わりでと思っている。彼らの希望はこの世だけのものである。しかし、主が与えてくださる本当の希望は、永遠に続くものなのである。

二、本当の愛とは何か

ハイエスは、マルタとその姉妹とラザロとを愛しておられた(5)。だから、弟を失って悲しみのどん底にいる姉たちの気持ちを十分理解しておられた。主は、まずマルタにハわたしを信じる者は、たといい死んでも生きる(と)言ってお励まされ、また、家にいたマリヤも連れ出して墓に向かわれたのである。泣いているマリヤやユダヤ人たちを見て、主はハ激しく感動(と)された。これは、「人類の最後の敵」(1コリント15・26)である死に対する憤りであった。さらにまた、主はハ涙を流された(ハはらはらと涙を落とす)というニュアンスのあるこの語は、聖書中でここにしか用いられていない)。それを見た人々は、ハああ、なんと彼を愛しておられたことか(と)、主の愛の大きさを知ったのである。

愛されているのは、単にラザロだけではない。父なる神はこの世のすべての人々を愛し、「御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るため」に、御子イエスをこの世に遣わされた(3・16)。主の使命は、死の力をこぼち、信じる者に永遠の命を与えることだ。主は今も私たち一人ひとりを愛しておられるゆえに、罪からくる報酬である死を、私たちの身代わりとなって味わってくださった。これこそ本当の愛である。

三、本当の信仰とは何か

すでに主は、ヤイロの娘とナインのやもめの息子とをよみがえらせておられた(マルコ5章、ルカ7章)が、それを目撃していた弟子たちでさえ、ラザロの場合にはそれを期待していなかった(11・16)。マルタがハ終りの日のよみがえりの時よみがえることは、存じています(と)しか言えなかったのも不思議でない。また人々も、ハあの盲人の目をあけたこの人でも、ラザロを死なせないようにには、できなかつたのか(と)言っていた。だけれども、主の力を信じていなかったのだ。

しかし主は、墓の石を取りのけることを躊躇するマルタに、ハもし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったではないか(と)厳しく仰せられた。主イエスが神の子であるなら、全てのことは可能である。これを信じるこそこそが、本当の信仰である。私たちにも、この信仰があるだろう。

結論

ラザロの死は、「神の栄光のため、また、神の子がそれによって栄光を受けるためのもの」(4)であった。彼のよみがえりが神の栄光を現したことは事実である。しかし、彼はその後永遠に生きていたのではない。いつかは、肉体の命を失ったであろう。この聖句が文字どおり実現したのは、それから1週間余り後、主イエスご自身が復活された時であった。復活こそ、主が神の子であることの明確な証拠であり、私たちに永遠の命を与えてくださることの保証である。

研究資料

(石田)

テキスト

17 ラザロはすでに四日間も墓の中に置かれていた。主イエスがラザロの病気を伝え聞いたのはヨルダンの向こう岸で(10・40)、そこからベタニヤまで一日路であった。主がそこにあえて二日とどまつたので、ベタニヤに着いたときはすでに4日経っていたことになる。ふつう、蘇生する見込みは全くなく、ラザロが死んでしまったことは明白である。

21 主よ、もしあなたがここにいて下さったならマルタは主がかつて死人をよみがえらせたことを知ってはいたが、主がラザロの生きているうちに来たら癒されたはずだという信仰と、死んだ以上は何も起こらないという不信仰とが混在している。

22 しかし、あなたがどんなことをお願いになつても 21節と同じことをマリヤも言っているが(32)、マルタの場合は、それでも主は憐れんでくださるのではないかという信頼を保持していた。

23 あなたの兄弟はよみがえれるであろう。主イエスは彼女の信仰を捉え、さらに引き上げるため、このように宣言されたのであろう。

24 終りの日のよみがえりの時よみがえれることは、存じています。当時のパリサイ人は、世の終わりにメシヤが来るとき、死人はよみがえってさばきを受けると信じていたが、マルタはそういう意味でラザロのよみがえりを信じていたにすぎない。マルタはイエスが何かをしてくださるに違いないとは信じていたが、ラザロを今よみがえらせてく

ださるとまでは想像もしていない。

25 わたしはよみがえりであり、命である。「よみがえり」と訳されたアナスタシスは、本来「立つ、立ち上がる」という意味だが、新約では「よみがえり、復活」と訳されている(38回)。また「わたしはくである」という表現が、神性を表すことは10章の「わたしはよい羊飼である」と同じ。主イエスはご自身が永遠の命の源であり、信じる者にそれを与えることができる。わたしを信じる者は、たといい死んでも生きる。この文脈においては、ラザロがよみがえれることを意味しているが、今日的には主イエスが再臨する前に死んだ信者が、再臨のとき、復活することを表している。なお「生きる」は未来形。

26 生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。主イエス再臨のとき、生きている信者は死ぬことなく、一瞬に栄化され、天に移されて永遠に生きることである。あなたはこれを信じるか。主は語るだけで終わることなく、質問することによって、マルタの信仰を引き出そうとしておられるのであろう。

27 主よ、信じます。マルタは見事に信仰の応答をした。何もかもわかってこう言ったわけではない。それが証拠に、ラザロの墓の石を取りのける段になると、彼女は主の行動を止めようとしている(39)。しかし主イエスが神の御子であるなら、自分の思いを超えることをしてくださるという信仰告白は、この時点の彼女にとって最上のものではあった。

33 激しく感動し、また心を騒がせ、涙を流さ

れた。主イエスの感情が率直に記されている。激しく感動し(エンブリマオマイ)は胸が張り裂けるばかりに悲しむという意味である。もはや同情とか共感という次元ではなく、マルタとマリヤと同じ当事者となり切っている。涙を流された神の子は、人間としての自然な悲しみを表した。これは彼らへの愛の深さのゆえであった(5、36)。

39 石を取りのけなさい。主がご自分で取りのけるのではなく、そこにいる人々に命じているのは、彼らの信仰にチャレンジするためだからであらう。常識と不信仰を取りのけて、信仰を働かせるべきことである。

40 もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったではないか。これは25、26節のことではないかと思われる。神の栄光は、見てから信じるのではなく、信じたから見られることを教えられる。

41 人々は石を取りのけた。主の言葉に従うことによって信仰を表した。それが神の栄光を見ることにつながってゆく。父よ、わたしの願いをお聞き下さったことを感謝します。神の栄光を見ることを先取りして祈っている。

42 あなたがわたしをつかわされたことを、信じさせるため。主が奇跡をなさる目的はご自分の栄光のためではなく、人々が主を信じるようになるためである。

44 すると、死人は出てきた。主がよみがえりであり、命であることが実証された。

参考文献 『新聖書注解』、『ウエスレアン聖書注解』、『新約聖書注解(マクドナルド)』など。

聖書 ヨハネ11・17〜44
タイトル 神の子の栄光
暗唱聖句 もし信じるなら神の栄光を見るであらうと、あなたに言ったではないか。
ヨハネ11・40
目標 ラザロをよみがえらせたイエス様こそ神の子と信じる。

導入

(小野)

新しい年ももう22日、4回目の日曜日になりました。希望に燃えてスタートした二〇〇六年、どうですか？ ますます希望がいっぱいでしょうか、それとも、「やっぱり変わらないなあ、希望なんてもうどこかへ行っちゃったよ、これぐらいならいいのですが、」や、もう失望の連続だよ、絶望に近いかなあ、なんて思っているお友だちがいますか？ 希望は失望に終わらない！ というのが聖書のメッセージですよ。それはすべて、イエス様が神の子であるということにかかっているのです。その神の子の栄光がすばらしくあらわされたことを、今日はしっかりと心に刻みましょう。

人の絶望

イエス様がとても愛していたベタニヤ村に、マルタ、マリヤという二人の姉妹と、ラザロという弟がいました。そのラザロが病気でずっと知らせがイエス様のもとに届きましたがイエス様は、「この病気は死ぬほどのものではない。それは神の栄光のため、また、神の子がそれによって栄光を受けるためのものである」と言われて、なお二日そ

の所にとどまられたのです。それからラザロに会い、ラザロを起すために、ラザロのもとに向かわれました。ラザロはもう死んで四日もたっていました。ベタニヤは絶望の色一色です。涙一色です。マルタもマリヤも悲しみと絶望のどん底でした。そうです。誰にとつても、「死」は「絶望」そのものです。かわいいベツトが死んでも悲しくてたまりません。大好きなおじいさんやおばあさん、お父さんやお母さん、お兄さんやお姉さん、弟や妹の死は、どれほどに悲しくつらいことでしょう。お友だちの死も近所や親戚の仲良しの人の死もそうです。「死」はすべての終りなのではないでしょうか？ 人の絶望は永遠に絶望のままなのではないでしょうか？

神の子の希望と栄光

涙にくれているマルタに、「あなたの兄弟はよみがえるであらう」とイエス様が語られると、マルタは「終りの日のよみがえりの時よみがえることは存じています」と答えました。するとイエス様は、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」とマルタに言われました。マルタは本当に信じられたのでしょうか？ マリヤも泣きぐずれ、まわりには多くのユダヤ人も泣いています。みんな、先にイエス様が死人をよみがえらせたことを覚えていなかったたのでしょうか。イエス様も愛の涙を流されました。人々は「なんと彼を愛していたことか」と言い、またあの日、自由な人の目をあけたこの人でも、ラザロを死なせないようにはできなかったのか」などと言いました。イエス様は心をふるわせながら、墓に入り、「石

を取りのけなさい」と言われます。マルタの驚き！ 工！？ もう四日もたつて臭くなっていますとの言葉に、「もし信じるなら神の栄光を見るであらうと、あなたに言ったではないか」とのイエス様のお言葉。人々が石を取りのけるとイエス様は祈られました。「父よ、いつも願いを聞いてくださることを感謝します。そして今、ここにいる人々が、あなたがわたしをつかわされたことを信じさせてください」と。そして大声で呼ばわれました。「ラザロよ、出てきなさい！」するとどうでしょう！ 死んだラザロ、死んで四日もたつて臭くなっていたはずのラザロが、手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきたのです！ 「彼をほどこいてやって、帰らせなさい」とイエス様は人々に言われました。これこそ、神の子のしるし、神の子の奇跡、神の子の栄光、そして神の子の希望。死人をよみがえらせたイエス様こそ、父のひとり子、神の御子です。こんなわざは人には絶対にできません。人は死の前には無力、絶望です。しかし、神の子キリストにあつてのみ失われることのない永遠の希望があるのです。ハレルヤ！ ラザロの復活は、このち、イエス様ご自身が、十字架で死に、墓に葬られ、三日目に神様の御力でよみがえる予告でした。今、イエス様はよみがえって、天で私たちのためにお祈りしててくださいます。神の子イエス様を信じて、神の子とされた私たちも、たとい死んでもまた必ずよみがえらせられて、永遠に神と共に生きるという最高の希望が与えられています。それはイエス様が再び来られる時に必ず実現します。今日も明日もこの神の子の希望と栄光の中を歩みつづけましょう。

♪いつしよにうたおう♪ (プレイズワールド30)

ワーク A

話し方のヒント

皆さんは、死んだらどうなるのでしょうか？ 死んだら目も見えないし、耳も聞こえないし、食べること、身体を動かすこともできません。身体もなくなってしまうのです。死んだらどうしよう、と心配になりますね。けれども、イエス様を信じて神の子とされるなら、死んだラザロがよみがえったように、私たちもよみがえらせていただいて、永遠に神様と共に生きる、すばらしいプレゼントをいただけるのです。

ワークについて

神の子は、死んでも生きること覚えましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 人を生きかえらせることのできるのは、よみがえりであり命であるイエス様だけです。また、イエス様は涙を流して、悲しむ者と共に悲しんでくださるお方です。

●質問3 今日、「死んでも生きかえる」と考える子も少なくないようです。しかし、それが主にあるよみがえりを意味していいことがあるので、注意しなければなりません。命の大切さも教えつつ、主にあるよみがえりと永遠の命への希望をもたせましょう。

ワーク C

●み言葉を覚えてから書き入れます。

●第2問 聖書を輪読します。今日も長いですが、がんばって読んでみましょう。無理があるようなら生徒に合わせて短くしてください。①②聖書の通り書き入れます。

●第3問 主は、ラザロを墓から呼び出し、ご自身も墓からよみがえられ、栄光をあらわされました。よみがえらされたラザロは、やがて死にました。しかしイエス様は、永遠の命によみがえられ、今も生きておられます。主の栄光とすばらしさを強調します。

●第4問 復活は、生徒自身にかかわることです。本人が持っている希望を聞いてみます。永遠の命、自分自身の復活、再臨、イエス様に守ってもらえる、イエス様に会えるなど、自由に書いてもらいます。また、主の復活を信じているか、生徒の信仰の状態を確認し、祈りに覚えましょう。

ワーク D

●イエス様が死者を生き返らせられるわざを、現代の私たちは聖書以外で見ることがありません。私の友人は夫が重い病気にかった時、今日のみ言葉が与えられましたが、彼女の夫は天に召されました。もうこのみ言葉は彼女には関係のないものとなったのでしょうか。いいえ。夫を天に送った後も、このみ言葉を信じて生き続ける時、必ず彼女は神の栄光を見る日がくるのです。なぜなら私たち主を信じる者は、復活の主と共によみがえりの朝を迎えるからです。

中高科へのヒント

●話し合ってみよう

1 死は、なぜ最大の絶望なのですか。↓人々は「死んだらおしまい」と思います。死後、何があるかわからない、何も残らない、何もできないと思っっているからです。

●考えてみよう

1 主イエス様はラザロが死んだ後に、すぐに行かなかったのはなぜですか。↓「あなたがたが信じるようになるため」(15)と言われたように、最後は信仰を持つことができるように主の計画があったからです。

2 「終りの日のよみがえりの時、よみがえることは存じています」(24)とはどういう意味ですか。↓終末の時の復活は信じてますが、今は不可能という半分だけ信じている信仰です。

3 なぜ、主イエス様は涙を流されたのですか(35)。↓死に打ちのめされている人々に対する深い愛と同情の涙です(研究資料参照)。

4 「もし信じるなら神の栄光を見るであらう」(40)と言われました。人々はどうしましたか。↓主の言葉に従い、石を取りのけました。

●自分に当てはめてみよう

1 最大の絶望である死の解決はありますか。↓ラザロをよみがえらせ、わたしたちの罪のために十字架にかかり、三日目に死からよみがえり、死に勝利され、今も天においてとりなしておられる主イエス様を信じることによって解決できます。



聖書 ヨハネ15・1～11
テーマ キリストにつながる

序論

(鎌野)

主イエスは、「羊に命を得させ、豊かに得させる」ために、この地上においてにいられた。与えられた「永遠の命」は、さらに豊かになるものである。主はこの真理を、十字架刑の前日、聖餐が制定された最後の晩餐の席上で、ぶどうの木のとえをもつて語られた。旧約聖書ではしばしばイスラエルがぶどうの木にたとえられているが、主はそれを「新しいイスラエル」である弟子たちや、後に生まれるクリスチャンにあてはめて話されたのである。ぶどうの木が豊かな実を結ぶためには、次のことを知らねばならない。

一、父なる神は農夫

主は、へわたしにつながるっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もつと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいなさるゝと言われる。父なる神は、農夫のように結実に関心を持つておられる。実を結ばなかった過去のイスラエルは、バビロン捕囚等の厳しいさばきを受けた。しかしそれと対照的に、実を結ぶものは、へ手入れしてきれいなさるゝのである。この表現は、原語では一つの動詞で、3節のへ(わたし)が語った言葉によつて)きよくされているゝという動詞と同類の言葉だ。つまり、父なる神は主イエスの言葉によつて弟子たちを手入れなさるのである。

父なる神は、旧約時代のイスラエルが豊かな実を結ぶことを願つておられた。しかしそうでなかったために、御子イエスを「神の言」としてこの地上に遣わされた。このお方によつて人々が豊かな実を結ぶようになるためである。

二、弟子たちは枝

弟子たちは、主の言葉によつてへ既にきよくされているゝ。これは直前の洗足の時に、「あなたがたはきれいなのだ」(13・10)と言われたのと同じことだろう。それでも、主に足を洗つていただき、主イエスとつながり続ける必要があった。枝は、ぶどうの幹につながり、絶えず樹液を供給されねばならない。へ枝がぶどうの木につながっていないければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていないければ実を結ぶことができないゝからである。

主イエスは、父なる神と同じく、本来はぶどうの木を管理するお方であつた。でもその方がこの地上に木としておいでになつた。この方につながっているなら、どんな枝でも実を結ぶことができる。しかし、木につながっていないければ、枝は決して実を結ぶことはできない。へ既にきよくされているゝ者だからこそ、主イエスにつながり続けることが重要なのである。これは当時の弟子たちだけでなく、現在の私たちにもあてはまる。

三、結果としての豊かな実

ぶどうの木が豊かに結実するために、農夫は肥料をやり、手入れする。これは外部からの恵みで

ある。ぶどうの木は樹液を送り続ける。これは内部からの恵みである。その結果、ぶどうの木は豊かに実を結ぶ。バックストンは、こう注解している。「この実はどういう実でありますか。これは一番最初に伝道の成功ではありません。神はまず私共の心に実を結ぶことを願ひ給います。ガラテヤ5・22、23を御覧なさい」(『ヨハネ伝講義』287頁)。ここには、御霊の実が9つ挙げられており、その最初の二つが愛と喜びである。本日のテキストの9節以降が、この二つの実について語っているのは、決して偶然ではない。

主は言われる。へわたしの愛のうちにいなさい。もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにいるのであるゝ。原語では、「(愛のうちに) いる、おる」という語は「わたしに」つながる」という語と同じである。主の愛のうちにいるときに、愛という実を結ぶことができる。そして主の戒めを守ることでもある。父なる神と主イエスとの親密な関係が、私たちと主との間にも生まれるのだ。その結果、主の喜びが私たちにも宿るのである。

結論

へわたしはぶどうの木、あなたがたはその枝であるゝとのみ言葉を、クリスチャンは決して忘れてはならない。神の子であるキリストにつながつてこそ、私たちの命は豊かになり、豊かな結実が与えられるのだ。「新しいイスラエル」である新約時代の教会は、聖餐の恵みにあずかるたびに、この原則を思い起こすのである。

研究資料

(石田)

テキスト

1 わたしはまことのぶどうの木 旧約聖書において神の民イスラエルは、神によつて植えられたぶどうの木、あるいはぶどう畑として譬えられてきた(イザヤ5・1～5、エレミヤ2・21、エゼキエル15章、19・10、ホセア10・1)。そこで期待されていたことはよい実を結ぶことである。しかしイスラエルは不忠実のゆえに、結んだものは野ぶどうであり、期待に応えられなかった。まことの(アレーシノス)「ほんとうの、純粹の」という意味で、主イエスは自分こそ、イスラエルの民に代わつて神に期待されたとおりのよい実を結ぶまことのぶどうの木であると説明した。

2 わたしにつながつている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき… ここで父なる神は農夫として譬えられ、よい実を結ばせるため労苦する様が表されている。現代日本のぶどう園でも、より甘い実を結ばせるために、枝の剪定や摘果は欠かせない。この文脈において、それぞれのクリスチャンが神の愛に基づく刈り込みを受ける、つまりこの世間的な標準や人間的な思い、純粹でない動機を取り扱われる、と解釈すべきであろう。手入れしてこれをきれいなさるゝ(カサイロー) 詳訳聖書はへくり返し刈り込まれるゝと訳している。み言葉や人間関係、試練などによつてキリストに似る者となるよう折々節々に刈り込まれることである。3 きよくされている(カサロス) カサイローと同根の言葉で、「刈り込み済みである」という意味

合い。クリスチャンはみ言葉によつて魂のうちに探られ、取り扱われ、きよくされる。

4 わたしにつながつていなさい つながる(メノ)には「とどまる、いる、住む」などの意味があり、原文では「(わたしの)の内に」という前置詞がついている。「わたしの愛のうちにいなさい」(9)もこれと同じ動詞である。クリスチャンは信仰によつて主イエスにつながつた者であるから、そのうちにとどまつてこそ命があり、実を結ぶことができる。その具体的な内容が9、10節に展開されている。

5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である 主イエスと教会は、木と枝という命の一体性を持ち、枝は木に依存している。わたしから離れては、あなたがたは何一つできない ぶどうの枝が木から離れてしまつたら実を結べないこと(4)がこのように言い直されている。「できない」というのは、神に喜ばれ、永遠に残る神のわざをすることはできないという意味である。主自身も「自分からは何事もすることができない」(5・19)と言われ、父なる神に全く依存しておられた。これは主の不自由さ、不完全さを意味するのではなく、むしろ「わたしと父とは一つである」(10・30)という神との一体性を裏づけている。

6 人がわたしにつながつていないならば、枝のように外に投げすてられて枯れる 落ちたぶどうの枝はほとんど使い道がない。これは主イエスとの生きた交わりから離れていると、主の役に立てなくなるとのことである。

7 なんでも望むものを求めるがよい 主とつな

がることと祈りの関係について言われている。主のみ言葉にとどまるならば、主のみこころに沿つた祈りをささげることができるようになり、祈りが答えられるという確信が深まる(1ヨハネ5・15)。み言葉に従っている人の祈りに、神は驚くばかりに答えてくださる。

8 あなたがたが実を豊かに結び このこととわたしの弟子となることが同列にされていることに注意したい。主イエスを信じたら自動的に主の弟子となるというのではなく、豊かに実を結び、主に似た者となつてこそ、真の弟子である。それによつて、わたしの父は栄光をお受けになる 私たちが豊かな実を結ぶのは、人からの評判を得るためではなく、父なる神があがめられるためである(マタイ5・16)。

9 わたしの愛のうちにいなさい 主イエスの愛のうちにいることの具体的な内容が10節で説明されている。それは主のいましめ、そのみ言葉を守ること、結局これが主イエスにつながっていることである。

10 もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにいるのである 主イエスのみ言葉を聖霊により頼んで実践しようとするならば、主の愛の一端を体験する。

11 わたしがこれらのことを話したのは… 主がぶどうの木の譬えを話した目的が明らかにされる。わたしの喜びがあなたがたのうちに宿るため、また満ちあふれるため 主が御父の戒めを守ることによつて得ていた交わりの喜びに、私たちにも豊かにあずからせたいという目的である。

聖書 マルコ4・1-9
テーマ 種まきのたとえ

序論

(金井)

主イエスは天から降^{くだ}って来られた神の御子であるが、人々に身近な地上の事物を用いて、^{たとえ}譬で多くの事を教えられた。今月は主イエスが語られた「たとえ話」について学んでいこう。

一、聞きなさい

主イエスがいつものようにガリラヤ湖畔で教えておられた時のことである。△おびただしい群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に乗ってすわったまま、海上▽から浜辺にいる人々に語られた。この頃イエスのうわさはガリラヤの全地方に広まっており、病人や悪霊につかれた者を連れて人々が続々と集まってきたのである(1・28、32、45、2・2、13、3・7、20)。彼らが皆イエスに触ろうとして押し寄せるので、イエスは弟子たちに小舟を用意させておかれた(3・9、10)。

人氣を博しても、主イエスは決して有頂天にはなれなかった。むしろ、主は透徹した靈眼で、人々の心と態度を見つめておられた。それゆえ、主イエスは△聞きなさい▽と言って、彼らの注意を喚起して、教え始められたのである。種まきのたとえを語られた後、イエスは言われた、△聞く耳のある者は聞くがよい▽。ここで主が問題とされたのは、人々がどのような心と態度でみ言葉、すなわちイエスの福音を聞くかということである。

二、実を結ばない種

この地方では10月末から11月に秋の雨前の雨^{アム}が降り(申命記11・14、ヤコブ5・7)、土が柔らかくなった頃に農民は大麦や小麦などの種をまく。これは早まきである。その後、12月中旬から2月末にかけて大量の雨が降る雨季があり、それが明けてから豆などの種をまく遅まきを行う。種は畑の上に手で広くばらまかれた。

イエスの譬では△種▽は4種類の土地に落ちた。そのうち3種類は実を結ばず、1種類だけが実を結ぶ。△種▽とはみ言葉のことである(14)。

まず、△道ばたに落ちた種があつた▽。畑と畑の間の道は固く踏みつけられている。この種は△鳥がきて食べてしまった▽。これは固く閉ざされた心を持つ人を指している。話を聞いていても上の空。自分の考えに固執して聖書の教えを信じない。これではみ言葉を聞いても、簡単に△サタン▽が奪って行く(15)。

次に、△土の薄い石地に落ちた▽種があつた。ガリラヤ地方の地表の大部分は石灰岩が占めている。石地の上に土砂が薄く積もった場所が多い。△そこは土が深くないので、すぐ芽を出したが、日が上ると焼けて、根がないために枯れてしまった▽。△石地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くと、すぐに喜んで受けるが、自分の中に根がないので、しばらく続くだけである。そのうち、御言のために困難や迫害が起つてくると、すぐつまづいてしまう▽(16、17)。信仰は一時的な感情の高揚だけではいけない。生活に根ざして地道に続けることが大切である。

第三に、△いばらの中に落ちた▽種があつた。

これは△いばらが伸びて、ふさいでしまったので、実を結ばなかった▽。いばらやあざみは発育が早い^{ひよく}ため、作物が生長する前に地面を覆ってしまう。△いばらの中にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くが、世の心づかいと、富の感^{あはれ}わしと、その他いろいろな欲とがはいってきて、御言をふさぐので、実を結ばなくなる▽(18、19)。これは欲張り過ぎる人である。何が大切な事の軽重を考えて生活を整理しなければならない。

三、豊かに実を結ぶ種

△ほかの種は良い地に落ちた。そしてはえて、育つて、ますます実を結び、三十倍、六十倍、百倍にもなった▽。ガリラヤでも窪地や盆地には肥沃な良い土地がある。△良い地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞いて受けいれ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶのである▽。み言葉には人を生かし、神の国を建設する力がある。み言葉を忠実に学び、実践しよう。

結論

残念ながら、実際、多くの人が聖書のみ言葉を聞きつつも、信仰を捨てて去っていく。そして、神の祝福を失ってしまうのである。あなたはしっかりとみ言葉を握りしめているだろうか。信仰の成長を妨げる雑草を、刈り取っているだろうか。まかれた種がすべて実を結ぶわけではないが、み言葉の種をまき続ける教会は、必ず祝福される。力を合わせて、み言葉の種を広くまき続けよう。

研究資料

(石田)

テキスト

2 イエスは譬で多くの事を教えられた。ここまでにいくつかのたとえ話が出ているが、この種まきの譬^{たとえ}えは、主イエスによる完全な説明がついている。マルコにおける最初の譬^{たとえ}えであり、共観福音書に一貫して記されている。

3 種まきが種をまきに出て行った。当時の聴衆にとって、ごく日常のありふれた光景で、全く違和感のない譬^{たとえ}えであった。しかしその種のまき方は日本のそれと大きく異なっている。麦の種もみを畑一面に投げながらまいて行くのである。したがって、必ずしも良い地に落ちるとは限らず、無駄もたくさん出ることば聴衆も理解していた。以下に4種類の土壌が譬^{たとえ}えとして挙げられているが、人はみ言葉を聞いたとき、それぞれ違う反応をし、み言葉を受け入れるかどうかを示している。

4 道ばたに落ちた種があつた。道ばたは往来する人や家畜の足で踏み固められており、とても芽を出す土壌ではない。み言葉が理解できないというよりも、心を閉ざして受け入れようとしないう態度のことである。その心は福音に対してきつぱりと拒絶する。鳥がきて食べてしまった。15節で解説されているように、サタンはかたくなな人の心にまかれたみ言葉を奪って行ってしまう。

5 ほかの種は土の薄い石地に落ちた。16節で解説されているように、み言葉をうわべだけで受け入れる態度のことである。福音を喜んで受け入れながらも、実は頭だけで同意しただけで、自分を

本当に救い主に委ねたわけではない。心から悔い改めるところまで行っていないのである。根がないために枯れてしまった。「自分の中に根がない」(17)と説明されているように、悔い改めと信仰、そしてみ言葉に従うことによって、主イエスとながっていない場合を指している。こういう人は祝福だけを求めて主ご自身を求めないので、み言葉のために困難や迫害が起こつてくると、祝福が失われたと勘違いしてつまづいてしまう。

7 ほかの種はいばらの中に落ちた。19節で解説されているように、神と人と富とに兼ね仕えることはできないのに、両方の祝福を得ようとするために心が分れてしまう。これは、せっかくその人の心^{こころ}にみ言葉の芽が出ても、この世の力、肉の欲などに負けてしまうことの譬^{たとえ}えである。情報過多と優先順位の混乱によつて、余りにも多くのことに関心をもちすぎ、いさぎよく神第一に生きようとし^しない心のあり方でもあるだろう。

8 ほかの種は良い地に落ちた。はじめの三者は「御言を聞く」だけだが(15、16、18)、この場合は「御言を聞いて受け入れ」る(20)。そこには結果において大きな違いが出てくる。20節に解説されているように、世と肉と悪魔の力に負けず、み言葉を受け入れて主に従おうとする態度のことである。そしてはえて、育つて、ますます実を結び、三十倍、六十倍、百倍にもなった。どんな犠牲を払つてもみ言葉に従う祝福は、私たちの予想をはるかに超える。これは地上における祝福だけでなく、天における報いの絶大さを暗示していると言えるだろう。

9 聞く耳のある者は聞くがよい。これは「み言葉を受けるあなたの土壌はどんなものだろうか」と聴衆に考えさせる言葉である。

10 これらの譬について尋ねた。弟子たちは主が譬^{たとえ}えという方法で語ることが不思議に思ったことがうかがえる。あなたがたには神の国の奥義が授けられているが、奥義(ミユステリオン)とは、部外者には知り得ない秘密ということではなく、神の啓示によつて説き明かされた真理のことである。弟子たちは、主を信じて新しく生れており、靈的洞察力をある程度与えられていた。そのような人は、奥義と説き明かしを聞かされても基礎があるから理解できる。ほかの者たちには、すべてが譬^{たとえ}えで語られる。その理由は第一に、一般の人には神の国の奥義を知ることが許されていないからである。それは直接奥義が語られても、彼らに靈的洞察力がないために理解できなかったり、つまづいたり、反発したりするからである。そういう人々には、彼らの身近で興味を引くような譬^{たとえ}えのほう^{ほう}が有効であった。第二は、彼らは見るには見^みるが、認めず、聞くには聞くが、悟らず、悔い改めてゆるされる^{ゆる}ことがないからである(12、イザヤ6・9からの引用)。これは靈的に無知なためではなく、意図的な無知、つまり主の言葉に心を閉ざしている人のことである。パリサイ人や律法学者たちがその典型であった。主イエスの奇跡を見て、も奇跡と認めようとせず、福音を聞いても悟ろうとしないから、神の国の奥義をそのままでは語らなかつたのである。最後までその態度を貫くなら、悔い改めによつて赦^{ゆる}されるという道は閉ざされる。

聖書 マルコ4・1～9
タイトル 良い地に落ちた種

暗唱聖句 ほかの種は良い地に落ちた。

目 標 私たちの心を良い地としていた

マルコ4・8
いて多くの実を結ぼう。

導入

(山田)

皆さんは幼稚園や保育園のとき、畑で野菜やサツマイモを育てたことがありますか？ また小学生のとき朝顔の種を蒔いて朝顔を育てたことがありますか？

朝顔の小さな種を植木鉢に蒔くとき、どんなことが大切だったでしょうか？（子どもたちに答えてもらってください）いい土であること、水をあげることを、そして、よく太陽の光の当たる場所に置くことなどいろいろありますね。小さな種から大きな野菜が育ったり、きれいな花が咲いたりすると本当にうれしいものです。

さて、今日は4つの土地に蒔かれた種のお話です。イエス様はお話を聞きに来た人たちに、神様のことや天国のことがよく分かるように、「たとえ」を使ってお話をされました。

今月はイエス様のお話された「たとえ話」を4つ学びます。

4種類の地に落ちた種

最初は道ばたです。道ばたに落ちた種はすぐに鳥に食べられてしまいました。

2番目は土の薄い石地に落ちました。この場所に落ちた種の芽は出ましたが、土が深くないので根もはれず、陽が照ると枯れてしまいました。
3番目はいばらの中です。ところがいばらが邪魔をして伸びることができず、実を結びませんでした。
4番目は良い地です。良い地に落ちた種はぐんぐん育って実を結び、三十倍、六十倍、百倍になりました。

実を結ばない種

イエス様の「たとえ話」の中、道ばた、土の薄い石地、いばらの中の3種類の土地に落ちた種は実を結ぶことができませんでした。良い地に落ちた種だけがたくさんの実を結んだことをお話されました。

さあ、種って何のことでしょうか？「種」は神様のみ言葉のことです（14）。そして、4つの土地は私たち人間の4つの心の状態を表しています。「道ばたに落ちた種」は固くて開くことができない心を表しています。固い心の人、神様のみ言葉を聞いても無関心です。み言葉を信じないので、「鳥」のようにサタンが取っていつてしまします。

「土の薄い石地」はみ言葉を聞いて喜びますが、困ったことがあるとすぐに神様を信じなくなってしまう弱い心を表します。

「いばらの中」はイエス様よりも自分のやりたいことを大切にしてしまう心を表します。

豊かに実を結ぶ種

さて、「良い地に落ちた種」は三十倍、六十倍、百倍の実を結びました。み言葉をよく聞いて、み言葉の中で育っていく心を表します。学校やお家の中、毎日の生活でみ言葉を考えたり、み言葉どおりやってみる心です。

まとめ

私たちの心はどんな心でしょうか。教会学校に来ていたときだけ、み言葉を覚えていたけれど、家に帰ったらすっかり忘れてしまう心でしょうか。教会学校に来ていることからかわれたり、いじわるされたらみ言葉を捨ててしまう心でしょうか。皆さんは違いますね。み言葉を聞きたいから教会学校に来るし、み言葉を覚えて困ったときや苦しいときもイエス様に従う心がありますね。それが「良い地」の心です。

「良い地」の心は神様のみ言葉の中で育てられます。そして豊かな実をたくさん結ぶことができます。

インド国のとても貧しい人たちに神様の愛を伝えたマザー・テレサさんは、神様のみ言葉をそのとおりにやって生きた人です。神様に喜んでいただくお仕事をたった一人で始めました。そのお仕事を理解してもらえずにじめられることもありましたが、でもそのお仕事を続けていきました。少しずつ理解してくれる人たちが起こされ、一人からはじまった働きは多くの人たちの働きになりました。三十倍、六十倍、百倍の実を結んだのです。
♪4つの種♪
(友よ歌おう70)

ワーク A

●話し方のヒント

イエス様が種まきのたとえをお話しされました。4つの土地は私たちの心を表しています。神様のみ言葉の種は、今日も私たちの心にまかれています。皆さんはいつものような心で聞いていますか。み言葉を素直な心で信じて、イエス様に従っていく人は、神様の子どもとして成長し、豊かに実を結ぶことができます。

●ワークについて

4つの土地に表されているそれぞれの心を教師はよく理解し、質問してみよう（例：神様のみ言葉を聞いても信じない固い心はどれでしょう。その人から悪魔はみ言葉の種を取り去ってしまった。子どもたちが質問に絵で答えます。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 イエス様が教えてくださった種まきのたとえから、四つの土地の特徴や違いを見つけましょう。そして、そのたとえがどのような心の状態をあらわしているのか知りましょう。

●質問3 神様のみ言葉を聞くと、子どもも教師も、自分がどのような心の状態であるのかを知り、「良い地のような心になりたい」と願って祈り、主にあってみ言葉に聞き従いましょう。

ワーク C

●み言葉を覚えてから書き入れます。

●第2問 聖書を1節ずつ輪読します。14～20節も合わせて読んでください。

①②聖書を見ながら書き入れます。

●第3問 自分の生活への適用を導きます。み言葉を信じ行う人になれるよう祈ります。

ワーク D

●今日、道ばたや石地やいばらの地でも、がつかりしないでください。イエス様に信頼し、み言葉に聴き従っていくなら、イエス様が良い地にしてください。

●今日、良い地でも高ぶらないでください。イエス様を信頼し、み言葉に聴き従うことをやめて、自分勝手に生き始めるなら、すぐにでも他の3つの地になるからです。イエス様を信頼し、み言葉に聴き従っていくことで、良い地となり祝福が後から追ってくる人生にしてくださいましょう。

中高校へのヒント

●話し合ってみよう

1 中高生時代は肉体的、知的、社会的に、大いに成長する時期です。個人差はありますが、成長することは楽しみですね。

2 信仰も大きく成長する時期です。成長するためにはどうすればよいでしょうか。

●考えてみよう

1 種は何ですか。↓「み言葉」。「4種類の地」は何ですか。↓「わたしたちの心の状態」です。

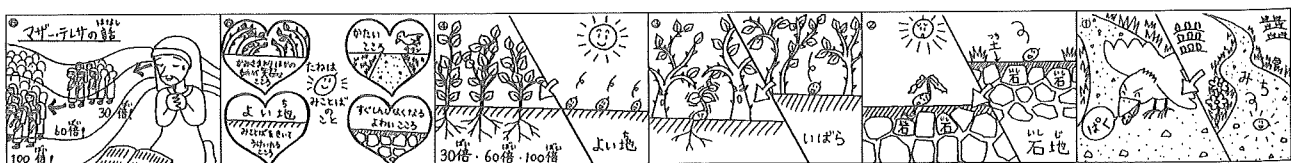
2 実を結ばない地はどんな状態ですか。↓「道ばた」「土の薄い地」「いばらの中」です。

3 実を結ぶ地とはどんな状態ですか。↓「良い地」です（説教例、研究資料、聖書講解参照）。

●自分に当てはめてみよう

1 教会学校に通っている皆さんはこの「種まき」のたとえ話は何回も聞いていますね。主イエス様は「聞く耳のある者は聞くがよい」（9）と言われました。耳で聞いても、聞き流してしまっはけません。マンネリにならずにいつも新鮮な心になつて神の言葉を聞きましょう。

2 「聞くには聞くが、悟らず、悔い改めてゆるされることがない」（12）と主イエス様は言われました。ほんとうに神の言葉を聞いていたならば、そのままではなく、罪を認め、悔い改めるはず、という意味です。小さなことでも、神様に示されたことは悔い改めましょう。



聖書 マタイ25・1～13

テーマ 十人のおとめ

序論

(金井)

主イエスは地上の事物をたとえに用いて、「神の国の奥義」(マルコ4・11)について教えられた。イエスの福音においては「神の国」と「天国」は同義であるが、その性質としては現在性と未来性の二面性がある。今日は未来性、すなわち来るべき神の国についてのたとえ話を学ぼう。

一、イエス・キリストの警告

主イエスはエルサレムで受難を前にして、「世の終り」(24・3)について弟子たちに教えられた。この世の終末・キリスト再臨の日がいつであるか、「その日、その時は、だれも知らない」(24・36)。ただし、主はその予兆を教えられた(24・4～31)。そして主は、「すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい」(24・33)と警告されたのである。

「この御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう」(24・14)。神は全人類に救われるチャンスを与えようとしておられる。しかし、「ちようどノアの時のよう」に(24・37)、多くの人々は警告の言葉に耳を貸さず、終末の予兆に気がつかない。

「だから、目をさましていなさい」(24・42)、「だから、あなたがたも用意をしていなさい」(24・44)と、主イエスは繰り返し警告された。この極めて重要な真理を弟子たちに徹底して理解させるた

めに、主イエスはさらに、たとえ話を用いて教えられた。それが今日のテキストである。

二、思慮が浅いおとめと深いおとめ

当時、ユダヤ人の結婚式では、花嫁の友人たちは花嫁の家に待機しており、△花婿▽が彼女たちを迎えに行つて、花婿の家で開かれる婚宴に連れにくることになっていた。ここに登場する八十人のおとめ▽は花嫁の友人たちである。当時、女性

は10代半ばに結婚したので、この△おとめ▽たちも同じくらい若い女子であろう。婚宴は通常、夜行われた。△十人のおとめ▽は△あかり▽を用意して待つていた。暗い夜道を照らしながら行くためである。ただし、△その中の五人は思慮が浅く▽、△あかりは持つていたが、油を用意していなかった▽。△五人は思慮深い者であつた▽ので、△自分たちのあかりと一緒に、入れものの中に油を用意していた▽。

ところが何らかの事情で、△花婿の来るのがおくれた▽。彼女たちは△あみな居眠りをして、寝てしまった▽。そして、△夜中に、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と呼ぶ声がした▽。花婿に同伴した友人が少し先に来て、彼女たちに花婿の出迎えを促したのである。△おとめたちはみな起きて、それぞれあかりを整えた▽。ところが、△思慮の浅い女たち▽のあかりは消えかかつていた。彼女たちは△思慮深い女たち▽に油を求めたが、断られた。そこで、彼女たちは店に油を買いに出た。その間に△花婿が着いた▽。△用意のできていた女たちは、花婿と一緒に婚宴のへやにはいり、

研究資料

(足立)

マタイの福音書にはイエスが語った5大説教が記されている(5～7章、10章、13章、18章、24～25章)。その中で24～25章は終末に関するメッセージであり、時期としてはキリストの十字架直前の説教となる。25・1～13は十人のおとめのとえと称されるが、この箇所を理解する鍵は24章の45～51節にある。特に、「主人がその家の僕たちの上に立てて、時に応じて食物をそなえさせる忠実な思慮深い僕は、いったい、だれであろう」(24・45)とあるが、十人のおとめのとえは、イエスの再臨を思慮深く待つ姿勢を教えている。24・45の思慮深い(フロニモス)ということばが、25・2、4、8、9でも使われている。

テキスト

1 たとえの主旨を理解するためには、当時のユダヤ人の結婚式を知る必要がある。結婚式は夜盛大に行われた。花婿は友人たちと花嫁を迎えに行き、おとめたちの持つ明かりで花嫁の家から花婿の家まで行進することになっていた。このおとめたちが、たとえの中心人物である。

2 おとめたちは二つのグループに分かれていた。五人、五人という数字に特別な意味はない。重要なことは、思慮が浅い者と思慮深い者とがいたということ。思慮が浅い(モウロス)ということばは、新約聖書中12回使用されており、本福音書では6回出てくる(5・22、7・26、23・17、25・2、3、8)。一方思慮深い(フロニモス)ということばは、新約聖書中14回使われており、本福音書では7回出

てくる(7・24、10・16、24・45、25・2、4、8、9)。

3～4 10人のおとめたち全員は明かりを持つていた。しかし思慮深いおとめたちが油を用意していたのに対して、思慮が浅いおとめたちは油の備えがなかった。花婿を迎えるには、明かりをともすことが絶対必要であつた。明かりをともし続けるには油の備えが必要になってくる。花婿がいつ来るかわからないので、入れものの中に油を用意して、きわめて慎重な準備をしたおとめたちが思慮深いといわれている。

5 花嫁の到着が遅れるとは、キリストの再臨が遅いと思われるような状況があるということである。花婿の遅延によつておとめたち全員は睡眠に陥つた。しかしこのことをイエスは非難していない。信仰者も疲れて睡眠に襲われることはある。

6 花婿の到着は夜中であつた。厳密にはまだ実際に着いてはいないが、花婿が目撃されており、到着を示唆する声が聞こえた。

7 10人のおとめたちはみな飛び起きて、即座に各自明かりを用意した。

8 ここで二つのグループにある違いがあらわれ始める。思慮が浅いおとめたちはこの時点で自分たちが困難にあることに気づいた。彼女たちの明かりは消えかかつていた。しかし即座にパニックに陥つたのではないようである。彼女たちは思慮深いおとめたちに油の分与を頼んでいる。

9 油を分けてくださいという要求を断るのは非常な感じがする。しかし行列の途中で油が切れて明かりがすべて切れてしまうのはよろしくない。思慮深いおとめたちの主張は致し方ない。又祝い

そして戸がしめられた。そのあとで、ほかのおとめたちもきて、『ご主人様、ご主人様、どうぞ、あけてください』と言った。しかし彼は答えて、『はっきり言うが、わたしはあなたがたを知らない』と言つた▽。

三、目をさましていなさい

この福音書ではすでに、イエスが△花婿▽であることが明らかにされており(9・15)、天国は△婚宴▽にたとえられている(22・2)。25章の△花婿▽もイエスを指す。△おとめ▽たちはキリスト者である。△花婿▽の到着の遅延は、イエス・キリストの再臨が多くの人たちの予想よりも遅れることを意味する(Ⅱペテロ3・4、9)。そのために△油▽の備えが足りない者たちが出てくる。まさに油断である。そのような者たちはキリスト再臨の時に△天国▽に入ることができない。

閉められた△天国▽の△戸▽は再び開けられることがない。最後の審判は、全人類の永遠の運命が真つ二つに分けられる厳正な裁きであつて、それ以降、もはや変更は有り得ない(25・41、46)。△だから、目をさましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである▽。

結論

今は主イエスが警告を発せられた二千年前よりも、ずっと終末の日に近いに近づいている。世の闇は深まっている。目をさまして主の再臨に備えたい。キリスト者は世事に疎くはいけない。偽預言者に惑わされてはいけない。聖書を学んで備えよう。

の日には真夜中でも店を開けてくれるので、自分の油を自分自身で買いくのは可能である。イエスはここで思慮深いおとめたちの応答の中に、油断のない終末への備えの姿を教えられている。

10 花婿の遅れは、思慮が浅いおとめたちにとって致命的であつた。彼女たちが油を買いに出ているときに、花婿が到着した。そして一行は花婿の家に向かい、婚礼の祝宴が始まった。花婿の到着に対して用意ができていたおとめたちは、喜びの祝宴を共有している。戸が閉められたのは、妨害者の侵入を防ぐためである。イエスが求める思慮深さとは、主の再臨が遅くなつてもいいように備えることにある。

11 思慮が浅いおとめたちが油を手に入れて(或いは手に入れられないで)祝宴の場に戻つてきて、戸を開けてくれるよう嘆願した。ご主人様、ご主人様という呼びかけは、マタイ7・21～23を想起させる。

12 しかしという一語が極めて重い。思慮が浅いおとめたちの要求が、主人によつて断固拒否されている。声は届いているが、場所を共にすることができないあまりにも厳しい現実。再臨の主イエスを待ち望んでいるかのように見える人々の中に、神の国の祝福に与れない人がある。

13 参照24・36、38、42、43、44、50。

参考図書 内田和彦『マタイの福音書』『実用聖書註解』いのちのことば社

Blomberg, C.L., Matthew (Broadman).
Morris, L., The Gospel According To
Matthew (Eerdmans).

聖書 マタイ25・13
タイトル 準備はいいですか？
暗唱聖句 だから、目をさましていなさい。その日その時があなたにたにはわからないからである。 マタイ25・13
目標 イエス様がいつ来られてもよいように賢く備えていよう。

導入 (山田)

皆さんの学校(保育園、幼稚園)は家庭訪問がありますか？家庭訪問は、先生がいつ来るのか、わかっていれば安心して待つことができますが、突然先生が来たらどうでしょう。びっくりしてどうしたらいいのか困ってしまうかもしれませんね。それとも先生はいつ来てもうれしいでしょうか？それじゃあ突然イエス様が来られたとしたらどうでしょう。うれしいのか、困ってしまうか、それともどんな気持ちができるでしょうか。

イエス様の大切なお話

イエス様がエルサレムの町で十字架につけられ、殺される日はもうすぐです。だからお弟子さんたち、とても大切なお話をされました。それは少し怖いお話でした。今私たちが暮らしている地球はいつか終わりが来ること、そしてイエス様はもう一度、みんなに見える姿でおいでになる「再臨」があるということです。イエス様はご自分がいつ来られても良いように準備することを、みんなに教えられたのです。そして、大切なお話が良くなるよう、たとえを使ってお話されました。

ユダヤの国の結婚式では、花嫁さんの家で、友だちは花嫁さんと一緒に花婿を迎えに来るのを待っているのが普通でした。そして花婿を迎えに来た時、その友だちも一緒に花嫁さんとお婿さんの家に行きます。また、披露宴は夜開かれまして。

油を用意していた五人のおとめ

「十人のおとめ」は花嫁さんの友だちです。でも、その十人のうち油を用意している人たちと、用意していない人たちがいました。今と違ってイエス様の時代は電気がありません。ランプが電気の代わりです。「十人のおとめ」はみんなランプを持っていました。ランプは油がないと点きません。「思慮深い(かしこい)五人」は自分の油を用意していたのですが、「思慮の浅い(よく考えていなかった)五人」は自分の油の用意がありませんでした。

何かの事情があつたのか、花婿さんの来るのが遅れ、みんな寝てしまいました。夜中に突然花婿が来ました。迎えに出るのにランプが必要ですが、でも、ランプの油がなくなり火は消えそうになっています。代わりに油の少ない、思慮の浅い五人は、油を余分に用意していた思慮深い五人に向かって、油を分けてほしいと頼みましたが断られてしまいました。困った五人は店に油を買いに出ました。ところが大変です。油を買いに出ている間に花婿が来てしまったのです。用意がしてあつた「思慮深い五人のおとめ」は、花婿さんと披露宴の部屋

に入りました。そして戸は閉められてしまいました。戸が閉められてしまった後、油を買いに行った五人が帰ってきました。五人は「ご主人様、ご主人様、どうぞ、あけてください。」と言っても、「わたしはあなたを知らない」と言われ、戸は開けてもらえませんでした。

イエス様をお迎えする準備って何

さて、このお話の「花婿」はだれのことでしょうか。イエス様ですね。イエス様はこの花婿のように、突然来られます。いつ来られるのかわかりません。だからイエス様がいつ来られてもよいように、準備していることがとても大切です。

ある時カトリックの神父さんが、三人の遊んでいる少年たちに「あと一週間しか生きられないとしたら何をしますか」と聞きました。一人は「すぐ教会に行ってお祈りをします」と答え、別の一人は「持ち物の全部を売って貧しい人に施します」と答えました。残った一人は「今は遊びの時間なので引き続き遊びたいと思います」と答え、今までと変わらずに遊びました。「引き続き遊びます」と答えた少年は、いつ天国にいつてもいい準備ができていたのです。

イエス様をお迎えする準備は何でしょうか。それはイエス様を信じることです。イエス様が私の罪のために十字架で身代わりに死んでくださったことを信じることです。

イエス様がいつ来られてもよいように準備をしています。

♪イエスさまのさいいりん♪
(ふくいん子どもさんびか76)

ワーク A

話し方のヒント

皆さんは、イエス様がもう一度来られることを信じていますか。イエス様がいつ来られるかは、天の父なる神様以外だれも知りません。イエス様を喜んでお迎えするために、私たちは目を覚まして準備をしなければなりません。そのためには、イエス様を救い主として信じ、いつも油断せず祈っていることが大切です(ルカ21・36)。「アメン、イエス様、来てください」と喜んで花婿であるイエス様をお迎えしましょう。

ワークについて

あなたはどちらの人でしょうか。イエス様をお迎えする準備は大丈夫ですか。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 イエス様が教えてくださった十人のおとめのたとえから、主の再臨に備え、いい加減な気持ちではなくしっかりと考え、いつ来られてもよいように準備しておくことの大切さを学びましょう。

●質問3 イエス様をお迎えする準備とは何か。子どもも教師も、「イエス様の十字架の死は、私の罪のためでした」と告白し、イエス様を信じ続けましょう。

ワーク C

み言葉を覚えてから書き入れます。

●第2問 聖書を輪読します。

①油。油のあるなしは、備えているかどうかの問題。

②それぞれ聖書から書き入れます。

③誰もわからない。もし、「わかる人もいる」「私は、わかる」と答えたなら、「他の宗教でそのように言う人がいます。そしてたくさんの方がだまされてきました。聖書は、わからないといっているのです、そのような人にだまされないようにしましょう」と言うこともできます。

●第3問 イエス様が、私の罪のために十字架で身代わりに死んでくださったことを信じる。罪が赦され、イエス様をお迎えできます。

ワーク D

●あかりだけでもダメ。花婿が来るのが遅れたら、あかりをとせなくなりません。油だけでもダメ。あかりをともし忘れているからです。あかりを軽視し過ぎていないでしょうか。

●あかりとは何でしょう。油とは何でしょう。話し合ってみましょう。研究資料、聖書講解、説教参照。あかりは隠さないで表すためのものです。油は表に出すものではなく、あかりのために準備しておく燃料であることは確かです。

中高校へのヒント

●話し合ってみよう

1 「再臨」という言葉を聞いたことがありますか。↓「再臨」とは、この世の終末に、主イエス様が再び来られることです。

2 「再臨」の時はどんなことが起こりますか。↓主イエス様は天から下って来られます。主を信じる者は栄光の体に変えられて、主イエス様とお会いし、天に移されます(使徒1・11聖書講解参照)。詳細は牧師先生に確認してください。

●考えてみよう

1 最後の言葉「その日、その時」(13)とはどんな時ですか。↓「再臨」の時です。

2 「思慮深い」5人のおとめは、披露宴の部屋に入れました。しかし「思慮の浅い」5人のおとめは入れませんでした。女たちの違いは何ですか。①居眠りの有無。②油の用意の有無。↓答え②です。

3 油はどうして分けてあげられないのでしょうか。↓主イエス様を信じる信仰も、再臨の用意もひとりびとりがすることです。他人が代わってあげることはできないからです。

●自分に当てはめよう

1 「目をさましていなさい」(13)とは、どんなことですか。↓心の目を開いて、主イエス様を信じ、心と生活がきよめられていくことです(1テサロニケ5・23)。



聖書 マタイ25・14～30
テーマ タラントのたとえ

序論

(金井)

前回に続いて、キリスト再臨への備えについて主イエスが教えられたたとえ話を学ぼう。

一、預けられた財産

△ある人が旅に出るとき、その僕どもを呼んで、自分の財産を預け▽た。彼は△それぞれの能力に応じて、ある者には五タラント、ある者には二タラント、ある者には一タラントを与え▽た。

旅に出る△ある人▽とは、この後、天に帰る主イエス御自身を指す。△その僕ども▽はキリスト者を指している。主は、私たちがこの地上で実を結ぶ信仰生活を歩めるようにと、必要な資源や能力を与えてくださっている。その分量に違いはあるが、皆、各自にふさわしいものである。

1タラントは6千デナリとされており、1デナリは一日分の労賃であったから、1タラントはおよそ20年分の収入にあたる。△五タラント▽は大きな資金である。△一タラント▽でも一事業を立ち上げるのに、足らんということはないだろう。

二、良い忠実な僕に対する報賞

△五タラントを渡された者は、すぐに行つて、それで商売をして、ほかに五タラントをもうけた。二タラントの者も同様にして、ほかに二タラントをもうけた▽。第一の僕は行動が速い。彼は自分の能力をフル回転させて、主人から預かった資金

を上手に活用し、それを倍に増やした。第二の僕もこれに準じている。

△だいぶ時がたつてから、これらの僕の主人が帰つてきて、彼らと計算をしはじめた。すると五タラントを渡された者が進み出て、ほかの五タラントをさし出して言つた、『ご主人様、あなたはわたしに五タラントをお預けになりましたが、ごらんのとおり、ほかに五タラントをもうけました』。主人は彼に言つた、『良い忠実な僕よ、よくやつた。あなたはわざわざかなものに忠実であつたから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ▽』。主人は第二の僕をも同様に褒めて、報いた。

△五タラント▽や△二タラント▽が△わずかなもの▽だというのだから、その後、彼らに託された△多くのもの▽は、計り知れないほど莫大な資産である。彼らは主人の願いを悟つて、それに忠実に応えたので、主人に大いに喜ばれた。

私たちの△主人▽であるイエスは私たちに、預けた資源や能力を神の国のために活用することを求めておられる。私たちは与えられた恵みを自分だけの楽しみにとどめず、積極的に用いて、拡大再生産するべく努力しなければならない。実を結ぶキリスト者の特徴は△忠実▽である。△主人▽であるイエス・キリストが再臨される時、良い忠実なキリスト者には、御国においてさらに大きな使命が与えられるであろう(黙示録5・10)。

三、悪い怠惰な僕に対する処罰

一方、△一タラントを渡された者は、行つて地を掘り、主人の金を隠しておいた▽。△金▽の原

義は△銀貨▽である。地下に金銭を隠すことは古代社会では普通に行われていたことである。

主人が帰つてきてから、先の僕たちに続いて、△一タラントを渡された者も進み出て言つた、『ご主人様、わたしはあなたが、まかない所から刈り、散らさない所から集める酷な人であることを承知していました。そこで恐ろしさのあまり、行つて、あなたのタラントを地の中に隠しておきました。ごらんください。ここにあなたのお金がございます▽』。この僕は自分の消極的な行動を主人の性格のせいにして、言い逃れを図つた。

主人は△悪い怠惰な僕よ▽と彼を叱り、△それなら、わたしの金を銀行に預けておくべきであつた▽と彼の怠慢を責めた。そして、主人は彼が返したタラントを取り上げて、十タラントを持つている者に与え、こう命じた、△この役に立たない僕を外の暗い所に追い出すがよい。彼は、そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう▽。これはキリスト再臨の時に天国に迎え入れられない不信仰なキリスト者の姿を象徴している(24・51)。

結論

他人と比較して自分には資源や能力が足りないと嘆いて、無為に時を過ごしてはいけない。△おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう▽。主は一人一人に必ずふさわしい賜物を与えておられる。まず、今自分にできることからチャレンジしよう(ルカ16・10、19・17)。忠実な者には豊かな報いがある。

研究資料

(足立)

主イエスは終末(キリスト再臨)に備えるキリスト信仰者の態度について、25章で3つの説教を用いて詳しく語っている。24・45に「忠実な思慮深い僕」とあるが、前回の25・1～13では思慮深さについて焦点が当てられている。そして25・14～30はタラントのたとえと呼ばれる個所であるが、ここは忠実な思慮深い僕の忠実さについて教えている。この個所も、よい忠実な僕と悪い怠惰な僕の登場によって、「忠実さ」が浮き彫りにされている。この忠実な(ピストス)ということばは、マタイ福音書には5回だけ出てくる(24・45、25・21「2回」、25・23「2回」)。このことから、このたとえが終末における信仰者の忠実さを教えていることがわかる。

テキスト

14 天国(神の国)とは、神の支配を意味するが、ここでは終末における神の支配を生き生きと描写している。それはある人(主)とその僕ども(信者たち)との関係であり、財産に象徴される賜物の管理を意味する。

15 主人は僕たちにかんりの額をそれぞれの能力に応じて託した。1タラントは6000デナリで、当時の労働者の6000日分の給料であつた。つまり約20年分の給料に匹敵する。5タラントはかなりの額であり、2タラントも少なからぬものであり、1タラントも決して軽視される額ではない。これらはすべて活用するために託されたのであるが、具体的な指示は出されておらず、各人の裁量

に任されている。

16△17 5タラント託された者はそれを活用して10タラントにし、2タラントの者は4タラントにした。結果的に二人とも本来の資本を倍にした活動となつた。並々ならぬ苦勞があつたと思われる。

18 1タラント託された者は他の二人と全く別の生き方をした。彼は地を掘りその金を隠しておいた。彼は自覚していないようであるが、隠しておいたものは主人の金であつた。地に隠すとは、失う可能性もないが、生み出す可能性もない。

19 主人が帰つてくるまでにはかなりの時間があつた。二人の者が資本を倍にするためには長い時間が必要であつた。だいぶ時がたつてからとあるから、主の再臨まで時間がかかなりあることがわかる。主人は委託した者たちと清算を始める。

20 5タラント託された者は、もう5タラントを生み出したことを喜んで報告している。

21 主人はこの僕をほめている。よくやつたとは賞賛のしるしである。良い忠実なとは、彼の人物と勤勉さを評価する表現である。又僕は、わずかなものに忠実であつたからと言われている。5タラントとは、人間的に言えばかなりの額である。しかし主人のことばから、主はいかに富んだお方であるかがわかる。多くのものを管理させようとは、忠実な僕には更に豊かなものを管理する立場が報酬として与えられることを意味している。主人と一緒に喜んでくれとは、あなたの主が与える喜びを共有することであり、御国の至福の喜びに関するユニークな表現である。この僕は主人の暖かい賞賛を受け、彼の未来は突出した喜びと結びつてゐる。

22△23 2タラントを託された僕の場合にも、まったく同じことばが繰り返される。主は賜物の大きさや力量で信仰者を評価していない。問題は忠実に託されたものを活用したかという点にある。

24 この人は1タラントの重みを自覚していなかった。彼は主人を過酷な方だと勝手に思い込んでいた。また1タラントを託されたことに感謝することもなく、無為に、無駄に長い時を過ごしてきた。不信仰ゆえに視点がゆがみ、託されたものを活用しなかつた事実だけが残る。

25 あなたのタラント、あなたのお金とこの人は明言している。彼は主人から委託されたものが何を意味するか、全く受け止めていない。

26△27 主人は僕を彼自身のことばに基づいて責めている。もし主人が酷な存在なら、それなりの対処の仕方があつたはずである。主人はこの人に悪い怠惰な僕よといつて、タラントを活用しなかつたことを問うている。おそらく主人は、1タラントの者にも、5タラント、2タラントの者にかけた祝福のことばを用意して来たであろうに。

28△30 清算の結果忠実な者には更なるものが与えられ、不忠実な者は託されたものを失い、神の前から遠ざけられ後悔する。このたとえは再臨までの時には意味があり、委託された賜物を活かすことが大切であることを教えている。

参考図書 内田和彦「マタイの福音書」『実用聖書註解』いのちのことば社、Blomberg, C.L., Matthew (Broadman), Morris, L., The Gospel According To Matthew (Eerdmans)。

聖書 マタイ25・14～30
タイトル 君のタラントは何でしょう
暗唱聖句 良い忠実な僕よ、よくやった。
マタイ25・21
目標 与えられている能力を生かして用
いるよい僕とされよう。

導入

(山田)

皆さんの得意な(とても上手にできる)ことは何でしょうか。音楽? かけっこ? 何かを覚えたりすることですか? いろいろあるでしょうね。その得意なことをして、ほめられたことはありませんか。ほめられたら、もっと練習して上手になろうと思いますね。そして得意なことでお友だちが喜んでくれたら、本当にうれしいと思います。得意なこと、それは「才能」と言ってもいいかもしれません。神様から与えられた才能や恵みのことを「タラント」と言います。

先週に続いて、今日は3つ目の「たとえ話」、「タラント」が出てくるお話です。

まかされたタラント

ある人が旅行に出るとき、僕たちを呼んで自分の財産を預けました。その人は、それぞれの能力に合わせて、ある人には5タラント(一日の賃金は1デナリ。今のお金にして、一日のお給料が1万円と考えたら3億円になります)。ある人には2タラント(一億二千万円)、ある人には1タラント(六千万円)を与えて旅行に行きました。

5タラントをまかされた人は、すぐに行って、商売をして、もう5タラントを儲けました。2タラントまかされた人も同じようにして、2タラントを儲けました。ところが、1タラントをまかされた人は地面を掘って、ご主人のお金を隠しておきました。

計算する主人

だいぶ時間がたって、僕たちの主人が帰ってきました。そして、預けておいたタラントがどうなったか、計算を始めました。

5タラントの人は10タラントになっていました。5タラント余分に儲けたのです。主人は喜んで、この人を「良い忠実な僕よ、よくやった」と言っていました。2タラントの人も同じように倍の4タラントになっていました。この人も「良い忠実な僕よ、よくやった」と主人からほめられました。さて、1タラントの人はどうなったのでしょうか。なまけていた自分の言い訳を主人にするだけでした。主人は残酷な怖い人だから、まかされたタラントを地面の中に隠しておいたと答えました。そして、この人は主人から、とてもしかられました。「私がどんな者か知っていたら、私のお金を銀行に預けておくべきだった」と言われ、持っていた1タラントは取り上げられてしまいました。

まとめ

皆さんはもし5タラント、2タラント、1タラントまかされたとしたらどうするでしょうか。一生懸命考えて、倍になるようにがんばって何かをやってみますか。それとも、自分にまかされたタ

ラントと人のものを比べて、悔しがったりうらやましく思ったりして、あきらめて何もしないでしようか。

百年ほど前になりますが、イギリスにエリック・リデルという人がいました。リデルさんは走るのがとても早い人でした。大学で一生懸命トレーニングをし、オリンピックの代表選手になりました。そして、100メートルの競技に出ることになりました。でも、100メートルの試合は日曜日にあります。クリスチャンのリデルさんは神様を礼拝するため、この試合を棄権しました。しかし、400メートルの競技に出場し、優勝して金メダルを手にしたのです。記録は世界記録でした。

私たち一人一人の顔がみんな違うように、得意なことでも違うでしょう。みんながいつも一番になれるわけではありません。でもみんなそれぞれ良いところがあります。神様からまかされているタラント、才能は違うのです。どのくらいのタラントを持っているのかは人間にはわかりませんが、そのタラントを神様のために使う時、神様は持っているタラントをもっと増やしてくださいます。そして、神様の栄光があらわされ、神様に喜ばれるように使ってくださいなのです。

私たちは神様からオンリーワンの(君しかない)存在として特別に愛されています。そして、神様から私にしかない才能が与えられています。神様に与えられているタラント(才能や恵)を、忠実に用いましょう。

♪すべてはイエスさまのもの♪
(ふくいん子どもさんびか68)

ワーク A

話し方のヒント

だれかにほめられたとき、本当にうれしいですね。逆に叱られたときは、悲しい気持ちになりますね。神様は私にもすばらしい賜物、能力を与えてくださいました。それを神様の働きのため、他の人々の役に立つように用いるならば、天国に帰ったときに、私もイエス様から「良い忠実な僕よ、よくやった」とおほめの言葉をいただくことができます。

ワークについて

「良い忠実な僕よ、よくやった」とほめられたのはだれでしょう。「悪いなまけ者の僕よ」と叱られたのはだれでしょう(ペープサートで答えさせる)。あなたはどちらの人になりたいですか。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 イエス様が教えてくださったタラントのたとえから、神様は私たちの能力の違いをご存知で、それに見合ったタラントを任せてくださること、また、主の期待と信頼を悟り、それを生かすことの大切さを学びましょう。

●質問3 神様は期待と信頼をもって、子どもにも教師にもタラントを任せてくださっています。それを一緒に発見し、神様に喜ばれるために用いることができるように祈り、実行しましょう。

ワーク C

み言葉を覚えてから書き入れます。

第2問 聖書を輪読します。

①★を結びます。

②空欄をうめ、★を結びます。「良い忠実」、「悪い怠惰」。

●第3問 特別すばらしいことでなくても、一人一人にその人にしかできないことを神様は与えてくださっています。また、何も出来なくても、一人一人の存在そのものが、世界に一つしかないタラントであることも確認できると思いますね。例え僅かなタラントのように思えても神様に与えられたものとして感謝し、祈りましょう。

ワーク D

●自分のタラントにはなかなか気付かないものです。今日は聖書をもとに、私たちに預けられているタラントを列挙しました。これらの項目を通して、自分にはこんなタラントがあったのかと気付くことがねらいです。

中高校へのヒント

話し合ってみよう

1 欧米では、優勝者や表彰された人が「神様は自分にこの才能を与えてくださった」という人がいます。あなたはこう思いますか。

2 神様が与えてくださった「才能」(タラント)は何ですか。↓「才能」を発見してみましよう。

考えてみよう

1 「5、2、1タラント」と最初に預けられた量が違うことは不公平と思いますか。↓1タラントでも十分な量です(聖書講解、研究資料参照)。

2 主人が帰って来た時、どのように評価しましたか。↓「良い忠実な僕よ、…」と喜んでおられます。量の問題ではありません。

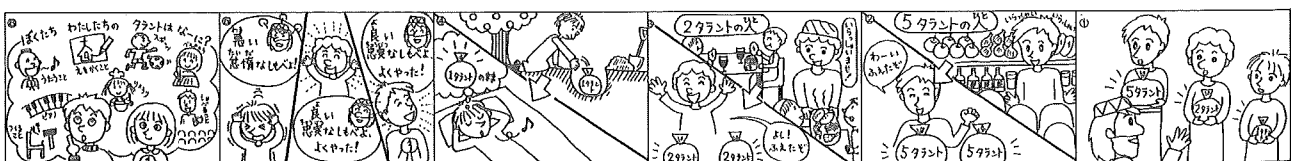
3 1タラントの者はどうして地の中に隠しておいたのでしょうか。↓主人が「酷な人」(24)で恐い人と思つて、信頼していなかったからです。

自分に当てはめよう

1 自分には「才能」(タラント)がないとか、不足しているという人はいませんか。そんなことはありません。必ず充分に与えられています。

2 「才能」の大小が気になりますか。↓神様はその人に必要な「才能」を与えておられます。だから、人を妬んだり、自分を誇つたりする必要は全くありません。

3 神様は忠実であることを求めておられます。↓忠実とは、与えられた「才能」を、死蔵や私用しないで、神様の栄光のために役立てることです。



聖書 ルカ15・11～32
テーマ 天の父のたとえ

序論

(金井)

主イエスが取税人や罪人たちと一緒に食事をしておられた時のことである。パリサイ人や律法学者たちはそれを見てイエスを批判した。そこで、主イエスは一連のたとえ話を語ることによって、彼らの批判に応答された(15:1以下)。今日学ぶ「放蕩息子」の話もその一部である。

一、放蕩に身を持ち崩す弟息子

△ある人に、ふたりのむすこがあった。ところが、弟が父親に言った、『父よ、あなたの財産のうちでわたしがいたただく分をください』。そこで、父はその身代をふたりに分けてやった。この父親は大勢の△雇人△を△抱え、△畑△や家畜を持つ富裕な人である。この場合、次男の取り分は最大で3分の1であった(申命記21:17)。△それから幾日もたないうちに、弟は自分のものを全部とりまとめて△家を出た。彼は遠い所へ行き、△遊女△もと△一緒に△なって△遊び惚け、△放蕩に身を持ちくずして財産を使い果した△のである。

その頃△その地方にひどいききんがあったので、彼は食べることに窮しはじめた。金の切れ目は縁の切れ目。親しかつた人たちも皆、彼を見捨てた。そこで彼は△その地方のある住民のところに行つて身を寄せた。すると△その人は彼を畑にやつて豚を飼わせた。彼は、豚の食べるいなこ豆で腹を満たしたいと思うほどであったが、何も

くれる人はなかった。豚はユダヤ人が忌み嫌う動物である。彼はごん底に身を落としたのである。この弟息子は、律法を守らぬ者として差別され、宗教社会から排除された取税人や罪人たちを指す。

二、息子に走り寄る父

△そこで彼は本心に立ちかえつて言った、『父のところには食物のあり余っている雇人が大ぜいいるのに、わたしはここで飢えて死のうとして立っている。父のところへ帰つて、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかつて、罪を犯しました。もう、あなたのむすこと呼ばれる資格はありません。どうぞ、雇人のひとり同様にしてください』。彼は立ち上がり、空き腹を抱えながら、とぼとぼと父のもとへ向かった。

父は弟息子が旅立つた道の彼方を毎日見つめながらその身を案じ、彼が帰る時を待ちわびていた。それゆえ彼が△まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ△たのである。父は彼を△哀れに思つて走り寄り、その首をだいて接吻した。彼は用意した言葉を述べて父にわびた。△もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません。しかし、父は彼の言葉を遮り、僕たちに最上の着物と指輪、履物を持つて来させた。父は言う、△肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。食べて楽しむのではない。このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなつていたのに見つかったのだから。△どんな過ちを犯しても、どんなに落ちぶれても、息子はやはり息子である。この父は神を指している。神はあわ憐れみ深い、私たちの天の父である。

三、怒る兄息子

祝宴が始まった時、兄息子は△畑にいた。彼が△帰つてきて家に近づく、音楽や踊りの音が聞えた。この祝宴が弟のためだと知り、△兄はおこつて家にはいるうとしなかった。△父が出てきてなだめると、彼は抗議した。△わたしは何か年もあなたに仕えて、一度でもあなたの言いつけにそむいたことはなかったのに、友だちと楽しむために子やぎ一匹も下さつたことはありません。それなのに、遊女どもと一緒に△なつて、あなたの身代を食いつぶしたこのあなたの子が帰つてくると、そのために肥えた子牛をほふりなさいました。△兄は弟のように「父よ」と呼びかけることが無い。兄は父との関係を主人と奴隸の關係のように理解している。彼は弟を認めず、△このあなたの子△という。この兄息子は律法の奴隸となつているパリサイ人や律法学者たちを指す。

結論

話はここで終わる。兄息子は父にどう答えるべきか。主イエスはそれをパリサイ人や律法学者たちに問うておられる。あなたと神の關係はどうだろうか？ あなたと隣人の關係はどうだろうか？ 父なる神の愛を悟り、互いに愛し合う者となろう。

研究資料

(石田)

テキスト

11 また言われた 誰に対して言われたのかというと、それはパリサイ人や律法学者たちであった(2)。彼らは主イエスが取税人や罪人たちを受け入れていることを非難した。宗教的、道徳的、社会的理由で世間から、のけ者にされていた彼らと親しく交わることは、イスラエルの教師にあるまじきことであつたからである。そういう非難に対する答えとして、主イエスは失われた羊(4、7)、失われた銀貨(8、10)、そして、この失われた息子の譬えをされた。この3つの譬えに共通するテーマは、神は罪人が悔い改めるのを非常に喜ばれるということである。特に3番目の譬えでは、自分を義として罪人と認めないことに神が胸を痛めておられるポイントが付加されている。ある人に、ふたりのむすこがあった。ふたりのむすこを持つ父親がこの譬えの主人公で、父なる神を表し、悔い改めて立ち返る者をいかに受け入れてくださるかが印象深く語られている。

12 父よ、あなたの財産のうちでわたしがいたただく分をください 普通は父親が死んだあと相続するべき財産を、弟息子はそれまで待てないで要求している。ここには神にそむいて自己中心に生きようとする罪の本質が端的に表現されている。

13 弟は自分のものを全部とりまとめて遠い所へ行き 父の権威から逃れるためであつた。生まれながらの人間は神の許から離れて、罪深い自由を謳歌しようとするものである。そこで放蕩に身を持ちく

ずして財産を使い果した 自分のまいた物を刈り取ることになった。罪は、神と人と自分を傷つける。

15 その人は彼を畑にやつて豚を飼わせた ユダヤ人にとって豚は律法によって汚れた動物とされていたから、豚を飼わせられるというのは、このうえない屈辱であつた。惨めさを伴いながら劇的な効果が高まつている。

16 いなこ豆 豚の飼料に用いた。

17 そこで彼は本心に立ちかえつて 危うく豚の餌に手を出しそうになるまで落ちぶれて、弟息子は本心に立ち返り、悔い改める心が起きた。

18 父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかつて、罪を犯しました 父親に背いたことは神に対する罪であつたと気づいた。彼も落ちぶれたとはいへ、十戒を打ち込まれた神の民である。聴衆である悔い改めた取税人や罪びとたちの共感するところだつたであろう。

19 雇人のひとり同様にしてください 弟息子は父親に背いたことを悔い改め、ただただ赦しと憐れみを求めようとした。神を無視した自己中心な心が、神の前に砕かれた姿である。

20 まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ 神は人がいつ立ち返るか、目を凝らして見ておられる。哀れに思つて走り寄り 父親のほうから息子に飛びついてきている。神みずからが罪人に対して和解の手を差し伸べていて下さる(ローマ5:8)。それは主イエスの十字架による和解の道である。その首をだいて接吻した 何のわだかまりもない赦しを意味している。

22 最上の着物：指輪：はきもの：肥えた子牛

息子が父親から受けた処遇は、雇人どころではなく、相続権を回復した子の立場であつた。ここには福音のエッセンスがにじみ出ている。自分の罪を悔い改め、主を信じた人は、その罪が赦されるばかりではなく、罪を犯さなかつた者と認められ、神の国を継ぐ神の子とされる。自分の良いわざによらず、ただ悔い改めと信仰によって罪人が罪人のままで神に受け入れられ、義とされる。

24 このむすこが死んでいたのに生き返り 父親にとつては死んだ息子がよみがえつたことと同然であつた。生まれながらの人は「自分の罪過と罪によつて死んでいた者」(エペソ2:1)。神にとつて、ひとりの罪人が悔い改めることは、主イエスと共によみがえらされることで、私たちの想像を超える大きな喜びである(7、10)。

28 兄はおこつて家にはいるうとしなかった 兄は弟への嫉みと怒りに燃えており、父親の喜びにもあずかるうとするどころか、父親の途方もない寛大さにも腹を立てていた。これまでの自分の正しい生活が否定されるように思つたからである。一度でもあなたの言いつけにそむいたことはなかったのに という言葉にその思いがにじみ出ている。この態度は、パリサイ人たちが取税人や罪人に対して取つたものと同じである。

31 子よ わが子に対する親愛の情を込めた呼びかけで、パリサイ人たちに神の子としての立場を思い起こさせる言葉である。あなたはいつもわたしと一緒にいるし：パリサイ人たちは自分の義ではなく、いつも共におられる神に寄り頼むべきであつた。

聖書 ルカ15・11～24
タイトル 神様の愛
暗唱聖句 このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。 ルカ15・24
目標 神様から遠く離れた罪人待ち、迎えてくださる天の父の愛を知る。

導入 (山田)

クリスマスはイエス様のお誕生日でしたね。イエス様は神様でしたが、人間としてこの地球に生まれてくださいました。それは、神様がどんな方か、また、天国がどんなところかをみんなに教え、私たち一人一人を愛してくださっている神様のことを伝えるためでした。

今も神様は私たち一人一人を愛して、神様を信じるように待っていてくださっています。

さて、今日は最後の「たとえ話」、「いなくなった息子」のお話です。このお話から、今もずっと待っていてくださる神様のことを学びます。

いなくなった弟

あるところに二人の息子のお父さんがいました。弟はお父さんの言うことを聞いていることが馬鹿らしくなり、こんな家にいるより別なところで自分のやりたいように暮らしたいと思いました。そこである時、「財産のうちでわたしがいただく分をください(12)」とお父さんにお願ひし、お父さん

は自分の財産を兄と弟に分けてあげました。

弟は財産をもらって、さっさと家を出て行きました。悪い遊びをいっぱいした弟は、持っていた財産がすっかりなくなってしまうしました。お金がすっかりなくなつたところに、ひどいきん(食べ物)がなくなる(食)がありました。とうとう食べる事ができなくなつてしまったのです。お金がなくなると友だちもいなくなり、助けてくれる人はだれもいません。

困った弟は、助けてくれそうな人のところを尋ねて行きました。するとその人は、弟に豚飼いの仕事をさせたのです。その頃のユダヤの国では、豚飼いの仕事はとても嫌がられている仕事でした。ユダヤ人の嫌がる仕事しかできないくらい、何もかもなくしてしまつたのです。

いつでも待っていたお父さん

何もかもなくして、はじめて弟は自分にはお父さんがいたことに気がつきました。そして、お父さんに謝つてゆるしてもらおうと、お父さんのところに帰っていきました。

お父さんは弟の帰りをずっと待っていました。弟を見ると走っていき、抱きしめたのです。そして、お祝ひが始まりました。

怒つた兄

この日もいつもと変わらず、お兄さんは畑で働いていました。畑から帰り、家に近づくと、にぎやかな音楽や踊りの音が聞こえます。それは、弟が帰つたお祝ひでした。それを知つたお兄さんは

カンカンに怒り、家に入ろうとしませんでした。お父さんがなだめるとそのお父さんに抗議しました。お兄さんには、お父さんの愛の心を理解することができなかったからです。

まとめ

このお話のお父さん、弟、お兄さんは誰の事でしょうか。父は神様、弟はイエス様の時代に神様の律法を守らない者と、差別されていた取税人や罪人たち。そしてお兄さんはパリサイ人や律法学者たちのことです。

イエス様は取税人や罪人と言われた人々と仲良しでした。パリサイ人や律法学者たちはこのイエス様が嫌いでした。イエス様の優しい愛の心が分からなかったからです。イエス様は神様の愛が分からない人たちに、神様というお方は、いつでも「ごめんなさい」と言つて神様のところに行くことを待っている天のお父さんだということを教えてくださったのです。

天の父なる神様は、私たちが本当に愛して下さっています。神様は、間違つてしまう私たちや、失敗し、罪を犯す私たちのことを全部知っています。そして、早く間違いや罪に気づき「ごめんなさい」とお詫びすることを待っていてくださっています。

イエス様が教えてくださった「たとえ話」を良く考えましょう。そして、イエス様は何をするかを喜んでくださるのか、一人一人が良く考えてやってみましょう。
♪愛・あい・アイ♪ (ブレイズワールド83)

ワーク A

話し方のヒント

●お父さん、お母さんにとって、自分の子どもがいなくなつてしまつたら、どんなに心配でつらいことでしょう。実は、私たち人間はみんな天のお父様である神様から離れて自分勝手に生きているのです。神様は、そんな私たちが自分のもとに帰つて来るのを今もずっと待っています。いなくなつた息子が、このままではいけないと目を覚まして、「ごめんなさい」とお父さんのもとへ帰つたように、あなたも自分の罪を神様の前にわびて、私たちが愛しておられる天のお父様のもとへ帰りましょう。

ワークについて

いなくなった息子の心の変化を絵によって確認しましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 イエス様が教えてくださった天の父のたとえから、神様は恵み深くあわれみに富み、私たちの願いをきいてくださり、神様の方から近づいて、私たちの罪の告白を受け入れて赦してください、祝福で満たしてください、自分の義に立っているような者にも慰めをもって諭して下さることを学びましょう。

●質問3 私たちに対する神様の愛に感謝し、素直に罪を告白して神様のもとに帰り、主にある祝福の人生を送る者とならせていただきます。

ワーク C

●み言葉を覚えてから書き入れます。

●第2問 聖書を輪読します。

①『』の言葉。

②自分の荷物をまとめて、遠い所へ行き、好き勝手に暮らして財産を使い果たした。

③食べることも出来なくなり、豚を飼う仕事をした。豚のえさを食べたいと思うほどだった。

④ウ、エ、オ。

⑤遠く離れていたのに、哀れに思つて走り寄り、その首を抱いて、接吻した。

●第3問 毎日帰ってくるのを待っていたから。父から離れていったとしても、弟息子を愛して心配していたから。

●第4問 父親↓神様。弟↓私。生徒が、自分は神様から離れている者であること、自分のことを神様は心配して待っておられることを理解できるということです。

ワーク D

●放蕩息子に出てくる父をじっくり考えてみると、ただの理想の父を描いているだけ!? と感じる程の父です。本当にこんな父親を見かけたら、「何と甘い、そんなでは子どもをちゃんと育てられませんか」と、言ってしまう子育て評論家がいっぱい現われそうです。でも私たちの天の父は、ここまで父であることをイエス様が例話で示してくださりました。とがめず、責めず、大きな愛をもって赦してくださいる父なのです。

中高科へのヒント

●話し合ってみよう

1 良く知られている「放蕩息子」のたとえ話です。主な登場人物は誰ですか。↓父、弟、兄

2 今回は、弟と兄を比較しながら考えてみましょう。あなたはどちらに似ていますか。

●考えてみよう

1 父のもとにいた息子たちは何をあらわしていますか。↓人間は神に造られ、神のもとにいます。それが本来の姿であることをあらわしています。

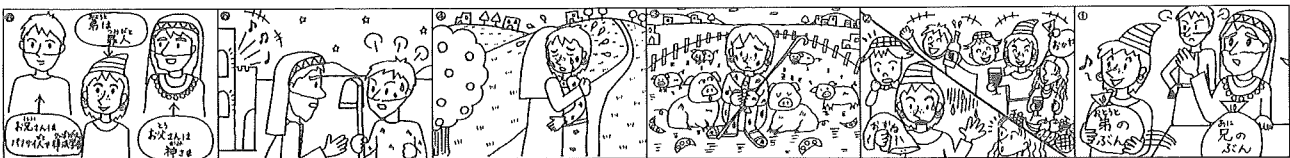
2 弟は家を離れましたが、兄は家にいました。兄は罪人ではありませんか。↓いいえ、体は父のもとにいましたが、心は離れていました(31)。どちらも罪人です。

3 弟が帰つて来た時に、父の方から走つて、抱いて、接吻し、受け入れてくれました。怒っている兄に対しては、父は何をしたでしょうか。↓家に入ろうとしなかった兄に、父は家から出てなだめました。「わたしが一緒にいる」と言いました。どちらも、神様の深い愛をあらわしています。

●自分に当てはめよう

1 神様のことを知らず、悪いことばかりをしましたが、教会に導かれ、罪を示され神様の愛を知り、主イエス様を救い主と信じました。↓弟。

2 幼少の時から教会学校に導かれ、神様のことを知っていました。神様を愛さず、人をねたんだり憎んだりしていました。その冷たい心を示され、神様の愛を知りました。↓兄。どちらですか。



聖書 ルカ18・9～14
テーマ 取税人の祈り

序論

(金井)

3月は「十字架への道」をテーマに学んでいく。まずルカによる福音書から3回続けて、エルサレムへの途上で主イエスが語られた話と起こった出来事を学ぶ。これらは主イエスがこれから成し遂げられる十字架による救いの意味を教えている。今日学ぶたとえ話は、△自分を義人だと自任して他人を見下ろしている人たちに対して▽、イエスが語られたものである。△義人だ▽と訳されている語は裁判における判決に関係しており、聖書では、審判者なる神によって無罪と認められることを意味する。義人とはどのような人なのか。

一、自分の義を誇る人

この話には、二人の対照的な人物が登場する。△そのひとはパリサイ人であり、もうひとは取税人であった▽。二人とも△祈るために宮に上った▽が、その態度はまるで違う。

△パリサイ人▽は、ヘレニズム文化やローマの皇帝崇拜がユダヤに持ち込まれる時代にあつて、聖書の律法に基づく伝統宗教の営みを守るために熱心に活動していた人々である。その熱心が行き過ぎて、彼らは過剰な量の戒律を生み出していた。そして、それを守らない△罪人▽を、彼らが指導する会堂（シナゴグ）から閉め出していた。

この△パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、「神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な

者、不正な者、姦淫（かんいん）をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています」▽。

彼は戒律を破らなかつただけでなく（出エジプト20・14～16）、善行に励んでいた。律法では年1回の断食が定められていたが（レビ16・29岩波版参照）、パリサイ人は一週間に月曜と木曜の△二度断食して▽いたようである。また、パリサイ人は厳格に△全収入の十分の一をささげて▽いたのである（ルカ11・42）。

二、自分の罪を悲しむ人

一方、△取税人▽は人々から税金を徴収して、ユダヤ人が軽蔑（けいべつ）する異邦人であるローマ帝国や領主に上納していた。しかも、当時の△取税人▽は規定以上の金額を徴収して私腹を肥やしていた。△パリサイ人▽は自分が△この取税人のような人間でもないことを感謝します▽と祈っているが、それほど△取税人▽はユダヤの人々から嫌われ、非常に軽蔑されていたのである。

△取税人▽はエルサレムの神殿に向かったが、△遠く離れて立ち、目を天にむけようともしない▽。自分自身の罪深さを自覚していたからである。この穢れた身は聖なる神に近づくにはふさわしくない。そう思いつつも、彼は神を求めて、ここまで来ずにはいらなかった。△取税人は胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしく下さい』と▽。これは切なる心の叫びである。

三、神に義とされる人

ここまでたとえを話して、イエスは言われた、△あなたがたに言っておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であつて、あのパリサイ人ではなかつた▽。この話を聞いていた者たちは非常に驚いただろう。これはユダヤ教徒の常識とは逆である。何ゆえこのような大逆転が起こるのか？ それでは神の義はどうなるのか？ 我々が積み上げてきた善行は無駄（むだ）なのか？ △パリサイ人▽ならずとも疑問を感じたであろう。

この大逆転が起こるのは、罪無き神の御子イエスがその後、人々の罪を贖（あがな）うために身代わりとなつて、十字架に死なれるからである。△律法の書に書いてあるいつさいのを守らず、これを行わない者は、皆のろわれる▽（ガラテヤ3・10）。神の完全な義の基準に照らせば、一点でも律法違反があれば有罪とされる。△そこで、律法によっては、神のみまえに義とされる者はひとりもない▽（同3・11）。それゆえ△人の義とされるのは律法の行いによるのではなく、ただキリスト・イエスを信じる信仰による▽のである（同2・16）。

結論

主イエスは言われた、△おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう▽。私たちもこの△取税人▽のように自分の罪を認めてへりくだり、キリストにあつて神に赦（ゆる）しを求めよう。△神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心をかろしめられませんか▽（詩篇51・17）。

研究資料

(石田)

テキスト

9 自分を義人だと自任して他人を見下ろしている人たち その典型的人物としてパリサイ人がここで取り上げられている。ルカ15・2には、取税人や罪人たちを見下ろげるパリサイ人や律法学者の姿が既に出ている。

10 祈るために宮に上った エルサレムに住む人々の多くは、一日に3度、午前9時、正午、午後3時と神殿の庭に向いて祈りの時を持った。神殿で祈ることは格別に効果があると考えられていた。また、パリサイ人の祈りからもわかるように、敬虔な人物と見られることにもなった。そこには種々雑多な人々があり、それぞれに違う祈りの課題があつたと思われるが、主イエスは対照的な二人の祈りを通して、どのような祈りが神に受け入れられるのかを教えている。パリサイ人 彼らは祭司階級に属さない一般人であつたが、律法を厳格に解釈し、できるだけ忠実に実行しようとした一派で、その指導者は会堂や学校で教え、民衆の尊敬を受けていた。律法学者の多くはパリサイ人に属している。その一方で、律法を厳格に守らない人々を軽蔑した。取税人 ローマのユダヤ総督から徴税請負人として雇われ、同胞のユダヤ人から税金を取り立てることを任されていた。その際、税額以上の利幅を取って私腹を肥やすことができたので、同胞からは憎まれ、嫌われ、罪人呼ばわりされていた。パリサイ人とは対照的に、世の中から受け入れられなかった。

11 ひとりでこう祈った 直訳すると「自分自身の前にこう祈った」となり、これが単なる独り言であつて、真の祈りでないことは明らかである。わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、自分が神の前に何者であるかということではなく、まわりの人の比較の中で、自分がいかに律法に忠実であるか、正しい人間であるかを神の前に誇示している。この取税人のような人間でもないことを感謝します 近くで祈っている取税人を意識して、彼を見下ろながら祈っている。このパリサイ人は「わたしは：わたしは：」と繰り返すことによつて、神に向かつて祈っているのではなく、自分の良い行いを神に認めてもらおうとしている。これが祈りとして神に受け入れられるとは疑問である。

12 わたしは一週に二度断食しており 律法がイスラエルの民に命じている断食は、贖罪の日に行われるもので、年1回だけである（レビ23・32）。それなのにパリサイ人は一週に二度も断食をしている。それは月曜と木曜に行われ、ちょうどエルサレムに市の立つ日であり、彼らは人通りのある所へ出て行って断食していることを誇示した。律法の定め以上に断食することは、それだけ功德があると考えられていた。つまりパリサイ人が断食したのは、人に見られるため、自分のためであつた。全収入の十分の一をささげています パリサイ人は、律法が命じていないものまでささげることによつて、敬虔さを誇っていた（ルカ11・42）。このように、律法を忠実にあるいはそれ以上のことをすることによつて神に義とされようとする姿

勢は、14節において明確に否定されている。

13 ところが、取税人は遠く離れて立ち 自分の罪深さを自覚し、へりくだりながら神の前に出ている。パリサイ人とは対照的に、人目につかないようにひっそりと祈っている。目を天にむけようともしないで 当時のユダヤ人は祈るとき両手をあげ、顔を天に向けて祈ったようである。しかしこの取税人はうつむき、おそらく手も上げずにうなだれた様子でいたであろう。胸を打ちながら ユダヤ人が悲しみに打ちひしがれるときにする動作である（23・48）。おゆるしください（ヒラスコマイ） 文字どおりは「なだめられてください」である。わたしを贖（あがな）ってくださいとも訳せる。彼の祈りはひと言だけで、ただ神に憐れみと赦しを乞う祈りであつた。ここには自分を義人だと自任するところは微塵もない。神の前に徹底的に自分を低くしている。

14 神に義とされて（ディカイオオー） いわゆる「義と認められる」という意味で、新改訳はそう訳している。罪を赦され、神に対して正しい者と宣告された。いわば無罪判決以上に、神に受け入れられ、喜ばれる存在とされた。完了形なので、義とされたことが、くつがえつたりしないことも表している。自分を高くする者は低くされ 自分を自身を高めることは、神に寄り頼むことを拒むことである。これは罪の本質であり、このパリサイ人は罪ありとされたのである。自分を低くする者は高くされるであろう 自分が神の前に何者でもないことを認め、神に全く寄り頼む者こそ、神に受け入れられる。これは聖書を貫く一つのテーマでもある（箴言18・12、1ペテロ5・6など）。

聖書 ルカ18・9、14
 タイトル 取税人の祈り
 暗唱聖句 神様、罪人のわたしをおゆるしく
 ださい。
 目 標 自分の罪を認めて神様に受け入れ
 られるよう祈りしよう。

導 入 (長谷川)

3月に入りました。春がやってきましたね。3月の教会学校では「十字架への道」をテーマに、イエス様が語ってくださった大切なお話や出来事を学びます。今日は教会(宮)でお祈りをして、2人の人のたとえ話から、神様の喜ばれるお祈りについて考えましょう。

パリサイ人の祈り

イエス様の「たとえ話」の1人目の人物は「パリサイ人」です。パリサイ人とは、旧約聖書をよく勉強し、ユダヤ人の習慣や律法をまじめに守る熱心な人です。彼の祈りの内容は、「神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています」(11、12)ということでした。

つまり、「神様、わたしは他の人のように欲ばりではありませんし、悪いこともしていません。そんな人間であることを嬉しく思います。また、1

週間に2回も食事をがまんして一生懸命お祈りもしています。献金もたくさんしています。ここにいる取税人のようにきらわれている人でもありません」とお祈りしたのでした。
 自分は正しい、立派な人間だとお祈りの中で「傲慢」ばかりしているのです。その上、他の人のことを見下げる言葉まで言ってしまうていました。皆さんはこのお祈りを、どう思いますか？

取税人の祈り

もう1人の人物は取税人です。取税人とは、ユダヤの国を支配していたローマ帝国や領主などのために、人々から税金を集め、納める仕事をしていた人です。余分に取立てて自分のものにする取税人もいたりするので、当時のユダヤの人々から余りよく思われていない仕事でした。

この取税人は「神様、罪人のわたしをおゆるしてください」(13)と祈りました。短い祈りですが「わたしは罪深い者です」と心を低くして、神様の前に素直におわびしているのです。しかも、その態度は「遠く離れて立ち、目を天にむけようとしても、胸を打ちながら」(13)という姿勢でした。取税人の祈りは「自分は罪人で顔を上げられるような、神に近づけるような者ではありません」と悲しんでいる姿を表しているのです。取税人の祈りはへり下った真心からのものだったのでした。

神様に喜ばれる祈り

イエス様は、このたとえ話の最後に「神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であつ

て、あのパリサイ人ではなかった」(14)と語られました。「神に義とされる」とは、神様から罪のない者です、と言っていたことでした。
 神様の目からご覧になられて「無罪」と見えるのは、正しい行いによるのではなく、自分の罪を認めておわびし、イエス様の十字架のみがわりを信じる人なのです。

「自分は正しい」と高ぶる人でなく、「わたしは罪人です」と心からへり下った取税人の祈りから、イエス様は「へり下る真実なお祈りを神様は喜ばれる」ことを教えてくださいました。

まとめ

トム・スキナー牧師は、イエス様を伝える素晴らしい先生です。トムは、牧師家庭に生まれ、幼い時はイエス様を信じ教会生活に励んでいました。でも、いろんなことがいやになって、なんと、ハーレム・ローズというギャング団に入ってしまった。いつしかボスにまでなりました。

ある日、大きな決闘の作戦を立てながらラジオをつける、「あなたがどんな人だとか、どんなことをして来たかは問題ではありません。イエス様は、あなたの人生を変えることの出来る『再生工場』です。今、悔い改めてイエス様に従いましょう」と聖書のお話が聞こえてきたのです。

トムは、「ハッ」としました。自分の罪深さがわかり、涙が止まりませんでした。本当に悔い改め、トムは人生の方向転換をしたのでした。イエス様は真心からのお祈りを聞いてくださるお方です。よしゆわわたしをあわれみよ(ごどもさんびか57)

ワーク A

話し方のヒント

皆さんは自分の罪を悲しんで、「神様、私の罪をお赦しください」とお祈りしたことがありますか。神様は、正直に自分の罪を認めて、「ごめんなさい」とお祈りする人を喜んでくださいます。そして、イエス様の十字架の身代わりを信じる人の罪を全部赦してくださいなのです。パリサイ人のように、自分は正しいと威張ったお祈りではなく、取税人のように「私の罪をお赦しください」と真心からお祈りしましょう。

ワークについて

神様はどちらのお祈りを喜んでくださるでしょうか。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 パリサイ人は律法を学び、厳格に守り、実行しようとした。取税人は人々から税を取り立て、時には余分なものを取り立てて私服を肥やしていたので、人々から嫌われていました。

●質問3 パリサイ人の祈りは他人と比較して、正しくて立派な人間だと自慢するものでした。しかし、取税人は自分の罪を認め、へりくだった心でお祈りしたので、神様に喜ばれました。私たちも神様に喜ばれる祈りをささげましょう。

ワーク C

●本日のみ言葉、取税人の祈りを書き入れます。

●第2問 11、12節のパリサイ人の祈りを書き入れます。次に自分がパリサイ人になったつもりで気持ちを込めてその祈りを言ってみます。まず教師がお手本を示し、次に生徒がチャレンジします。パリサイ人の傲慢で独善的な雰囲気はどんなだったか話し合いながら俳優になったつもりでやってみましょう。次に取税人の祈りについて、目を天に向けず胸を打つ姿勢で、言ってみます。

●第3問 取税人は①、パリサイ人は②です。

●第4問 答えは①の取税人です。

ワーク D

●パリサイ人の祈りと取税人の祈りは対照的です。多くの人々はやはりパリサイ人の祈りに注目し、尊敬し、目標にしようとするのではないでしょう。反対に取税人には目を止めることもないでしょう。取税人は人に気付かれることを避けて祈ったことでしょうか。しかし神様の目はこの取税人に向けられ、その耳は取税人の祈りに傾けられました。神様に受け入れられた祈りは取税人の祈りでした。私たちはどうでしょうか。

中高校へのヒント

●話し合ってみよう

1 お祈りはしていますか。↓わたしたちにとつては心の呼吸です。神様との交わりです。忘れなないようにしましょう。

2 それでは、神様に喜ばれる祈りとは、どんなお祈りでしょうか。

●考えてみよう

1 パリサイ人の祈りはどんな祈りですか。↓神様のお心がわかっていません。人を見下げて、自分が正しいと思い込んで、自分の「立派さ」を神様に見せつけている祈りです。

2 取税人の祈りはどんな祈りですか。↓単刀直入「神様、罪人のわたしをおゆるしてください」(13)。

3 神様に喜ばれる祈りはどちらですか。↓取税人の方です。

●自分に当てはめよう

1 わたしたちは自由に神様にお祈りすることが出来ますが、最も素晴らしい祈りは、取税人のように、自分の罪を認め、悔い改める祈りです。↓まだ悔い改めの祈りをしたことがない人は、今日、罪を悔い改め、主イエス様を受け入れる祈りをしてましょう。

2 「自分を低くする者は高くされるであろう」(14)とありますが、それはどんな祈りですか。↓自分が弱く小さな者であることを知り、神様を信頼し、寄り頼む祈りです。神の愛を知り、謙遜な者となるように祈ることです。



聖書 ルカ18・35〜43 テーマ バルテマイの叫び

序論

(金井)

前回学んだように、神は御子イエスの十字架の死によって、大逆転の恵みを人類に与えることとされた。もはや律法の行いではなく、キリストに対する「信仰」によって罪人も救われるのである。しかし、イエスの弟子たちも含めて当時のユダヤ人には、「イエスの言われた事が理解できなかった」(18・34)。そこで今度はたとえ話ではなく、実物教訓によって、主イエスは彼らにこの真理を教えられた。今日のテキストはこのような文脈で読むことができる。

一、バルテマイはイエスに叫んだ

これは「イエスがエリコに近づかれたとき」のできごとである。「エリコ」はエルサレムの北東25kmほどのところにある町である。

「ある盲人が道ばたにすわって、物乞いをしていた」。マルコによる福音書10章46節によれば、彼の名は「バルテマイ」である。この地方は気候風土や環境衛生の関係から炎症性の眼病を患う人が多かった。彼もそのような病気によって視力を失ったのかもしれないが、当時のユダヤ人は、目が見えないことは神の懲罰によるのだと考えていた(ヨハネ9・2)。マタイによる福音書20章30節では「ふたりの盲人が道ばたにすわっていた」とある。このような人たちが町の門など人通りの多い場所へ「物乞い」をしているのは、日常的な光

景であった(使徒3・2)。彼らは肉体的物理的な困難や経済的な貧困、宗教的社会的な差別といった多くの重荷を背負って生きていたのである。

「群衆が通り過ぎる音を耳にして、彼は何事があるのかと尋ねた」。エリコはいつも活気のある町だが、この時は特に過越祭でエルサレムに上る巡礼者が大勢この町を通り過ぎていた。わけでもないイエスの周りには、彼こそメシヤ(神が特別に選んで遣わされる救世主。キリスト)ではないかと期待する人々が群がっていたのである(19・3)。バルテマイはその人々から「ナザレのイエスがお通りなのだ」と聞かされたので、声をあげて、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで下さい」と言った。「ダビデの子」というのはメシヤの称号である(イザヤ9・6〜7、11・1〜5、マタイ1・1、ヨハネ7・42、ロマ1・3)。旧約聖書にはメシヤが目の不自由な人の目を開くという預言がある(イザヤ29・18、35・5、42・7)。実際、イエスは目の不自由な人の目をいやしておられた(7・22)。それゆえ、「先頭に立つ人々が彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、『ダビデの子よ、わたしをあわれんで下さい』」。

二、バルテマイはイエスを信じた

バルテマイの叫びはイエスに届いた。「そこでイエスは立ちどまって、その者を連れて来るように、とお命じになった」。イエスは「彼が近づいたとき、『わたしに何をしてほしいのか』とおたずねにな」った。彼の願いが視力の回復にあることは一目瞭然である。彼はそれを求めて激しく叫び

続けたのだ。しかし、それでもなお、イエスはあえて彼にお尋ねになった。それは彼の信仰を確かめ、より強固なものとするためである。

主は熱心に求める者に豊かに応えてくださる(11・5〜13)。だが御利益信仰のレベルならば、人はいやされたら満足して、主を離れてしまおう(17・17)。人に本当に必要なものは、主御自身を求め、主御自身に従っていく信仰なのである。

バルテマイは、「主よ、見えるようになることとです」と答えた。主イエスはそれができるところであると、彼は固く信じたのである。「そこでイエスは言われた、『見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った』。すると彼は、たちまち見えるようになった」。彼はそれから、「神をあがめながらイエスに従って行った。これを見て、人々はみな神をさんびした」。

結論

バルテマイが持っていたメシヤに関する知識はそれほど豊富ではなく、世間の人々が常識として知っている程度だっただろう。しかし、それでも「幼な子」のような彼の霊の目はすでに開眼していたのである(18・17)。これは霊の目が開き、いた弟子たちとは対照的である。私たちの霊の目は開かれているだろうか。「信仰によって救われる」。これはプロテスタント教会で学んでいる者なら誰でも知っている真理である。しかし、主はあえて私たちにお尋ねになる。「わたしに何をしてほしいのか」。私たちも霊の目を開かれて信仰を告白し、生ける主の御業を拝し、従っていこう。

研究資料

(石田)

テキスト

35 ある盲人が道ばたにすわって、物乞いをしていた。共観福音書の全部に記されている出来事、この目の不自由な人は「テマイの子、バルテマイ」であることがわかっている(マルコ10・46)。しかし彼の父の名前だけで、本人の名前はわからない。当時の目の不自由な人は、仕事につくことができないので、物乞いをするほかはなかった。

36 群衆が通り過ぎる音を耳にして。毎年春になると、過越の祭りを祝うために、地方からエルサレムへ上る巡礼者の一団がエリコの町を通ることは恒例となっていた。主イエスと弟子たち、そして彼らについてきた群衆もその巡礼団のように町へ近づいてきた。しかし、主イエスの場合はこのたびの過越の祭りにおいて、ご自分が世の罪を取り除く神の小羊としてほふられるためにエルサレムへの道を上っていた。

37 ところが、ナザレのイエスがお通りなのだと言われたので、主は弟子でない一般の人々からは「ナザレのイエス」と呼ばれていた。この目の不自由な人はイエスという人がさまざまな癒しの奇跡を行い、目の不自由な人の目も開いたことを噂で聞いていて、自分もその恵みにあずかりたいと願い、そういうことができる人はメシヤに違いないとも考えていただろう。

38 声をあげて。主イエスが自分の前を通り過ぎて遠くに行ってしまうのは大変とばかり、すぐに声をあげた。なんとしても自分の目も開いていた

だきたいと渴望し、大声を張り上げて主イエスの注意を引こうとし、彼は千載一遇のチャンスを見逃さなかった。ダビデの子イエスよ。「ダビデの子」という呼び名は、すでにメシヤの称号として使われていた(エレミヤ23・5)。これは神の民に黄金時代をもたらすと待ち望まれていた勝利の王という意味を帯びていた。だからこの目の不自由な人は、イエスがメシヤであることを信じていたことになる。41節では「主よ」と呼んでもいい。ダビデの子という言葉がすぐに出てきたのは、彼が普段からメシヤを待ち望んでいたからだろう。確かに主は究極的に勝利の王であるが、その前に受難の僕とならなければならなかった。もちろん彼にはそこまでの理解があったわけではないだろうが、わたしをあわれんで下さい(エレソン・メ)。ただただ主のあわれみにすがり、全身全霊を主の前に投げ出すような祈りである。同じ言葉が39節でも一度記されているが、叫び続けたとあるので、何度も繰り返された。彼の必死な様子が際立っている。

39 先頭に立つ人々が彼をしかって黙らせようとした。露払いのように先頭に立つ人々は主の弟子たちであつただろう。この目の不自由な人を黙らせようとした理由は、おそらく主イエスに無駄な時間を過ごさせないようにするためだったと考えられる。危害を加えようとして待ち構えているエルサレムに、主イエスがあえて向かうとしているからには、重大な目的があるのではないかと弟子たちは感じていたからである。彼はますます激しく叫びつづけた。ほとんど絶叫に近い。冷たい仕打ちにもひるまないとここに彼の信仰が本物で

あることが主イエスに伝わった。

40 そこでイエスは立ちどまって、その者を連れて来るように、とお命じになった。主イエスは、間近な受難のことで頭がいっぱいになっていたのではなく、常に周りの必要に敏感であり、必死の叫びを耳にしてこの目の不自由な人に足を止めた。

41 わたしに何をしてほしいのか。主イエスが目の不自由な人の求めを知らないはずはない。またあわれんでくださいという願いが、目をあけてほしいことであることは明白である。しかしそこをあえて尋ねたのは、彼に自分の口で願い求めを具体的に言わせ、信仰を告白させるためであった。主がこう尋ねたからには、彼の願いに應える準備があつたわけである。この質問自体が主イエスの神性を証明していると言える。主よ、見えるようになることとです。これは彼の深い願いであると共に、主イエスが自分を見えるようにしてくださいという信仰の告白でもある。普通にはありえないことを本気で求めているところに、彼の信仰が表れている。これがまた彼を主イエスに従う者とさせた。

42 見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。主イエスは信仰に報いてくださる。神をあがめながら、とは神の民にふさわしい態度である。彼は目の開かれた感謝と喜びにあふれ、弟子たちの一団に加わってエルサレムへ同行した。もちろん物乞いする必要はなくなった。彼は目が見えるようになっただけで満足せず、主に従うことで恵みに応えようとした。そのまま主イエスの弟子となったと考えられる。

聖書 ルカ18・35〜43
タイトル バルテマイの叫び
暗唱聖句 主よ、見えるようになることです。
目 標 バルテマイの肉の目が開かれたように、私たちの心の目も開いていただこう。

導 入 (長谷川)

卒園式や卒業式が近づいてきますね。また学年末の大切な時を迎えました。毎日、神様に守られて楽しく過ごせるようお祈りしましょうね。さて、今日の聖書の箇所はイエス様が素晴らしいことをしてくださったお話ですよ。

バルテマイの叫び

エルサレムから25kmほど離れた所にエリコという町があり、その通りの道ばたに、目の不自由なバルテマイが座って物乞いをしていました。彼は目が不自由なため、仕事もなく、また、人から物をもらわないと生きていけないため、人々から軽蔑され、とても悲しいどん底の生活だったのです。本当に大変だったことが想像できますね。ある日、バルテマイは周囲がとてにもぎやかなことに気づいて、人々に「何事があるのですか?」と聞いたのです。それは丁度、イエス様がお通りになられるところで、「ナザレのイエスがお通りなのだ」と教えてもらいました。

バルテマイは大声を上げて「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで下さい」と叫びました。「ダビデの子よ」とは、「救い主イエス様よ」という意味です。バルテマイは、イエス様なら目を癒してください、と信じて大声を上げたのです。イエス様を取り巻く人々がバルテマイをしかって黙るように言いましたが、バルテマイは何度も何度も「ダビデの子よ、わたしをあわれんで下さい」と叫び続けました。バルテマイは必死だったのです。しかられても、しかられてもイエス様に叫び続けることをやめませんでした。

イエス様の答え

叫び続けていたバルテマイの声をイエス様は聞いていてくださいました。たくさんの人々に囲まれたイエス様でしたが、立ち止まって、彼をつれて来るように命じてくださったのです。バルテマイがイエス様に近づいた時、イエス様は「わたしに何をしてほしいのか」(41)とおたずねになりました。

イエス様には分っていたことでした。目が見えるようになること、目を癒していただきたいことですね。周りの人もみんなわかっていて、ことでした。でもイエス様は「わざわざ」聞かれました。それは、バルテマイの願いと、イエス様への信仰を強めるためにそうされたのでした。

バルテマイは、また言いました「主よ、見えるようになることです」(41)と、はつきりイエス様に答えました。心をこめて大声で言ったと思います。情景が目には浮んで来るようですね。するとイエス様は「見えるようになれ。あなた

の信仰があなたを救った」(42)と仰ってくださいました。言われるとすぐにバルテマイの目は開かれ、「見えるようになった」のでした。それは、それは、素晴らしいことでした。周囲の人々も驚いたことでしょう。誰よりも、バルテマイの喜びはすごいものだったと思います。バルテマイは、それからはイエス様のために生きる人になりました。また見ていた人々も「神様は素晴らしい」と神様をほめたたえました。

まとめ

エドワード・スコット宣教師は、神学校を卒業してインドの山奥のナガ族に伝道に行くことになりました。とても乱暴な人々の多いナガ族だったのでみんながそこへ行くことを反対しましたが、しかし、スコットは祈りながら出発しました。

彼が一人でインドの山岳地帯を歩いていると、突然ナガ族が5、6人で襲って来ました。槍が向けられ死を覚悟しましたが、「ちよっと待ってください。死ぬ前にバイオリンを一曲弾かせてください」と頼んだのです。古いケースからバイオリンを取り出し、祈りながら讃美歌をひき始めました。また、それに合わせて十字架の歌を歌いました。ナガ族の方を見ると驚いたことに、言葉がわからないはずの讃美歌に、涙を流して聞き入っていたのです。神様が彼らの心の目を開いてくださったのです。スコットはその日からナガ族と共に生活して、死ぬまでイエス様のことを伝えました。イエス様は今も、私たちの心の目を開かれる神様です。イエス様を信頼して行きましょうね。♪心の戸の外に♪(ふくいん子どもさんびか20)

ワーク A

話し方のヒント

「わたしに何をしてほしいのか」とイエス様に尋ねられたら、皆さんはなんと答えますか。バルテマイは「見えるようになることです」とはっきりと答えました。それは彼の心からの願いだったからです。イエス様は今も私たちの心からの叫び、願いを聞いてくださるお方です。私たちの心の目もイエス様に開いていただけて、神様を心から賛美する者とならせていただきます。

ワークについて

目を開いていただいたバルテマイの気持ちを考えながら、目を動かしてみよう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えよう。

●質問2 目の見えないバルテマイは仕事もできず、物乞いをしていました。彼の求めたその叫びがイエス様に届き、イエス様は「何をしてほしいのか」と尋ねてくださいました。それはバルテマイの信仰をしっかりとしたものにするためでした。●質問3 バルテマイは目が見えるようになることを求めましたが、その願い通りになったばかりか、心の目も開かれ、神様をほめたたえ、イエス様に従う者へと変えられました。私たちも心の目が開かれて、イエス様を信じて従う者とならせていただきます。

ワーク C

●本日のみ言葉を書き入れます。イエス様の質問に対するバルテマイの即答です。

●第2問 自分の願いを即答できたバルテマイに対してイエス様が言われた言葉42節を書き入れます。

●第3問 「あなたの信仰」という言葉に注目し、その中身を考えます。答えは①B、②A、③Cです。

●第4問 自分への適用を考えます。イエス様に尋ねられたら、どう答えられるのかを、第3問の信仰の中身をチェックしながら考えます。

ワーク D

●バルテマイは五官のうち、視覚を持ち合わせていませんでした。一つの感覚を持たないことで、彼の人生は他者と大きく差別され、悲しみと苦しみの中にもがいていたのです。彼にとってイエス様に会えるチャンスを探す手はありません。全身全霊を傾けて叫びました。

●五官の全てを持ち合わせていても、イエス様がすぐそばにおられるにも関わらず、無関心である魂こそ本当に哀れな存在ではないでしょうか。

中高科へのヒント

話し合ってみよう

1 もし、一つだけ願いがかなうとすれば、何を願いますか。↓勉強、スポーツが一番になる。欲しい物を手に入れたい。...

考えてみよう

1 この目の不自由な人は邪魔されても、必死になって主イエス様に近づきました。↓何という熱意でしょうか。
2 主イエス様は、「わたしに何をしてほしいのか」(41)と言われました。↓答えは「見えるようになることです」(41)。

3 なぜこのように明快に答えたのでしょうか。↓主イエス様が神の子であり、目を開くことのできるお方だと信じていたからです。

4 目が見えるようになった後はどうしましたか。↓「神をあがめながらイエスに従った。神のみわざがなされ、苦しみ解放されたらそれでおしまいはなく、主に感謝をささげ、従いました。」

自分に当てはめよう

1 一番の願いは、心の目が開かれて、主イエス様を信じ、従っていくことです。心の目が閉ざされて神様がわからなければ、この世のいろいろな物を持っていても、不幸なことです(詩篇1)。
2 祈りが聞かれた後は、そのままにしておかずに、神様に感謝の祈りをささげることが大切です。感謝の祈りを忘れてはいませんか。



聖書 ルカ19・1-10
テーマ ザアカイの救い

序論 (金井)

先週は、物乞いをしていた貧しい目の不自由な人が救われた話を学んだ。ルカはその話に続いて、今度は逆に金持ちであった男が救われたことを記録している。主イエスは言われた、「財産のある者が神の国にはいるのはなんとむずかしいことである。富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」(18・24・25)。では、この男はどのようにして救われたのか。彼は入信する者にとって重要な一つのモデルである。

一、木に登るザアカイ

△イエスはエリコにはいつて、その町をお通りになった。ところが、そこにザアカイという名の人がいた。この人は取税人のかしらで、金持であった。

△エリコは交通の要衝にあり、果物が豊富に採れるオアシス都市として栄えていた。ここに税関所があり、△ザアカイ△という男がこの地域の△取税人のかしらであった。ローマ帝国は地方の租税や関税を直接徴収せずに、徴税請負人に業務を請け負わせていた。さらに、徴税請負人は集金人を雇って実務を担わせていた。このような階層がいくつ重なっており、△取税人△にもピンからキリまでいた。ローマ政府は税額の査定をするだけで、徴収はこれらの取税人に任されていた

研究資料 (石田)

テキスト

2 ザアカイという名の男 ゼカリヤの短縮形で、「義人、きよい人」という意味である。この出来事はルカにしか出てこない。この人は取税人のかしらで、金持であった。エリコはナツメヤシとパルサム(乳香)を産出する豊かな町で、関税収入が見込まれた。そこで彼はローマ総督から徴税を請け負い、何人もの取税人を束ね、不正な取立てをして財産を蓄えた。彼は群衆からは「さえぎられ」、人々からは「罪人」と呼ばれ、町中の人々から憎まれ、嫌われていたことがうかがえる。しかし主イエスからは「失われたもの」、救われなければならない者と見られ、ついに尋ね出された。

3 群衆にさえぎられて すでに主イエスのみわざはエリコにも伝わっており、前段落では目の不自由な人の目が開かれるという奇跡が行われたばかりで、町中の人々がひと目イエスを見ようと街頭に出て人垣をつくっていた。

4 それでイエスを見るために、いちじく桑の木に登った 何とかしてイエスを見ようと、先回りして木に登った。ザアカイがこまでしたのは、単なる好奇心だけではなかっただろう。人々がイエスを「ダビデの子」(つまり救い主)と呼んでいるのを聞いていたはずである。またイエスの十二弟子の一人に元取税人がいるのを知っていたであろう。そのイエスなら自分を受け入れ、罪から救ってくださるのではないかという、期待があったと考えても不自然ではない。

ため、取税人は査定額以上の金額を取り立てて、私腹を肥やすことができた。徴税権が競売に付されるほど、この仕事には旨味があった。

ザアカイは△イエスがどんな人か見たいと思っていたが、背が低かったので、群衆にさえぎられて見ることができなかった。それでイエスを見るために、前の方に走って行って、いちじく桑の木に登った。そこを通られるところだったからである。

現在もエリコには「ザアカイの木」と呼ばれる大きな△いちじく桑の木△がある。この木はクワ科の常緑樹だが、いちじくに似た実をつけるのでこの名で呼ばれる。成長すると10・15メートルの高さに達する。ザアカイは一所懸命、△前の方に走って行って△、この木に登った。彼はなんとしてもイエスを見たかったのである。どんなに財産を蓄えても彼の心は満たされなかった。彼の心は飢えて、切実に救いを求めていたのである。

二、イエスを迎え入れるザアカイ

△イエスは、その場所にこられたとき、上を見あげて言われた、「ザアカイよ、急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから」△。

初対面なのにイエスが自分の名前を呼ばれたことに、ザアカイは驚いただろう。△ザアカイ△という名は「純粹」という意味である。実際には彼はとても「純粹」とは呼べない男だが、なんとイエスは彼に、「今日、私はあなたの家に泊らなければならない」(5節直訳)と言われたのである。△そこでザアカイは急いでおりてきて、よろこ

5 上を見あげて言われた、「ザアカイよ、ザアカイが主イエスを捜す前から、主がザアカイを捜し求めていた。主イエスは神の子の知恵によって、一度も会ったことのないザアカイを捜し当て、その名を呼ぶことができた。このことだけでも、イエスを救い主と信じる根拠がある。きょう、あなたの家に泊まることにしているから 直訳すると「泊まらなければならない」となる。その場の思いつきではなく、主イエスの計画に組み込まれていた。

6 よろこんでイエスを迎え入れた 屋根の下に迎える、客として迎える、ねんごろにもてなすという意味である。世間から相手にされない孤独な彼に、主イエスのほうから泊まると言われて、彼の心はその愛にほだされ、悔い改めに導かれ、このとき回心したのではないか。

7 人々はみな、これを見てつぶやき およそ律法の教師たる者が、罪人である取税人と交際することは、あるまじき行為であったのでパリサイ人たちはイエスを非難した(5・30、15・2)。しかし主イエスは魂を救うために、人目を全く気にしていない。彼は罪人の家にはいつて客となった町の有力者たちは、競ってイエスを家に迎えようとしていたかもしれない。しかし主イエスが選んだのは、誰も予想をしない罪人の家であった。

8 自分の財産の半分を貧民に施します これは彼が救われた結果の自発的な発言であって、救われるための行いではない。救いを神に感謝し、自分の財産を神と人のために用いたいと願うようになった。貪欲に支配された者から、愛に支配される者と変えられた。金持ちの役人が自分の財産を

んでイエスを迎え入れた。人々はみな、これを見つづやき、「彼は罪人の家にはいつて客となった」と言った△。

取税人は、ユダヤ人が憎むローマ帝国に仕え、律法を守らない穢れた異邦人と接触しており、しかも同胞から金銭を貪り取っていたから、△罪人△として人々から蔑視されていた。ところが、イエスはこの△罪人の家にはいつて客となった△のである。ザアカイの顔には喜びがあふれた。

三、悔い改めるザアカイ

△ザアカイは立つて主に言った、「主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれから不正な取立てをしてみましたら、それを四倍にして返します」。イエスは彼に言われた、「きょう、救がこの家に来た。この人もアブラハムの子なのだから。人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」△。

ザアカイは「悔改めにふさわしい実を結」ぶことを主に誓った(3・8)。これは彼が△アブラハムの子△として信仰によって神に義と認められ、救われた証しである(ロマ4・11・12)。

結論

神の御子イエスは、△失われたものを尋ね出して救うため△にこの世に来てくださった。救いはイエス・キリストが成される恵みの御業である。私たちが為すべきことはイエスを求め、イエスを私の主として心に迎えることである。イエスを信じて心を満たされ、新しい人生を歩んでいこう。

手放せなかったことは対照的である(18・18・23)。しかしザアカイは、富んでいる者が神の国に入ることを示した。もしだれから不正な取立てをしてみましたら、それを四倍にして返します 律法は盗んだものを償うためには4倍にして返さなければならないと命じている(出エジプト22・1)。自分の罪を公に告白し、悔い改めの実を結ぶために、不正な取立ての償いをする決心している。これによって彼は自分が生まれ変わったことを証した。

9 きょう、救がこの家に来た 家(オikos)は、家族や家庭という意味を持つ。ザアカイひとりが主を信じたからといって、自動的に家族も信じるわけではないが、ザアカイの救いを通して家族が救いに導かれる道は大きく開かれたと言える。おそらく家族は彼の生まれ変わりに目を見張ったことであろう。この人もアブラハムの子なのだから 彼がユダヤ人で、アブラハムの子孫だから救われたという意味ではない。アブラハムが主に対して働かせた信仰を同様に働かせ、アブラハムの信仰を受け継いでいる者という意味である。

10 失われたもの この言葉は間違った場所にいることを意味しており、本来いるべき神の許から離れている人のことである。「罪人」という言葉もこれと同じ意味で使われている(5・32)。15章のいなくなった羊、なくした銀貨、いなくなっていた息子などを取り戻す譬えの生きた実例がここにある。人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである ルカによる福音書のキーワードである。

聖書 ルカ19:1-10
 タイトル ザアカイの救い
 暗唱聖句 人の子がきたのは、失われたものを
 尋ね出して救うためである。
 目 標 イエス様の十字架は失われた者を
 救うためであると知る。
 ルカ19:10

導 入

(長谷川)

先週は、貧しくて物乞いをしていた目の不自由なバルテマイが、イエス様によって目を癒された素晴らしいお話を学びましたね。今日は、大金持ちのザアカイのお話です。有名なザアカイのこと、皆さんは知っていますか？

本に登ったザアカイ

イエス様がエリコという町を通られた時、そこにザアカイという名前の方がいました。日本名で言うところ「清さん」です。きっと、ご両親が、心のきれいな正しい人になって欲しいとこの名前を付けたのでしょうか。

ザアカイの仕事は、「取税人のかしら」でした。その頃のユダヤの国は、ローマ帝国という大きな国に支配されていたので、たくさん税金をローマ帝国に納めなければならませんでした。その税金を集めていたのが「取税人」でした。しかも、決められたよりも余分に取立てて、自分のお金にしてしまう取税人が多かったのです。そんな訳

で、お金持ちになる取税人が殆どでした。でも、人を悲しめてお金を集めるのですから、みんなに嫌われていたことも事実でした。

その上、お金がたくさんありましたが、「背が低かった」ことをザアカイは悩んでいたようです。誰でも体のことは気になりますね。

そんなザアカイの住んでいる町に、イエス様が来てくださったのです。ザアカイはイエス様を見たいと思いました。走って行つたのですが、たくさんの方が見えません。背の低いザアカイでしたが、誰も前のほうに行くように言ってもくれませんでした。みんながじゃまをしたようです。

そこでザアカイは「いちじく桑の木に登った」(4)のです。どうしてもイエス様を見たかったからでした。「あー、イエス様だ！」と木の上から心の中で叫んだと思うのです。

ザアカイに声をかけられたイエス様

そのいちじく桑の木の上に來られたイエス様は「ザアカイよ」と木の上を見上げて言ってくれました。ザアカイは驚きました。「イエス様が私の名前を知っていてくださった、呼んでくださった！」と感激したと思います。

そして、続けて言ってくくださった言葉が「急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから」(5)でした。みんなからきられていたザアカイに「今日は、あなたの家に泊まることに決めて来たんだよ」と、優しいお声をかけてくださったのでした。びっくりどころか、泣けたと思います。周りのみんなも驚いたことで

しょうね。イエス様の愛は広くて深かったのです。ザアカイは転がるようにして急いで降りて來ました。そしてイエス様を家に案内しました。周囲の人々から「イエス様は罪人の家に入ってお客さんになったぞー」と悪口を言われましたが、ザアカイは大喜びでイエス様を家にお迎えしました。ザアカイは踊り上がる程喜んで、すごいご馳走も用意されたことでしょう。想像できますね。

悔い改めたザアカイ

イエス様に來ていただいたザアカイは突然立ち上って「主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれから不当な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します」(8)と宣言したのです。みんなはびっくりしたと思います。ザアカイの心が変わったのです。ケチでお金のことでは一杯、人のことを考えられない、嫌われ者のザアカイでしたが、イエス様が自分を愛してくださっていることが分った時、心が変わっていました。イエス様は一言もお叱りにならず、「ザアカイよ」と優しいお声をかけ、彼をしつかりと受け入れてくださったからです。イエス様は「きょう、救いがこの家に來た」ととても喜んでくださいました。

まとめ

イエス様は神様のお心から離れて「迷子」になった人々を捜して、救ってくださるお方です。十字架に命を投げ出す程に私たちを愛してくださった愛のお方です。イエス様を信じ続けて行きましょう。♪ザアカイ♪ (こどもさんびか68)

ワーク A

話し方のヒント

「ザアカイ」という名前を聞いたことがありませんか。ザアカイは頭も良くしてお金持ちでしたが、だれもお友だちがいまいませんでした。そんなザアカイにイエス様は優しく声をかけて、お友だちになりました。ザアカイは、自分の家だけではなく心の中にもイエス様をお迎えして、新しい人に造り変えられました。イエス様は罪人を救うためにこの世に來てくださいました。私たちもイエス様とお会いして、心にお迎えするとき、「今日、救いがこの家にきた」と言っていただけなのです。

ワークについて

ザアカイに声をかけられたイエス様は、あなたの名前も呼んでおられます。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 ザアカイは取税人の頭で、不正をたくさんしていました。彼がいちじく桑の木に登ってイエス様を見ると、イエス様の方からザアカイに近付いて来て、名前を呼び、彼の家に泊まると言ってくださいました。

●質問3 人々から嫌われていたザアカイでしたが、イエス様によって喜びがあふれました。自分の行いを悔いて、救われた証しをすることをイエス様に約束しました。私たちのためにもイエス様は來てくださいました。イエス様の愛に応えて、私たちも悔い改め、イエス様を信じましょう。

ワーク C

●本日のみ言葉を書き入れます。

●人間は律法的に、自分中心にものを感じ、考えがちです。「取税人は罪人だからダメ」「罪の女だからダメ」「私が気に入ったからOK」というように。これが人間の愛のスタイルです。

●しかし、イエス様は違います。イエス様は失われた罪人を探して、尋ね出して名を呼んで、訪問して、宿泊して、友となつて、救い出してくださいののです。

●イエス様はザアカイを一人の人間として、真正面から扱い、丸ごと受け入れてくださいました。この愛に解かされて、ザアカイは変わってしまったのです。

ワーク D

●ザアカイの人柄に親しみを覚えませんか。初対面でも人々から嫌がられていたザアカイを、まるで昔からの友のように呼びかけられるイエス様の人柄にも敬服しませんか。いつ読んでも心が暖まります。今日もザアカイのようにイエス様に会い、イエス様を心にお迎えし、人生が180度変えられる人が起こされますように。

中高科へのヒント

●話し合ってみよう

1 今日有名な「ザアカイの物語」です。彼は現在の人物ですか。↓主イエス様の時代にエリコに住んでいた現在の人物です(2)。

●考えてみよう

1 ザアカイは「人が欲しがれる物」を多く持っていました。↓ お金、地位、権力。
 2 ザアカイは「幸せ」でしたか。↓背が低いという劣等感がありました。孤独でした。
 3 ザアカイは主イエス様を「見たい」(3)と思いい、何をしましたか。↓邪魔されても、いちじく桑の木に登りました。
 4 主イエス様から声をかけられ、降りてきました。想定していたでしょうか。↓ザアカイにとっては、まさか自分が呼ばれるとは想定外のことです。主イエス様の一方的な愛です。

5 なぜ、主イエス様を自分の家に迎え入れたのでしょうか。↓何もかも見せて、罪を悔い改め(8)心を開いて、主イエス様を信じた証拠です。

●自分に当てはめよう

1 ザアカイのところに主イエス様が來られたように、私のところにも來てくださいます。
 2 ザアカイが不正な取立てを4倍にして返したことは何をあらわしていますか。↓悔い改めの実を結んだことです。具体的に詫言することや、返す必要があれば、聖霊に助けられて、実行しましょう。必ず主の祝福があります。



聖書 ヨハネ12・1-11
テーマ 香油注ぎ

序論

(鎌野)

ルカ福音書は、先週のザアカイの記事の後、19章後半では主のエルサレム入城を記す。受難週の開始である。興味深いことに、今週のテーマである香油注ぎを、マタイとマルコは受難週中の出来事としているが、ヨハネは受難週の前においている(ルカ7章は、初期のガリラヤ伝道中に、これと似た別の事件を描いている。詳細は研究資料参照)。ヨハネは、11章のラザロのよみがえりとの関連から、ここに記したのかもしれない。確かに幾つかの相違点はあるけれども、3つの福音書は共通して、この香油注ぎが、以下の重要な意義を示す出来事であったことを物語っている。

一、マリヤの献身の表現

マタイとマルコは、この出来事の場合がベタニヤの「重い皮膚病の人シモンの家」であったと記すが、ヨハネは「ベタニヤ」と言うだけで詳細は示さない(ラザロたちの父親が「重い皮膚病の人シモン」だったという説もある)。また、香油を注いだのは「ひとりの女」というだけの2者に対して、ヨハネは明確にラザロの姉の「マリヤ」と記す。重要なのは、この女性が「高価で純粋なナルドの香油」を、主に注いだことである。マリヤであるなら、愛する弟ラザロをよみがえらせてもらったことに対する感謝のゆえに、自分の自由にできる唯一の宝物を、主に捧げたとも思える。いや、

研究資料

(石田)

テキスト

1 過越の祭りの六日まえに 過越の祭りが金曜日なので、この日は土曜日(安息日)と考えられる。翌日はエルサレムに入城する棕櫚の日で、いわゆる受難週が始まる。そこは「ラザロのいた所である」ベタニヤのマルタ、マリヤ、ラザロの家で、主イエスがエルサレムに上ったとき、よく泊まった所である。受難週もそこに宿をとったようである(マタイ21・17)。主にとって心置きなく滞在できる家であった。

2 イエスのためにそこで夕食の用意がされ ユダヤの一日は日没から始まる。これは主イエスが地上の生涯で最後の安息日の食事であった。マルタは給仕をしていた。ラザロも加わっていた。この場所が彼らの家であることを裏付けている。

3 高価で純粋なナルドの香油 イスカリオテのユダが300デナリと値積もっていることから、非常に高価であることがわかる。これは労働者の平均年収に当たると言われる。裕福な家では女性の花嫁道具として用意されたこともあったようである。マリヤにとって全財産だったかもしれない。一斤(1リトル)は388グラム。マルコの平行箇所ではマリヤが香油の入った石膏のつぼを壊したとあるから(14・3) 自分のために残しておくことはせず、全部主イエスに注いだことになる。これによって主イエスは、自分にとって何を献けても惜しくない方であることを表明した。人目も気にせず、千載一遇のチャンス逃さなかった。イエ

それだけではない。彼女は、主を深く愛していたからこそ、自分にできる最高のことをしたのだ。それは、**「三百デナリ」**(当時の労働者の300日分の給料)よりもはるかに価値があった。しかも彼女は、普通は頭に注ぐ香油を「イエスの足にぬり」、手ぬぐいではなく「自分の髪の毛でそれをふいた」。自らを奴隷の立場に置き、全身で主への愛を表したのである。彼女にできた最高の献身の表現だと言っても言い過ぎではない。

二、ユダの裏切りの理由

それを見ていたユダが、文句を言った(他の福音書は、「弟子たち」「ある人々」と記し、複数の声があったことを示す)。その理由は、**「人貧しい人たちに對する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、財布を預かっていて、その中身をこまかしていたからであった」**と、ヨハネは手厳しく指摘する。ユダは口先では、主が貧しい人々を解放するメシヤであってほしいと言っていたかもしれないが、本音は、金銭に目がくらんでいたのだ。他の2福音書は、ユダはこの事件の直後に祭司長の所に行ったと記録している。

「人貧しい人たちはいつもあなたがたと共にいる」。それゆえ、いつの時代にも彼らに愛を示さねばならない。しかし、歴史上のある時期にこの地上におられた主イエスを愛を示すことは、限られた人にしかなできない。だがユダは、もはや主を特別な人として愛せなくなっていた。そして銀貨(「デナリウス貨幣」)30枚(香油の10分の1の値)で主を売ったのである(マタイ26・15)。

足の足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた 女性にとつて髪の毛はその栄光であるから、それで主イエスの足を拭くというのは、これ以上ないへりくだりと愛と献身を表す行為である。すると、香油のかおりが家にいっぱいになった。この場に居合わせた人々にとって、この出来事は香油の強い香りと共に鮮明な記憶として残ったであろう。

5 なぜ「貧しい人たちに、施さなかったのか」 イスカリオテのユダは、マリヤの行為が理解できず、たいへんな無駄づかいとしか思えなかった。裏返せばユダにとって主イエスは、自分の大切なものを献げるほどの方ではなかった。「少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない」(ルカ7・47)。実際、彼は主を銀貨30枚に値積もっている。しかし理解できなかったのは彼だけでなく、他の弟子たちも同じであった(マタイ26・8)。

6 財布を預かっていて、その中身をこまかしていた ユダは主イエスから財布を任されていたが、すでに主の信頼を裏切っており、受難週に入ってから全面的に裏切ることを決心した。サタンに隙を与え続けた結果でもある。

7 この女のするまにさせておきなさい 主イエスは彼女の行為を無駄とは言っていない。むしろ全世界で語られると大いに評価している(マルコ14・9)。このことは十字架の死に向かおうとしている主イエスにとって、また受難のさなかにおいて大きな慰めとなったことだろう。わたしの葬りの日のために、それをとっておいたのだからマリヤは自分のしたことが主イエスの葬りの用意になるとまでは考えていなかっただろう。彼女の

三、主イエスの使命の確認

ギリシャ語の「キリスト」、「ヘブル語の「メシヤ」」はともに、「油注がれた者」という意味である。旧約聖書では、祭司・王・預言者に香油が注がれている例が多数記されているが、主の生涯を調べてみると、実際に香油が注がれているのは、ルカ7章とこの場合だけであることに注目したい。

イエス・キリストの究極の使命は、十字架にかかって、人類の罪の贖いを成し遂げることだった。その日は目前に迫っていた。マリヤはこの神のご計画を知っていたとは思えないが、結果として、このことを主に確認させたに違いない。だから主は、**「わたしの葬りの日のために、それをとっておいた」**と言われた。主はこの時、「あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け、わたしのこうべに油をそそがれる」(詩篇23・5)とのみ言葉を思い出されていたのではなからうか。敵が主を取り囲んでいたこの時、父なる神はマリヤを通して主イエスに油を注がれたのである。

そして、「香油のかおりが家にいっぱいになった」。いや家だけではない。このかおりは、最後の晩餐の時には、洗足の時にも、十字架の上でも、主のからだから流れ出ていた。愛のかおりを放つことこそ、主の使命そのものだった。

結論

私たちは、マリヤのように最高のものを献げるのか。それとも、自分の欲を求めるユダのように行動するのか。主イエスをどれほど愛しているかで、天地の差が生まれるのである。

動機は自分の兄弟ラザロを生き返らせていたことへの感謝を表すため、また主イエスへの愛と献身を精いっぱい表すためであった。マルコの平行箇所には「この女はできる限りの事をしたのだ」とある(14・8)。しかし主イエスは彼女の行為を、ご自分の葬りの用意であるという意味づけ、十字架の死を暗示する預言的行為として評価した。

8 貧しい人たちはいつもあなたがたと共にいるが この時点において施しをすることよりも優先すべきことがあると言っている。わたしはいつも共にいるわけではない。間もなく死ぬことになっているので、生きていくうちに主イエスに愛と献身を表すチャンスは今しかないということである。実際、女性の弟子たちが墓に行つて主の亡骸に香料を塗ろうとしたが、すでに復活したあとで、役に立たなかった(ルカ24・1)。

9 大ぜいのユダヤ人たちが、そこにイエスのおられるのを知って、押しよせてきた 彼らは主イエスのますます高まる評判と、ラザロの生き返りに熱狂して集まってきた。彼らは翌日のエルサレム入城に選民の誇りと晴れがましい思いで付き添った。しかし主が受難によって贖いを成し遂げようとしているとは思ひもよらなかった。ラザロを見るためでもあった。彼は食事の席についているだけで大勢の人々を引き付けることになった。存在するだけで証しになったのである。

10 そこで祭司長たちは、ラザロも殺そうと相談した すっかり人気を失った彼らは、死人の生き返りという最大の奇跡の証人を殺害することによって、反転攻撃しようとした。

聖書 ヨハネ12・1-11

タイトル 香油注ぎ

暗唱聖句

マリヤは高価で純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた。
(ヨハネ12・3)

目標

十字架を前にしたイエス様に愛の限りをつくしたマリヤのように愛を表そう。

導入

(長谷川)

暖かい春になりました。新しい学年を待つ嬉しい春休み、よい時を過ごしてくださいね。

皆さんは誰かにプレゼントをしたことがありますか？ 大好きなお友だちですか？ 家族ですか？ 大好きな人には一番よいものをプレゼントしたいなあと考えますね。

今日は、イエス様を心から愛していたマリヤが、素晴らしい贈り物を差し上げたお話です。

イエス様に香油を注いだマリヤ

イエス様がベタニヤのマリヤたちの家に行かれた時のことでした。その家族と夕食を食べようとしたところマリヤが入って来て、イエス様の足に香油をぬりました。しかも、その香油は「高価で純粋なナルドの香油一斤、お金に換えると当時の労働者の日当300日分よりも高いものでした。甘いとても良いにおいのする香料で、つばに入って輪

入されたものでした。それはそれは高価なものだったのです。マリヤの宝ものでした。

ふつうは頭に注ぐ香油をマリヤはイエス様の足にぬり、しかも、タオルではなく自分の髪の毛でふいたのです。マリヤはイエス様を心から尊敬し、愛していたのです。弟ラザロをよみがえらせてくださったことも、とても感謝していました。

素晴らしい香油の香りは家にいっぱいになりました。みんながうっとりとしたことでしょう。マリヤは、ただイエス様を喜ばせたかったのです。

イエス様を裏切ったユダ

その場所に弟子の一人のユダがいました。ユダは「どうしてこんなもったいないことをするのか」とマリヤに厳しく言いました。その上に「この香油をお金に換えて、貧しい人たちにあげたらよかったのに」と文句も言ったのです。マリヤはとても悲しかったことでしょうね。

でも、こう言ったユダが思いやりにあふれていたかと言うと決してそうではなかったのです。「自分が盗人であり、財布を預かっていて、その中身をこまかしていたからであつた」(6)と書いてあるように、自分がお金にルーズで、お金に目がくらんでいたから、そう言ったのです。本当はマリヤにそんなことを言うようなユダではなかったのです。

ユダはその後イエス様を裏切つて、銀貨30枚でイエス様を売ってしまいました。銀貨30枚は、マリヤのイエス様へ捧げた香油代の10分の1、しかも、奴隷の値段でした。「貧しい人たち」のことを

考えているような言葉を言っていたユダでしたが、本当は、一番悲しい恐ろしいことをしてしまったユダだったのです。

マリヤをほめられたイエス様

ユダの言った言葉でその部屋は重い雰囲気になったことでしょう。しかし、イエス様はマリヤの愛をとて喜んで「この女のするままにさせておきなさい」(7)と言ってくださり、マリヤの信仰と愛をほめてくださったのです。

貧しい人たちに愛を表わすことは大切で、いつもそうする必要がありますが、イエス様はやがて十字架にかけられるので、イエス様に愛を表わすことが出来るのは「今」しかないことを教えてくださいました。また、「わたしの葬りの日のために」と、十字架のために備えてくれたマリヤの愛をとて喜んでくださったのです。

家いっぱい広がつた香油の香りは、イエス様の心も喜びでいっぱいにした香りだったのです。

まとめ

○ちゃんは教会学校に来るのが大好き、イエス様が大好きでした。でも、家が貧しくて献金するお金がありませんでした。○ちゃんは考えました。おやつにもらったキャンディーを食べずに大切に残しておいて、日曜日の献金袋に入れてイエス様にお捧げすることにしました。

礼拝の献金袋にキャンディーの入っていたこと、また、○ちゃんのことを知った教会の先生は泣きました。○ちゃんの愛はマリヤの愛と同じでした。♪イエスさまはわたしを♪(教会学校せいか56)

ワーク A

話し方のヒント

皆さんの宝物は何でしょう。それをだれかにプレゼントすることが出来ますか。マリヤは、自分の大切な宝物のすべてをイエス様におささげしました。イエス様を心から愛していたからです。マリヤがしたことは、もうすぐ十字架にからなければならぬイエス様のお心をどんなに慰め、喜ばせたことでしょう。私たちのために十字架でいのちを捨ててくださったイエス様に、私たちは何をおささげしますか。

ワークについて

「イエス様、ありがとうございます」と、マリヤの気持ちになって絵を完成させましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 マリヤは高価で純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエス様の足にぬり、自分の髪の毛で拭きました。すると、そのかおりが家いっぱいに広がりました。

●質問3 マリヤはイエス様を深く愛していたので、心からのささげものをすることによってその愛を表しました。私たちも心からのささげものや、イエス様のために生きることによって、イエス様に対する愛を表しましょう。

ワーク C

●本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 マリヤとユダとを表にして比べてみました。四角の中に言葉を書き込みます。答えは①「三百デナリ」、②「髪」、③「むだ」、④「愛」、⑤「感謝」、⑥「貧しい人」、⑦「イエス様」、⑧「自分」です。

●第3問 自分はイエス様に愛と感謝を表すために何をささげられるかをいっしょに考えます。

ワーク D

●案外私たちの生活の中でも、無駄をどんどん省略していくと、いつのまにか大切なことまで省略して神様の思いからどんどん離れていくことがあります。もともと罪人である私たちはいろんな意味で合理的なことを求めて、本当に大切なものを省いてしまったり、無視してしまふようです。

●失敗を赦せる心、ゆとりある心、受け入れる心、そして神様を愛する心には「無駄」と評されることとありますが、マリヤはイエス様を愛するあまり、三百デナリにもなるナルドの香油を一気に注いだのですから、その愛はタダモノではありません。

中高科へのヒント

●話し合ってみよう

1 自分の大切な宝物は何ですか。↓お金、ゲーム、本、携帯、その他いろいろです。
2 その宝物を誰かにあげることが出来ますか。↓絶対にできません。少しだけあげることならできるかもしれません。

●考えてみよう

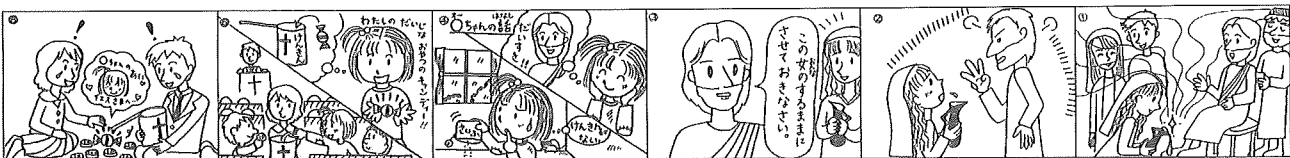
1 マリヤは高価なナルドの香油を主イエス様の足にぬり、自分の髪の毛でふきました(3)。この場面にあなただけがいたとすればどう思いますか。↓なぜ、突然こんなことをするのか理解できません。香油の値段(研究資料参照)を聞けば、「もったいない」と思ってしまう。

2 ユダは「もつともらしいこと」を言いましたが(5)、真意は何ですか。↓思いやりがあつたわけではなく、金をこまかしていただけです。

3 主イエス様とマリヤの行為は十字架の死の葬りのためと言われました。マリヤは主イエス様のすべてがわかつたのでしょうか。↓いいえ、マリヤは主イエス様への精一杯の感謝と愛をあらわしただけでした(研究資料参照)。

●自分に当てはめよう

1 マリヤのように、人の目を気にせずに、心から主イエス様に感謝と愛をあらわすのに、自分の大切な物(才能、時間、財、自分の人生など)をささげることはもったいないことでしょうか。主イエスが喜ばれ、大きな祝福があります。



牧羊ひろば

わたしたちの教会学校

献堂13年目をむかえた私たち名谷教会。CSは幼少科から中学科までのとても元気なメンバーです。スタッフは7名(信徒5名、教職2名)。実年齢は高いですが、精神年齢は若いと自負するパワフルな面々です。

教会のある南落合は近隣に大きな団地があり、若い世代の住む地域。公園のそばに位置する名谷教会のCSは、毎年恒例のクリスマス会等とおして地域に認知されてきました。現在では、地域のこども会のクリスマス会と教会のクリスマス会が重ならないよう、地域の皆さんに配慮していただけるようになっています。クリスマスチャンホームの子どもたちはもちろん近隣の子どもたち、特に未信者のご家庭から兄弟そろって長期間CSに来てくれる子どもが多くいます。しかし、中学へ進学した子どもたちが部活動との兼ね合いでなかなかCSにこれないのが現状です。ですから、一人一人の子どもやその保護者との結びつきを大切に、長い目で見ながら、スタッフは根気よく導いております。

毎月定例的のCSの活動は、まず、月



7月のキャンプ

はみことばカードを見ながら言ってもいいのですが、小学生以上は暗唱。毎週暗唱する度に1ポイントずつ可愛いポイントカードをもらいます。各自それを入れるお財布ももっており、大切なポイントを貯めています。たくさんポイントを貯めたら、それがプレゼントと交換できます。5ポイントで文具セット。20ポイントで特大丸ケーキ。40ポ



9月の芋ほり

イントで聖書。50ポイントは新聖歌です。中にはお母さんのお誕生日に丸いケーキを贈るのだと頑張つて、本当にプレゼントしたお友達も。ほほえましいエピソードです。毎週心を燃やしてみ言葉を暗唱する子どもたち。その結果、名谷CSの子どもたちの多くはポイントを集めてもらった自分の聖書を持っています。ポイントでもらった聖書や新聖歌を持って大人の礼拝へ！それが私たちの心からの願いです。

次に年間の活動について紹介します。4月にはイースターや進級式に加え「welcome party」をしています。新中学生を対象に、中学や高校の先輩たちとともに集い、これからの教会や学校生活の事を語り合います。小学校とは違うのだという意識を高めていくオープニングです。スタッフの手作りケーキにお祝いの心をこめてひらく楽しいひと時です。5月は母の日。プレゼント作りに加えて「母の日CS参観」をします。お母様方との接点を大切に考え、招待状やお電話などでお誘いし、子どもたちとの事を共に語りつつジュースで乾杯。なかなか好評です。6月は花の日。お花を持って様々な施設を訪ねます。7月はキャンプ。おそろいのTシャツを作るなどしつつ、以前は10年程教会独自で行っていましたが、現在は

教区の小学生キャンプに参加しています。しかし、「教区のキャンプ参加は小学生以上」との規定があるため、参加できない幼児のため今年はややキャンプをしました。日頃CSに来ることのできない中学生にもいい機会なので声をかけたところ、数名参加。先生のメッセージの後、皆でカレーを作り、かき氷、たこ焼き、焼きそば等、子どもと共に作って食しました。屋台村のようにして綿菓子や、ダーツ、輪投げ、魚釣りなどの出店を出した年もありましたが、いつも大好評です。食事の後は、大水鉄砲大会、皆びしよ濡れです。スイカ割り、風船バレーボール大会、我を忘れて子どもと遊ぶ。それが名谷流...というところでしょうか。9月は恒例のお芋ほり。信徒の方のご厚意で、庭先に育てていただいたお芋を掘らせていただきます。なんと、作り手は未信者のご主人。子どもの大好きなご主人との交流を通し、奥様と協力してご主人を教会へお誘いしています。11月は「Thanksgiving day party」。昨年は、子どもたちと豚汁を作り食しました。12月はクリスマス。子どもたちの大好きな季節です。クリスマス会は伝道を目的にしています。そこでテラシ等で広くアピールします。毎年子どもたちでハンドベルチームを結成し、練習に励み、CSクリスマス会や燭火礼拝で



クリスマス

演奏します。白いサプリを着たこども聖歌隊も登場します。また、クリスマス会では子どもたちが作った台本で聖誕劇もします。クリスマス会では様々な事を今までしてきましたが、印象に残っているのは参加者全員でのみ言葉早覚え大会。大ゲーム大会、ケーキのデコレーションコンテスト、ペープサートなどでしょうか。最後になりますが、名谷教会の大切な財産、人形劇チーム「ぼどなむ」について。「ぼどなむ」は韓国語。日本語の意味は「ぶどうの木」です。毎週木曜日に信徒が集い練習をしています。人形も手作り。温かい人形劇のチームです。クリスマスには、「ぼどなむ」による聖書や絵本から題材をとった人形劇の上演があり、子どもたちは本当に楽しみにしています。やっている大人たちも楽しいのですが、昨年は他教会の子どもクリスマスでも上演し、とても喜んでいただきました。



人形劇

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」「ぼどなむ」が名前のとおり実を結ぶ木となりますように。名谷教会CSが魂の実を結びますように。全国の教会のCSが豊かに実を結びますように。主にあって心から祈りつつ、スタッフ一同ますます御奉仕に励みたいと思います。(宮原弘美)

おわりに

『牧羊者』二〇〇五年度第四巻をお届けできますことを感謝します。執筆の方々は、特別伝道集会やクリスマス諸準備の中を執筆していただき心から感謝いたします。前号より「教師養成講座・新約聖書丸ごと早わかり」を、関西聖書神学校校長の工藤弘雄先生が執筆してくださり好評を得ております。また、次年度のカリキュラム解説をご覧になり、次年度の教会学校活動の計画に用いてください。今後も「牧羊者」が大いに用いられるように、引き続きお祈りください。

終わりに今号の執筆者を紹介いたします。

- 聖書講解 鎌野善三 金井 望
- 研究資料 足立 宏 石田 高保
- メッセージ例 小野 淳子 山田みち代 長谷川宣恵
- ワーク 鎌野 幸 木村 純子 長谷川宣恵
- 長尾 秀紀 加藤 清 上森 恭子
- 中高 科 小岩 裕一
- ラジカド 土屋 直子
- み言葉カード 陰山 恭子
- 子ども聖書目録 小野 淳子

また、監修をしてくださった鎌野善三師、小岩裕一師、沼澤恵師、打ち込みをしてくださった藤井正子師、青木美恵子師、楠淳子師、陰にあつてお手伝いくださった兄弟姉妹の方々、また、発送とワーク印刷をされた教団事務所とベラカ出版の方々、そして、印刷会社あくとさんに心から感謝いたします。(長谷川和雄)

聖書教育教案誌 牧羊者

二〇〇五年度 IV 巻

二〇〇五年十二月十日発行

発行所 有限会社 ベラカ出版
企画監修 日本イエスキリスト教団教会学校局
神戸市兵庫区塚本通三ー三一九
電話(〇七八)五七五ー五五一
FAX(〇七八)五七五ー六六一
印刷所 有限会社 あくと
電話(〇二九七)七八一五九三五
*日本聖書協会『口語訳聖書』使用許諾済み